

2018年度 L2-Tech水準表 Ver.1.01

2018年度 L2-Tech水準表 Ver.1.01 (2018年12月)

- 本水準表の作成にあたっては、カタログ等、企業が広く公表している資料及びWebページを中心に情報を収集し、当該技術に専門的知見を有する有識者からもご意見をいただきながら、科学技術的・客観的観点から情報を整理しています。
- 本水準表は、2018年12月までに収集した情報をもとに作成したものであり、今後も情報収集を継続するとともに、ご意見をいただき更新・充実させていく予定です。

項目		主な記載内容
L2-TechリストNo.		設備・機器等ごとにIDを付番。
区分		以下のように、エネルギー源を示した「部門」軸と、エネルギー技術を原理・しくみの違いで整理した「技術」軸に区分。 部門1 ：当該設備・機器等の導入可能性の高い部門 部門2 ：当該設備・機器等の利用可能性の高い用途、業種、プロセス、輸送手段、エネルギー種別 技術分類 ：設備・機器等のカテゴリ（基本的な原理・しくみの種別） ※参照：環境省「日本の約束草案要綱（案）」、国立環境研究所「日本国温室効果ガスインベントリ報告書」、エネルギー戦略協議会「エネルギー技術体系」、日本エネルギー経済研究所「エネルギー・経済統計要覧」
設備・機器等		設備・機器等（システム、設備・機器、部材等）の名称を記載。2050年までに80%の温室効果ガス削減という目標に向けて、環境省がCO2削減に重要と考える設備・機器等（カテゴリ）を、「CO2削減効果」及び「導入可能性」の観点で選定。
原理・しくみ		設備・機器等の原理・しくみ、またはCO2削減に資する原理・しくみの説明を記載。
クラス		認証の単位となるクラスを記載。購買の選択条件に応じて、条件（仕様、付加機能等）、及び能力（加熱能力、発電出力等）で分類。
認証対象		2017年度冬のL2-Tech認証制度において、募集対象となる設備・機器等を「○（または●*1）」、募集対象外の設備・機器等を「-（ハイフン）」として記載。 *1 簡易申請の対象となり得るクラス（条件・能力）に付与（詳細は、実施要領に記載）
L2-Tech水準表情報No.		クラスごとにIDを付番。
L2-Tech水準		L2-Tech水準を記載。本水準は、指定された試験条件に基づき測定された結果を、指定の計算方法によって算出した値である。本水準は、2018年1月時点における値であり、かつ収集できた情報のうち最高性能の値を採用している。なお、「*（アスタリスク）」が付与されているクラスは、根拠資料として試験結果報告書の提出を受付可能であることを示す。（詳細は、実施要領に記載）
指標	測定単位	L2-Tech水準の単位、及びその名称を記載。
	評価方法のタイプ	以下のいずれかから、効率性能の評価方法のタイプを記載。 標準規格による評価 ：JIS等の国際・日本標準の規格、または省エネ法等の法律に準拠した試験条件及び計算方法によって評価する方法 標準条件による評価 ：規格化されていないが一部で標準条件として用いられている、または標準として業界と合意した試験条件及び計算方法によって評価する方法 シミュレーションによる評価 ：標準条件に基づき、実試験ではなくコンピュータ上で模擬試験を行うことによって評価する方法 具備機能による評価 ：一定レベル以上の機能を具備しているものを評価する方法
	計算方法	性能の計算方法について、準拠すべき規格または具体的な方法を記載。
	試験条件	性能を評価するための試験条件について、準拠すべき規格または具体的な条件を記載。
備考		特記事項を記載。

記号の使用法

本水準表の中の「-」、「・」及び「/」は、下記を示す。

「-」：対象項目に該当する情報が存在しない、非対象、調査中、または調整中。

「・」：AND条件。例）空調機（ヒートポンプ・個別方式） → （ヒートポンプかつ個別方式の）空調機

「/」：OR条件。例）空調/産業用プロセス → 空調または産業用プロセス

2018年度L2-Tech水準表の正誤表

更新履歴

Ver. 1.01更新（2018年12月27日）：編集上の誤りのため修正

【2018年12月27日更新】

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	変更概要	正（赤字が修正箇所）						誤（取消線は削除）							
	部門1	部門2	技術分類			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	測定単位		その他	認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	測定単位		その他		
									単 位	名 称					単 位	名 称			
L-000902	業務その他	空調(A)	空調機器	フロン類等冷媒ターボ冷凍機	L2-Tech水準を修正	●	S-003505	9.42	*	-	期間成績係数(IPLV)	併せて、S-003506、S-003507、S-003509、S-003510の各水準を更新	●	S-003505	8.8	*	-	期間成績係数(IPLV)	-
L-000905	業務その他	空調(A)	空調機器	空冷ヒートポンプチラー	L2-Tech水準を修正	●	S-003301	6.4		-	期間成績係数(IPLV)	併せて、S-003305、S-003313、S-003315、S-003317、S-003334、S-003345、S-003346、S-003413、S-003415、S-003420、S-003421、S-003445の各水準を更新	●	S-003301	6.2		-	期間成績係数(IPLV)	-
L-000921	産業(業種共通)	製造プロセス(給湯)	産業ヒートポンプ	高温水ヒートポンプ(水熱源・循環式)	L2-Tech水準を修正	●	S-003622	3.9	*	-	成績係数(COP)	-	●	S-003622	3.8	*	-	成績係数(COP)	-
L-000675	産業(業種共通)	製造プロセス(給湯)	ボイラ	蒸気ボイラ(炉筒煙管ボイラ)	L2-Tech水準を修正	●	S-003755	96		-	ボイラ効率	-	●	S-003755	92		-	ボイラ効率	-
L-000690	業務その他	動力他(A)	コージェネレーション	ガスエンジンコージェネレーション	認証対象およびL2-Tech水準を修正	●	S-003804	41.6		-	発電効率	-	○	S-003804	40.3		-	発電効率	-
L-000691	業務その他	動力他(A)	コージェネレーション	ガスタービンコージェネレーション	L2-Tech水準を修正	●	S-003630	27.7		-	発電効率	併せて、S-003638、S-003650、S-003665、S-003667、S-003674の各水準を更新	●	S-003630	27.2		-	発電効率	-
L-000698	業務その他	照明	照明機器	LED照明器具	L2-Tech水準を修正	●	S-003842	175.7		-	固有エネルギー消費効率	併せて、S-003843の水準を更新	●	S-003842	157.2		-	固有エネルギー消費効率	-
L-000702	産業(業種共通)	製造プロセス(動力他)	産業用モータ	永久磁石同期モータ	L2-Tech水準を修正	●	S-004018	94.8		-	エネルギー消費効率	-	●	S-004018	93.5		-	エネルギー消費効率	-
L-000848	家庭	空調(D)	家庭用空調機器	ルームエアコン	L2-Tech水準を修正	●	S-004169	7.6		-	通年エネルギー消費効率(APF)	-	●	S-004169	7.4		-	通年エネルギー消費効率(APF)	-
L-000850	家庭	空調(D)	家庭用空調機器	ヒートポンプ式温水床暖房	L2-Tech水準を修正	●	S-004255	4.62	*	-	成績係数(COP)	-	●	S-004255	4.5	*	-	成績係数(COP)	-
L-000857	家庭	給湯(D)	家庭用給湯器	ハイブリッド給湯機(家庭用)	L2-Tech水準を修正	●	S-004446	142.3		-	年間給湯効率	併せて、S-004448の水準を更新	●	S-004446	141		-	年間給湯効率	-
L-000788	エネルギー転換	太陽光発電	太陽光発電技術	太陽電池(化合物系)	L2-Tech水準を修正	●	S-004445	15.1	%		モジュール変換効率	-	●	S-004445	14.2	%		モジュール変換効率	-
L-000803	エネルギー転換	地熱発電	地熱発電技術	温水熱源小型バイナリー発電設備	L2-Tech水準を修正	●	S-004459	6.2	*	%	送電端発電効率	併せて、S-004404、S-004413、S-004416の水準を更新	●	S-004459	5.7	*	%	送電端発電効率	-
L-000804	エネルギー転換	地熱発電	地熱発電技術	蒸気熱源小型バイナリー発電設備	L2-Tech水準を修正	●	S-004390	10.97	*	%	送電端発電効率	-	●	S-004390	8.6	*	%	送電端発電効率	-

区分	L2-TechリストNo.	設備・機器等	(掲載数)
A 産業・業務 (業種共通)	空調機 (ヒートポンプ・個別方式)	L-000897 ガスヒートポンプ	(5)
		L-000898 パッケージエアコン(店舗・オフィス用)	
		L-000899 パッケージエアコン(設備用)	
		L-000900 パッケージエアコン(ビル用マルチ)	
	熱源・空調機 (ヒートポンプ・中央方式)	L-000901 水蓄熱式パッケージエアコン	(4)
		L-000902 フロン類等冷媒ターボ冷凍機	
		L-000903 自然冷媒ターボ冷凍機	
		L-000904 水冷ヒートポンプチラー	
	熱源・空調機 (ヒートポンプ・中央方式)・熱源補機	L-000905 空冷ヒートポンプチラー	(1)
		L-000907 水蓄熱ユニット	(1)
		L-000909 間接気化式冷却器	(1)
		L-000910 吸収冷水機 (二重効用)	(4)
	熱源・空調機 (吸着式・中央方式)	L-000911 吸収冷水機 (三重効用) / 廃熱投入型吸収冷水機 (三重効用)	
		L-000912 一重二重併用形吸収冷水機	
		L-000913 木質ペレット直焚き吸収冷水機 (二重効用)	
		L-000917 バッシブ地中熱利用システム	(1)
	熱源・空調機 (地中熱利用・中央方式)	L-000918 吸着式冷凍機	(1)
		L-000919 高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式)	(10)
		L-000920 高温水ヒートポンプ(空気熱源・一過式)	
		L-000921 高温水ヒートポンプ(水熱源・循環式)	
		L-000922 高温水ヒートポンプ(水熱源・一過式)	
		L-000923 高温水ヒートポンプ(水空気熱源・循環式)	
		L-000924 高温水ヒートポンプ(水空気熱源・一過式)	
		L-000290 熱風ヒートポンプ(空気熱源・一過式)	
		L-000895 熱風ヒートポンプ(水熱源・一過/循環式)	
		L-000896 蒸気発生ヒートポンプ(水熱源・一過式)	
		L-000668 蒸気再圧縮装置	
		L-000629 密閉式ベレットストーブ	(1)
		L-000670 ヒートポンプ給湯機(空気熱源)	(1)
		L-000672 潜熱回収型給湯器	(1)
		L-000611 温水機	(6)
		L-000600 蒸気ボイラ(真流ボイラ)	
		L-000675 蒸気ボイラ(伊箱煙管ボイラ)	
	L-000676 蒸気ボイラ(水管ボイラ)		
	L-000621 水素ボイラ (真流ボイラ)		
	L-000689 熱媒ボイラ		
	コージェネレーション	L-000690 ガスエンジンコージェネレーション	(3)
		L-000691 ガスタービンコージェネレーション	
		L-000692 燃料電池コージェネレーション	
冷凍冷蔵機器	L-000695 業務用冷凍冷蔵庫	(4)	
	L-000696 空気冷媒方式冷凍機		
	L-000697 冷凍冷蔵庫用自然冷媒冷凍機 (アンモニア/CO2二次冷媒システム)		
	L-000624 自然冷媒冷凍冷蔵コンデンシングユニット		
照明器具	L-000698 LED照明器具	(1)	
	L-000699 プリンタ/複写機	(2)	
モータ	L-000700 複合機		
	L-000701 誘導モータ	(2)	
変圧器	L-000702 永久磁石同期モータ		
	L-000719 油入変圧器	(2)	
モータ利用機器 (圧縮機)	L-000720 モールド変圧器		
	L-000716 蒸気駆動圧縮機	(2)	
窓	L-000717 熱回収式ねじ容積形圧縮機		
	L-000737 Low-E複層ガラス	(7)	
断熱材	L-000738 三層Low-E複層ガラス		
	L-000739 真空Low-E複層ガラス		
	L-000740 アタッチメント付きLow-E複層ガラス		
	L-000771 真空ガラス		
	L-000772 現場施工型後付けLow-E複層ガラス		
	L-000743 薄型Low-E複層ガラス		
洗濯機	L-000774 断熱材(押出法ポリスチレンフォーム)	(3)	
	L-000775 断熱材(グラスウール)		
エネルギー管理システム	L-000625 真空断熱材	(1)	
	L-000776 業務用ヒートポンプ式衣類洗濯乾燥機	(1)	
	L-000660 BEMS(制御サービス・空調・熱源・中央方式)	(1)	
	L-000616 蒸気リサイクル型濃縮乾燥装置	(1)	
	L-000666 サーバ用電子計算機	(1)	
	L-000704 オフロード特殊自動車(建設機械・内燃機関型)	(3)	
オフロード特殊自動車(建設機械・内燃機関型)	L-000705 油圧ショベル(内燃機関型)		
	L-000705 ブルドーザ(内燃機関型)		
	L-000706 ホイールローダ(内燃機関型)		

区分	L2-TechリストNo.	設備・機器等	(掲載数)
B 産業(業種固有)	L-000708 オフロード特殊自動車(建設機械・ハイブリッド型)	油圧ショベル(ハイブリッド型)	(1)
	L-000711 オフロード特殊自動車(建設機械・電気型)	油圧ショベル(電動型)	(2)
	L-000712 洗浄乾燥機	ブルドーザ(電動型)	
	L-000890 遠心脱水機コンテナ(容器)洗浄乾燥機		(1)
	L-000891 蒸留塔	内部熱交換最適化蒸留システム	(1)
	L-000892 乾燥機	熱回収式工業用繊維物乾燥機	(1)
	L-000893 熱処理機	熱回収式工業用繊維物乾燥機	(1)
	L-000894 自動車(内燃機関型)	ガソリン・ディーゼル車(乗用車)	(2)
	L-000630 自動車(ハイブリッド型)	ディーゼル・天然ガス車(商用車・重量車)	
	L-000632 自動車(電気型)	ハイブリッド自動車(乗用車)	(2)
C 運輸	L-000633 自動車(電気型)	ハイブリッド自動車(商用車・重量車)	
	L-000635 自動車(電気型)	電気自動車(乗用車)	(1)
	L-000848 空調機(ヒートポンプ)	ルームエアコン	(5)
	L-000849 ヒートポンプ冷水システム		
	L-000850 ヒートポンプ式温水床暖房		
	L-000851 ルームエアコン付温水床暖房		
	L-000852 マルチタイプ温水床暖房		
	L-000853 空調機(ヒートポンプ・地中熱利用)	地中熱ルームエアコン	(2)
	L-000854 空調機(ヒートポンプ・地中熱利用)	地中熱ヒートポンプ冷水システム(ハイブリッド式)	
	L-000534 空調機(ベレットストーブ)	密閉式ベレットストーブ(家庭用)	(1)
D 家庭	L-000643 給湯器(ヒートポンプ)	家庭用エコキュート	(2)
	L-000644 給湯器(ヒートポンプ・太陽熱利用)	多機能ヒートポンプ給湯機	
	L-000856 給湯器(ガス式)	太陽熱集熱器対応エコキュート	(1)
	L-000645 給湯器(ガス式)	ガス温水機器(エコジョーズ)	(1)
	L-000857 給湯器(ヒートポンプ・ガス式)	ハイブリッド給湯機(家庭用)	(1)
	L-000858 給湯器(石油式)	石油温水機器(エコフィール)	(1)
	L-000860 給湯器(太陽熱利用)	真空管形集熱器(強制循環型太陽熱給湯器用)(家庭用)	(3)
	L-000861 給湯器(太陽熱利用)	平板形集熱器(強制循環型太陽熱給湯器用)(家庭用)	
	L-000862 給湯器(太陽熱利用)	蓄熱槽(強制循環型太陽熱給湯器用)(家庭用)	
	L-000646 コージェネレーション	家庭用燃料電池(エネファーム・PEFC)	(2)
L-000647 家庭用燃料電池(エネファーム・SOFC)			
E エネルギー転換	L-000648 冷凍冷蔵機器	電気冷蔵庫	(1)
	L-000649 照明器具	LED照明器具(家庭用)	(1)
	L-000863 テレビ	液晶テレビ	(1)
	L-000842 洗濯機	洗濯乾燥機	(1)
	L-000864 電気便座	電気便座	(1)
	L-000650 窓	Low-E複層ガラス(家庭用)	(14)
	L-000651 窓	三層Low-E複層ガラス(家庭用)	
	L-000652 窓	真空Low-E複層ガラス(家庭用)	
	L-000653 窓	アタッチメント付きLow-E複層ガラス(家庭用)	
	L-000654 窓	真空ガラス(家庭用)	
F 廃棄物・リサイクル	L-000655 現場施工型後付けLow-E複層ガラス(家庭用)		
	L-000656 薄型Low-E複層ガラス(家庭用)		
	L-000657 Low-E複層ガラス・樹脂サッシ		
	L-000658 Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ		
	L-000659 三層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ		
	L-000835 三層Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ		
	L-000836 五層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ		
	L-000837 真空ガラス・樹脂サッシ		
	L-000838 真空ガラス・アルミ樹脂複合サッシ		
	L-000609 玄関ドア	金属製玄関ドア	(1)
断熱材	L-000839 断熱材(家庭用・押出法ポリスチレンフォーム)		
	L-000840 断熱材(家庭用・グラスウール)		
	L-000520 真空断熱材(家庭用)		
	L-000846 エネルギーマネジメントシステム	HEMS(情報提供サービス・家電全般)	(1)
	L-000780 燃料電池	固体酸化燃料電池(SOFC)設備	(1)
	L-000786 太陽光発電	太陽電池(シリコン系・単結晶)	(6)
	L-000787 太陽光発電	太陽電池(シリコン系・多結晶)	
	L-000788 太陽光発電	太陽電池(化合物系)	
	L-000789 太陽電池(薄膜シリコン)		
	L-000790 太陽電池(トランジスタ方式)パワーコンディショナ(太陽光発電用)		
水力発電	L-000791 高周波変圧器絶縁方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)		
	L-000798 プロペラ水車(小水力発電用)		
	L-000799 フランシス水車(小水力発電用)		
	L-000803 地熱発電	温水熱源小型バイナリー発電設備	(2)
	L-000804 地熱発電	蒸気熱源小型バイナリー発電設備	
	L-000807 バイオマス発電	ガスエンジン発電設備(メタン発酵発電用)	(1)
熱輸送	L-000808 熱輸送	潜熱蓄熱輸送設備	(1)
	L-000829 リン回収設備	リン回収設備MAP法(し尿・浄化槽汚泥用)	(3)
	L-000830 リン回収設備	リン回収設備MAP法(し尿・浄化槽汚泥用)	
	L-000831 リン回収設備	リン回収設備MAP法(下水汚泥用)	
L-000833 選別機	近赤外線樹脂選別機	(1)	

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
														単位	名称	標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格
L-000897	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	ガスヒートポン プ	室外機内のコンプレッサの駆動をガスエンジンで行うヒートポン プ方式の空調和機。	相当馬力数	7.5HP以下	• S-003275	1.19	-	COPp	標準規格 による評 価	-	-	COPp=(Ccr+Chr)/2 Ccr=Φ cr/(Gcr+Pcr(3600/9760)), Chr=Φ cr/(Ghr+Phr(3600/9760)) Ccr:冷房成績係数 Chr:暖房成績係数 Φcr:定格冷房標 準ガス消費量(kW) Gcr:定格冷房標 準消費電力(kW) Pcr:定格冷房標 準消費電力(kW) Φhr:定格暖房標 準ガス消費量(kW) Ghr:定格暖房標 準消費電力(kW) Phr:定格暖房標 準消費電力(kW) ※COPpは、小数点3 桁目を切捨て、小数点2桁目までを表示する。	JRA4067:201 5または JISB8627:20 06	いずれもガ スヒートポン プ冷暖房機	JRA4067:2015またはJISB8627:2 006に準拠。ただし、電源の周波数は、50Hzとす る。	
							7.5HP超10HP以下	• S-003276	1.22										
							10HP超16HP以下	• S-003277	1.33										
							16HP超25HP以下	• S-003278	1.34										
							25HP超	• S-003279	1.3										
7.5HP以下	• S-003300	-	期間成績係 数 (APFp)	標準規格 による評 価	JISB8627:20 15	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:20 15	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠									
7.5HP超10HP以下	• S-003280	1.39																	
10HP超16HP以下	• S-003281	1.86																	
16HP超25HP以下	• S-003282	1.98																	
25HP超	• S-003283	1.91																	

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法		準拠する規格	規格の名称	試験条件	説明
																計算式	単位				
					寒冷地仕様	相当馬力数	7.5HP以下	• S-003284	1.19	-	COPp	標準規格 による評 価	-	-	$COPp = (Ccr + Chr) / 2$ $Ccr = \Phi cr / (Gcr + Pcr(3600/9760))$, $Chr = \Phi cr / (Ghr + Phr(3600/9760))$ Ccr: 冷房成績係数 Chr: 暖房成績係数 Φcr: 定格冷房標準能力(kW) Φhr: 定格暖房標準能力(kW) Gcr: 定格冷房標準 消費電力(kW) Pcr: 定格冷房標準 消費電力(kW) Ghr: 定格暖房標準 消費電力(kW) Phr: 定格暖房標準 消費電力(kW) ※COPpは、小数点3 桁目を切捨て、小数点2桁目までを表示する。	JRA4067:2015または JISB8627:2006	JRA4067:2015または JISB8627:2006	いずれもガ スヒートボ ンプ冷暖房 機	JRA4067:2015または JISB8627:2006に準拠。ただ し、電源の周波数は、50Hzとする。		
							7.5HP超10HP以下	• S-003285	1.22												
							10HP超16HP以下	• S-003286	1.34												
							16HP超25HP以下	• S-003287	1.34												
							25HP超	• S-003288	1.27												
							7.5HP以下	- S-003302	-	-	期間成績係 数 (APFp)	標準規格 による評 価	JISB8627:2015	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:2015	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠			
							7.5HP超10HP以下	• S-003289	1.39												
							10HP超16HP以下	○ S-003290	1.86												
							16HP超25HP以下	• S-003291	1.93												
							25HP超	• S-003292	1.85												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	標準する規格	規格の名称	計算方法		試験条件			
																単位	名称		計算式	規格の名称	試験条件
				発電機付	相当馬力数	7.5HP以下	-	S-003304	-	-	-	COPp	標準規格 による評 価	-	-	$COPp = (Ccr + Chr) / 2$ $Ccr = \Phi cr / (Gcr + Pcr(3600/9760))$ 、 $Chr = \Phi cr / (Ghr + Pcr(3600/9760))$ Ccr: 冷房成績係数 Chr: 暖房成績係数 Φcr: 定格冷房標準消費電力(kW) Φhr: 定格暖房標準消費電力(kW) Gcr: 定格冷房標準ガス消費電力(kW) Ghr: 定格暖房標準ガス消費電力(kW) Pcr: 定格冷房標準消費電力(kW) Phr: 定格暖房標準消費電力(kW) ※COPpは、小数点3桁目を切捨て、小数点2桁目までを表示する。	JRA4067:2015またはJISB8627:2006	いずれもガスヒートポンプ冷暖房機	JRA4067:2015またはJISB8627:2006に準拠。ただし、電源の周波数は、50Hzとする。		
						7.5HP超10HP以下	-	S-003307	-												
						10HP超16HP以下	•	S-003293	1.34												
						16HP超25HP以下	•	S-003294	1.34												
						25HP超	•	S-003296	1.27												
						7.5HP以下	-	S-003308	-	-	-	期間成績係数 (APFP)	標準規格 による評 価	JISB8627:2015	ガスヒートポンプ冷暖房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:2015	ガスヒートポンプ冷暖房機	JISB8627:2015に準拠		
						7.5HP超10HP以下	-	S-003309	-												
						10HP超16HP以下	•	S-003295	1.86												
						16HP超25HP以下	•	S-003297	1.97												
						25HP超	•	S-003299	1.91												

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス				認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)	評価 対象				L2-Tech 水準	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
														単位	名称		標準規格 による評 価	標準規格 による評 価	標準規格 による評 価	標準規格 による評 価				
L-000898	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	パッケージエ アコン(店 舗・オ フィス 用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空気調和機で、冷房能力が4 ~28kW程度。主に店舗・オフィス向け。	冷房能力	4.0kW以下	○	S-003311	8.1	-	通年エネル ギー消費効 率 (APF)	標準規格 による評 価	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠					
							4.0kW超 5.0kW以下	○	S-003316	7.9														
							5.0kW超 6.3kW以下	○	S-003318	8.1														
							6.3kW超 11.2kW以下	○	S-003389	7.3														
							11.2kW超 16.0kW以下	●	S-003396	6.7														
					16.0kW超	○	S-003398	6.3																
L-000899	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	パッケージエ アコン(設 備用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空気調和機で、冷房能力が9 ~140kW程度。主に工場向け。	冷房能力	28kW以下	●	S-003404	4.8	-	通年エネル ギー消費効 率 (APF)	標準規格 による評 価	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠					
							28kW超 45kW以下	●	S-003410	4.2														
							45kW超 56kW以下	●	S-003414	4														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件									
														単位	名称	準拠する規程	規程の名称	準拠する規程	規程の名称	説明					
						56kW超 80kW以下	• S-003417	3.9																	
						80kW超 112kW以下	• S-003423	3.5																	
						112kW超 140kW以下	• S-003426	3.5																	
						140kW超	• S-003431	3.5																	
						換熱利用型 冷房能力	○ S-003440	6.1	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8615-2	エアコン ディショナ ー第2部: ダクト接続 型エアコン ディショナ 及び空気対 空気ヒート ポンプ一定 格性能及び 運転性能試 験方法	JISB8615-2に準拠	JISB8615-2	エアコン ディショナ ー第2部: ダクト接続 型エアコン ディショナ 及び空気対 空気ヒート ポンプ一定 格性能及び 運転性能試 験方法	JISB8615-2に準拠。ただし、ユニット吸込温度に ついては55℃とする。								
L-000900	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	パッケージア コン(ビル用マ ルチ)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空気調和機で、冷房能力が 14~120kW程度。主にビル向け。室内機ごとの個別制御機能を持 つ。	冷房能力	○ S-003444	6.7	-	通年エネル ギー消費効 率 (APF)	標準規格 による評 価	JISB8616.20 15	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616.2015に準拠	JISB8616.20 15	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616.2015に準拠								
						14.0kW以下	• S-003448	6																	
						14.0kW超 16.0kW以下	• S-003448	6																	
						16.0kW超 22.4kW以下	• S-003453	6.5																	
						22.4kW超 28.0kW以下	• S-003458	6.3																	

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標															
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測 定 単 位	評価方法の タイプ	計算方法			試験条件										
														単 位	名 称	計算式	準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明					
						28.0kW超 33.5kW以下	• S-003462	6.4																			
						33.5kW超 40.0kW以下	• S-003468	6.2																			
						40.0kW超 56.0kW以下	• S-003469	6.5																			
						56.0kW超 69.0kW以下	• S-003470	6.4																			
						69.0kW超 80.0kW以下	• S-003471	6.5																			
						80.0kW超 90.0kW以下	• S-003472	6.4																			
						90.0kW超	• S-003473	6.4																			
L-000901	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	水蓄熱式パ ッケージエ アコン	パッケージエアコンの室外ユニットと室内ユニットの間に水蓄熱槽を持っており、夜間の冷房を使っていない時間帯に、水蓄熱槽の熱交換器で水を作り、昼間の冷房運転時には、室外ユニットを通った冷媒を水蓄熱槽の熱交換器でさらに冷やしてから室内機に送ることによって利用する。2050年に向けた再生可能エネルギー発電の最大活用に資することが期待される。	蓄熱利用冷房能力	• S-003474	3.64	-	日量蓄熱利 用冷房効率	標準規格 による評 価	JRA4053:20 07	水蓄熱式 パッケージ エアコン ディシヨナ	JRA4053:2007に準拠	JRA4053:20 07	水蓄熱式 パッケージ エアコン ディシヨナ	JRA4053:2007に準拠										
						14.0kW超16.0kW以下	• S-003475	-																			

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件								
												単 位	名 称		参照する規程	規程の名称	参照する規程	規程の名称	説 明						
						16.0kW超22.4kW以下	-	S-003476	-																
						22.4kW超28.0kW以下	-	S-003477	-																
						28.0kW超45.0kW以下	-	S-003481	-																
						45.0kW超56.0kW以下	-	S-003485	-																
						56.0kW超80.0kW以下	-	S-003486	-																
						80.0kW超112.0kW以下	-	S-003491	-																
						112.0kW超	•	S-003500	2.6																
L-000902	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機 (ヒート ポンプ・ 中央方 式)	フロン類等冷媒 ターボ冷凍機	蒸発器、圧縮機、凝集機、弁からなる。蒸発器内の冷媒を高発させ蒸発器内のパイプの中の循環水を冷やし、冷水として取り出して使用する機器。蒸発した冷媒は圧縮機で昇圧され、凝集器内の冷却水で凝縮され液体に戻る。HFC冷媒またはHFO冷媒を使用している。	冷却能力	200RT未満	• S-003504	6.7 *	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠		JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠						
							200RT以上300RT未満	• S-003505	9.42 *																
							300RT以上400RT未満	• S-003506	9.43 *																

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
												単位	名称		基準する規程	規程の名称	計算式	基準する規程	規程の名称	説明	
						400RT以上500RT未満	• S-003507	9.57 *													
						500RT以上600RT未満	• S-003509	9.42 *													
						600RT以上700RT未満	• S-003510	9.55 *													
						700RT以上1000RT未満	• S-003511	9.1 *													
						1000RT以上1500RT未満	• S-003512	9.29 *													
						1500RT以上	• S-003513	9.29 *													
						200RT未満	• S-003514	6.04 *		-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8621:2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠		JISB8621:2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠		
						200RT以上300RT未満	• S-003515	6.32 *													
						300RT以上400RT未満	• S-003516	6.31 *													
						400RT以上500RT未満	• S-003517	6.6 *													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件						
														単位	名称	参照する規程	規程の名称	計算式	参照する規程	規程の名称	説明	
							500RT以上600RT未満	• S-003518	6.5 *													
							600RT以上700RT未満	• S-003519	6.29 *													
							700RT以上1000RT未満	• S-003520	6.4 *													
							1000RT以上1500RT未満	• S-003521	6.5 *													
							1500RT以上	• S-003522	6.5 *													
L-000903	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機 (ヒート ポンプ・ 中央方 式)	自然冷媒ターボ 冷凍機	蒸発器、圧縮機、凝集器、弁からなる。蒸発器内の冷媒を蒸発させ蒸発器内のパイプの中の循環水を冷やし、冷水として取り出して使用する機器。蒸発した冷媒は圧縮機で昇圧され、凝集器内の冷却水で凝縮され液体に戻る。従来はHFC冷媒が使用されるケースが多いが、本設備・機器等は自然冷媒である水が使用されている。公共スペース、地下街、及び医療機関での使用が期待されている。	冷却能力	200RT未満 300RT以上400RT未満	• S-003523 - S-003524	7.36 * -	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠				
L-000904	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機 (ヒート ポンプ・ 中央方 式)	水冷ヒートポン プチャラー	水を熱源としたヒートポンプ方式の水冷式チリングユニット。	冷却能力	40.0kW以下 40.0kW超80.0kW以下 80.0kW超118.0kW以下 118.0kW超180.0kW以下 180.0kW超500.0kW以下	• S-003525 • S-003526 • S-003527 • S-003528 ○ S-003529	4.48 4.21 5.41 5.28 5.57	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォーターチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォーターチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠				

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
														単位	名称	基準する規程	規程の名称	計算式	基準する規程	規程の名称	説明		
						500.0kW超1000.0kW以下	• S-003530	6															
						1000.0kW超1500.0kW以下	○ S-003531	5.22															
					ブライン仕様、ブライン入口温度3℃、ブライン出口温度0℃	冷却能力	40.0kW以下	• S-003532	3.28	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については3℃、ブライン出口温度については0℃とする。					
						40.0kW超80.0kW以下	• S-003533	2.65															
						80.0kW超118.0kW以下	- S-003534	-															
						118.0kW超180.0kW以下	- S-003535	-															
						180.0kW超500.0kW以下	- S-003538	-															
						500.0kW超1000.0kW以下	- S-003543	-															
						1000.0kW超1500.0kW以下	- S-003544	-															
					ブライン仕様、ブライン入口温度-3℃、ブライン出口温度-7℃	冷却能力	40.0kW以下	○ S-003547	2.24	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については-3℃、ブライン出口温度については-7℃とする。					
						40.0kW超80.0kW以下	○ S-003552	2.61															
						80.0kW超118.0kW以下	○ S-003556	2.54															
						118.0kW超180.0kW以下	○ S-003558	2.53															
						180.0kW超500.0kW以下	○ S-003559	2.49															
						500.0kW超1000.0kW以下	- S-003566	-															
						1000.0kW超1500.0kW以下	- S-003569	-															
L-000905	産業・業務(兼種共通)	空調/産業用プロセス	熱源・空調機(ヒートポンプ・中央方式)	空冷ヒートポンプチャラー	空気を熱源としたヒートポンプ方式の空冷式チリングユニット。	60.0kW以下	- S-003298	-			-	期間成績係数(IPLV)	標準規格による評価	JRA4066:2014	ウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:2014	ウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠				
						60.0kW超90.0kW以下	• S-003301	6.4															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
														単 位	名 称	基準する規程	規程の名称	計算式	基準する規程	規程の名称	注 明		
						90.0kW超120.0kW以下	●	S-003303	6														
						120.0kW超160.0kW以下	●	S-003305	5.7														
						160.0kW超	●	S-003306	5.3														
						60.0kW以下	○	S-003310	3.85	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠					
						60.0kW超90.0kW以下	●	S-003313	4.07														
						90.0kW超120.0kW以下	○	S-003314	4														
						120.0kW超160.0kW以下	●	S-003315	3.56														
						160.0kW超	●	S-003317	4.3														
					出口温度60℃	加熱能力	60.0kW以下	-	S-003319	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、出口温度は60℃とする。				
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-003320	-														
						90.0kW超120.0kW以下	●	S-003321	2.51														
						120.0kW超160.0kW以下	●	S-003322	2.58														
						160.0kW超	○	S-003323	2.54														
					ブライン仕様、ブライン入 口温度0℃、ブライン出口 温度-5℃	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003324	-	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度については0℃、ブライン 出口温度については-5℃とする。				
						60.0kW超90.0kW以下	○	S-003325	2.84														
						90.0kW超120.0kW以下	○	S-003326	2.52														
						120.0kW超160.0kW以下	○	S-003327	2.64														
						160.0kW超	○	S-003328	2.79														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス				L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)	認証 対象			測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		説明	
														単位	名称	準拠する規格	規格の名称		準拠する規格
					ブライン仕様、ブライン入口温度0℃、ブライン出口温度-5℃、散水式	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003329	-	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウオータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウオータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については0℃、ブライン出口温度については-5℃とする。
							60.0kW超90.0kW以下	○	S-003330	2.9									
							90.0kW超120.0kW以下	○	S-003331	2.75									
							120.0kW超160.0kW以下	-	S-003332	-									
							160.0kW超	-	S-003333	-									
					ブライン仕様、ブライン入口温度-2℃、ブライン出口温度-5℃	冷却能力	60.0kW以下	●	S-003334	2.78	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウオータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウオータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については-2℃、ブライン出口温度については-5℃とする。
							60.0kW超90.0kW以下	○	S-003335	2.71									
							90.0kW超120.0kW以下	○	S-003336	2.72									
							120.0kW超160.0kW以下	○	S-003337	2.63									
							160.0kW超	○	S-003338	2.72									
					ブライン仕様、ブライン入口温度3℃、ブライン出口温度0℃	冷却能力	60.0kW以下	●	S-003339	2.45	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	いずれもウオータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウオータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については3℃、ブライン出口温度については0℃とする。
							60.0kW超90.0kW以下	-	S-003340	-									
							90.0kW超120.0kW以下	-	S-003341	-									
							120.0kW超160.0kW以下	-	S-003342	-									
							160.0kW超	-	S-003343	-									
					ブライン仕様、ブライン入口温度-3℃、ブライン出口温度-7℃	冷却能力	60.0kW以下	●	S-003344	2.39	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	いずれもウオータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウオータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については-3℃、ブライン出口温度については-7℃とする。
							60.0kW超90.0kW以下	●	S-003345	2.36									
							90.0kW超120.0kW以下	●	S-003346	2.25									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				期間成績係 数(IPLV)	標準規格 による評 価	標準する規程	規程の名称	計算方法		試験条件					
																単位	名称	計算式	標準する規程	規程の名称	説明		
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-003347	-														
						160.0kW超	-	S-003348	-														
					寒冷地仕様	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003349	-			期間成績係 数(IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠			
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-003350	-														
						90.0kW超120.0kW以下	-	S-003351	-														
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-003352	-														
						160.0kW超	-	S-003353	-														
						60.0kW以下	-	S-003354	-				成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠			
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-003355	-														
						90.0kW超120.0kW以下	-	S-003356	-														
						120.0kW超160.0kW以下	●	S-003358	2.89														
						160.0kW超	-	S-003357	-														
					出口温度60℃ 寒冷地仕様	加熱能力	60.0kW以下	-	S-003359	-			成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。た だし、出口温度は60℃とする。			
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-003360	-														
						90.0kW超120.0kW以下	○	S-003361	2.02														
						120.0kW超160.0kW以下	○	S-003362	2.04														
						160.0kW超	○	S-003363	2														
					寒冷地仕様、散水式	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003364	-			期間成績係 数(IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
												単 位	名 称		参照する規程	規程の名称	計算式	参照する規程	規程の名称	説 明				
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-003365	-															
						90.0kW超120.0kW以下	-	S-003366	-															
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-003367	-															
						160.0kW超	-	S-003368	-															
						60.0kW以下	-	S-003373	-															
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-003371	-															
						90.0kW超120.0kW以下	-	S-003370	-															
						120.0kW超160.0kW以下	•	S-003374	3.79															
						160.0kW超	-	S-003369	-															
					散水式	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003375	-														
						60.0kW超90.0kW以下	•	S-003376	6.6															
						90.0kW超120.0kW以下	•	S-003377	6.4															
						120.0kW超160.0kW以下	•	S-003378	6.1															
						160.0kW超	•	S-003379	6															
						60.0kW以下	○	S-003380	4.86															
						60.0kW超90.0kW以下	•	S-003381	6.2															
						90.0kW超120.0kW以下	•	S-003382	5.46															
						120.0kW超160.0kW以下	○	S-003383	4.86															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
														単位	名称	基準する規程	規程の名称	計算式	基準する規程	規程の名称	説明		
						160.0kW超	○	S-003384	6														
					熱水式、冷水出入口温度差7℃	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003385	-	-	期間成績係数 (IPLV)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。				
						60.0kW超 90.0kW以下	●	S-003386	7														
						90.0kW超 120.0kW以下	●	S-003387	6.7														
						120.0kW超 160.0kW以下	●	S-003388	6.5														
						160.0kW超	●	S-003391	6.3														
						60.0kW以下	○	S-003392	5.04		-	成績係数 (COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。				
						60.0kW超 90.0kW以下	●	S-003395	6.39														
						90.0kW超 120.0kW以下	●	S-003397	5.65														
						120.0kW超 160.0kW以下	○	S-003393	5.04														
						160.0kW超	○	S-003394	6.3														
					冷水出入口温度差7℃	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003399	-	-	期間成績係数 (IPLV)	標準規格による評価	JRA4066:2014	ウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:2014	ウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。				
						60.0kW超 90.0kW以下	●	S-003400	6														
						90.0kW超 120.0kW以下	●	S-003401	5.9														
						120.0kW超 160.0kW以下	●	S-003402	5.7														
						160.0kW超	●	S-003403	5.6														
						60.0kW以下	○	S-003405	4		-	成績係数 (COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。				
						60.0kW超 90.0kW以下	●	S-003406	4.13														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件				
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明		
						90.0kW超120.0kW以下	●	S-003407	3.86													
						120.0kW超160.0kW以下	●	S-003408	3.5													
						160.0kW超	○	S-003409	3.22													
					冷房専用	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003411	-			期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JRA4066:2014に準拠 JRA4066:2014に準拠。		
						60.0kW超90.0kW以下	●	S-003412	5.7													
						90.0kW超120.0kW以下	●	S-003413	6													
						120.0kW超160.0kW以下	●	S-003415	5.6													
						160.0kW超	●	S-003416	5.3													
						60.0kW以下	●	S-003418	3.67				成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JRA4066:2014に準拠 JRA4066:2014に準拠。		
						60.0kW超90.0kW以下	●	S-003419	4.07													
						90.0kW超120.0kW以下	●	S-003420	3.81													
						120.0kW超160.0kW以下	●	S-003421	4													
						160.0kW超	○	S-003422	5.3													
					冷房専用、プライン仕様、 プライン入口温度+2℃、プ ライン出口温度-5℃	冷却能力	60.0kW以下	●	S-003424	2.78			成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、プライン入口温度については+2℃、プライン 出口温度については-5℃とする。		
						60.0kW超90.0kW以下	○	S-003425	2.71													
						90.0kW超120.0kW以下	○	S-003427	2.72													
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-003428	-													
						160.0kW超	-	S-003429	-													

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス				L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)	認証 対象			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
												単位	名称		標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称	試験条件	説明
						冷房専用、散水式	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003430	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。
								60.0kW超90.0kW以下	•	S-003432	6.6									
								90.0kW超120.0kW以下	•	S-003433	6.4									
								120.0kW超160.0kW以下	•	S-003434	6.1									
								160.0kW超	•	S-003435	6									
								60.0kW以下	○	S-003438	4.86	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。
								60.0kW超90.0kW以下	•	S-003439	6.2									
								90.0kW超120.0kW以下	•	S-003441	5.46									
								120.0kW超160.0kW以下	○	S-003437	4.86									
								160.0kW超	○	S-003436	6									
						冷房専用、冷水出入口温度 差7℃	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003442	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	•	S-003443	6									
								90.0kW超120.0kW以下	•	S-003445	6									
								120.0kW超160.0kW以下	•	S-003446	5.7									
								160.0kW超	•	S-003447	5.6									
								60.0kW以下	○	S-003449	4.01	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	•	S-003451	4.09									
								90.0kW超120.0kW以下	○	S-003452	3.86									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件								
														単位	名称	準拠する規程	規程の名称	計算式	準拠する規程	規程の名称	説明			
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-003454	3.5															
						160.0kW超	-	S-003455	3.22															
					冷房専用、冷水出入口温度差7℃、放水式	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003456	-	-	期間成績係数 (IPLV)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。					
						60.0kW超90.0kW以下	•	S-003457	7															
						90.0kW超120.0kW以下	•	S-003459	6.7															
						120.0kW超160.0kW以下	•	S-003460	6.5															
						160.0kW超	•	S-003461	6.3															
						60.0kW以下	○	S-003463	5.04			成績係数 (COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。					
						60.0kW超90.0kW以下	•	S-003464	6.39															
						90.0kW超120.0kW以下	•	S-003465	5.65															
						120.0kW超160.0kW以下	○	S-003466	5.04															
						160.0kW超	○	S-003467	6.3															
L-000907	産業・業務 (業種共通)	空調	熱源・空調機 (ヒートポンプ・中央方式)・熱源補機	水蓄熱ユニット	中央方式の空調機における熱源機とは別に水蓄熱槽を持っており、夜間の冷房を使っていない時間帯に、水蓄熱槽の熱交換器で水を作り、昼間の冷房運転時には、室外ユニットを通った冷媒を水蓄熱槽の熱交換器でさらに冷やしてから室内機に送ることによって利用する。2050年に向けた再生可能エネルギー発電の最大活用に資することが期待される。	定格日量冷却能力	1000kWh以下	-	S-003478	-	-	日量成績係数	標準規格による評価	JRA4044:2005	水蓄熱ユニット	JRA4044:2005に準拠	JRA4044:2005	水蓄熱ユニット	JRA4044:2005に準拠					
						1000kWh超2000kWh以下	-	S-003479	-															
						2000kWh超3000kWh以下	-	S-003480	-															
						3000kWh超4000kWh以下	-	S-003482	-															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件						
												単位	名称		準拠する規程	規程の名称	計算式	準拠する規程	規程の名称	説明			
						4000kWh超5000kWh以下	-		S-003483	-													
						5000kWh超	-		S-003484	-													
L-000909	産業・業 務(業種 共通)	空調	熱源・空 調機(気 化式・中 央方式)	間接気化式冷却 器	間接気化式冷却器は、隔壁で仕切られたDRY流路とWET流路を多 数積層した構造からなる。WET側の隔壁面は水を浸した湿潤壁で ある。ここでDRY流路に高温空気をWET流路には低温空気又は常 温空気を流すことで、WET流路で気化熱現象を生じさせ、隔壁の 温度が低下するため隣り合うDRY流路を流れる空気の熱が隔壁に 伝達し絶対湿度の移行がなく冷却される。この冷却に用いるエネ ルギーは搬送動力と気化蒸発に使用する水のためのため、省エネ性 が高く、CO2排出量を削減できる機器である。既に食品工場・生 産工場・ショッピングセンターを中心に導入が進んでおり、今後 データセンター向けに更なる普及が期待される。	冷房能力	14.0kW以下	•	S-003487	34.4 *	-	成績係数 (COP)	シミュ レーショ ンによる 評価	JRA4066:201 4	ウォーターチ リングユ ニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:201 4及び JISB8615-2: 2015	ウォーターチ リングユ ニット及び エアコン ディショナ 第2.ダクト 接続型エア コンディ ショナと空 気対空気 ヒートポン プ 定格性能 及び運転性 能試験	JRA4066:2014及びJISB8615-2: 2015に準拠				
						14.0kW超16.0kW以下	•	S-003488	34.5 *														
						16.0kW超22.4kW以下	•	S-003489	34.8 *														
						22.4kW超28.0kW以下	•	S-003490	34.9 *														
						28.0kW超33.5kW以下	•	S-003492	34.9 *														
						33.5kW超40.0kW以下	•	S-003493	35 *														
						40.0kW超60.0kW以下	•	S-003494	35.2 *														
						60.0kW超80.0kW以下	•	S-003495	35 *														
						80.0kW超100.0kW以下	•	S-003496	35.1 *														
						100.0kW超120.0kW以下	•	S-003497	35.2 *														
						120.0kW超140.0kW以下	•	S-003498	35.1 *														
						140.0kW超160.0kW以下	•	S-003499	35.1 *														
						160.0kW超200.0kW以下	•	S-003501	35.1 *														
						200.0kW超240.0kW以下	•	S-003502	35.1 *														
						240.0kW超280.0kW以下	•	S-003503	35.1 *														

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
														単位	名称	標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称
						分流量型	冷却能力	14.0kW以下	○	S-004500	11.1 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	JRA4066:201 4およびJIS B 8615-2	ウォータチ リングユニ ットおよび エアコン ディショナ	標準条件による評価	JRA4066:201 4およびJIS B 8615-2	ウォータチ リングユニ ットおよび エアコン ディショナ	日本冷凍空調工業会、又は日本規格協会の指定の 規格によって試験および効率の計算を行う。 ただし、本設備は水循環としながらもヒートポン プがないため、一部仕様での試験条件とし、新た な試験項目は追加する。 【空気条件】 JIS B 8615-2 P8 表2-冷房能力試験条件よ り、気候の温和な地域に対する温度条件 (T1) の 場合とする 【試験条件】 COP算出=冷却能力÷定格消費電力とする 冷却能力=D R Y側空気の質量流出と出入口 比エンタルピー差の積
								14.0kW超16.0kW以下	○	S-004501	11 *									
								16.0kW超22.4kW以下	○	S-004502	11 *									
								22.4kW超28.0kW以下	○	S-004503	11.1 *									
								28.0kW超33.5kW以下	○	S-004504	11 *									
								33.5kW超40.0kW以下	○	S-004505	11 *									
								40.0kW超60.0kW以下	○	S-004506	11 *									
								60.0kW超80.0kW以下	○	S-004507	11 *									
								80.0kW超100.0kW以下	○	S-004508	11 *									
								100.0kW超120.0kW以下	○	S-004509	11 *									
								120.0kW超140.0kW以下	○	S-004510	11 *									
								140.0kW超160.0kW以下	○	S-004511	11 *									
								160.0kW超200.0kW以下	○	S-004512	11 *									
L-000910	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセ ス	熱源・空 調機(吸 収式・中 央方式)	吸収冷凍水機 (二重効用)	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用 して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、 高温、低温再生器を有するもの。	節電型(冷却水量原単位 0.7m3/h、RT以下)、冷水入 口温度15℃、冷水出口温度 7℃	冷房能力	80RT以下	○	S-003536	1.48 *	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠
								80RT超1000RT以下	●	S-003539	1.48 *									
								1000RT超	○	S-003537	1.41 *									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	試験条件	説明	
						冷水入口温度12℃、冷水出口温度7℃	冷房能力	80RT以下	○	S-003541	1.48	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	
								80RT超1000RT以下	●	S-003540	1.48											
								1000RT超	○	S-003542	1.46											
L-000911	産業・業務(業種共通)	空調/産業用プロセス	熱源・空調機(吸収式・中央方式)	吸収冷水機(三重効用)/後熱投入型吸収冷水機(三重効用)	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、高温、中温、低温再生器を有するもの。	冷水入口温度12℃、冷水出口温度7℃	-	-	●	S-003545	1.74	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	
L-000912	産業・業務(業種共通)	空調/産業用プロセス	熱源・空調機(吸収式・中央方式)	一重二重併用形吸収冷水機	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、排熱を熱源として利用し、燃料削減率が20%以上のもの。	新電型(冷却水量原単位0.7m3/h、RT以下)、冷水入口温度15℃、冷水出口温度7℃	冷房能力	80RT以下	○	S-003546	1.47	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	
								80RT超1000RT以下	●	S-003548	1.47											
								1000RT超	-	S-003549	-											
						冷水入口温度12℃、冷水出口温度7℃	冷房能力	80RT以下	○	S-003553	1.47	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	
								80RT超1000RT以下	●	S-003551	1.47											
								1000RT超	-	S-003550	-											
L-000913	産業・業務(業種共通)	空調	熱源・空調機(吸収式・中央方式)	木質ペレット直燃式吸収冷水機(二重効用)	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、高温、低温再生器を有するもの内、加熱源の燃料に木質ペレットを使用するもの。中央方式を採用する業務施設の冷暖房に使用される。	-	冷房能力	80RT以下	○	S-004469	1.04	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JIS B 8622:2009	吸収冷凍機	JIS B 8622:2009に準拠、ただし、成績係数は冷凍能力を加熱源消費熱量で除したものと、消費電力は除外することとする。	JIS B 8622:2009	吸収冷凍機	JIS B 8622:2009に準拠	JIS B 8622:2009に準拠	
								80RT超1000RT以下	-	S-004470	-											
								1000RT超	-	S-004471	-											
L-000917	産業・業務(業種共通)	空調	熱源・空調機(地中熱利用・中央方式)	パッシブ地中熱利用システム	熱交換パイプ、制御盤、ポンプ、ファンからなる。地下水又は温水をスバイラル状に通水できるパイプを地下2mに埋設し送風をすることで、空気と地中熱・水の熱と熱交換を行い温風、冷風を送風する機器。一般的には通風部のみあるクールチューブやアースチューブなどと呼ばれる空調機が存在する。こういったシステムと比べて、水が持つ熱との熱交換が加わったことで、熱交換量が飛躍的に増え、大空間の空調を行えるようになった。	-	冷房能力	6.4kW	-	S-003560	-	-	成績係数(COP)	シミュレーションによる評価	-	-	COP=0P、COP:成績係数、φ:定格能力[W]、P:定格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、入気温度、吹き出し温度、給水温度、戻り水温度については、以下の通り設定することを条件とする。入気温度35℃、吹き出し温度27℃、給水温度:15℃、戻り水温度:15℃	-	
								8.2kW	-	S-003561	-											
								10.9kW	○	S-003567	15.57	*										
								12.8kW	-	S-003562	-											

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件						
												単位	名称		準拠する規程	規程の名称	計算式	準拠する規程	規程の名称	説明			
										S-003563	-												
										S-003564	-												
										S-003565	-												
L-000918	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機(吸 着式・中 央方式)	吸着式冷凍機	吸着器内部に充填された吸着剤に冷媒を吸着させ、冷媒の蒸発を 促し、その気化熱から冷凍効果を得る冷凍機。	熱源入口温度58℃	-	-		S-003568	15.2 *	-	電力COP	標準条件 による評 価	-	-		COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W] 注：上記のCOPは電力COPである	-	-		成績係数(COP)の算出にあたっては、冷水出口温 度、冷却水入口温度、熱源入口温度をそれぞれ のとおりに設定することを条件とする。冷水出口温 度：15℃、冷却水入口温度：27℃、熱源入口温 度：58℃ 注：上記のCOPは電力COPである	
						熱源入口温度：68℃	冷却能力	2.5kW以上25kW未満		S-004513	22 *	-	電力COP	標準条件 による評 価	-	-		COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消 費エネルギー[W] 注：上記のCOPは電力COPである	-	-		成績係数(COP)の算出にあたっては、冷水出口温 度、冷却水入口温度、熱源入口温度をそれぞれ のとおりに設定することを条件とする。冷水出口 温度：15℃、冷却水入口温度：27℃、熱源入口温 度：68℃ 注：上記のCOPは電力COPである	
								25kW以上50kW未満		S-004514	25 *	-											
								50kW以上		S-004515	26 *	-											
L-000919	産業・業 務(業種 共通)	給湯/産業 用プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポ ンプ(空気熱源・ 循環式)	空気を熱源とし、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式 で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含ま ないもの。	温水出口温度65℃以上70℃ 以下、乾球温度16℃、湿球 温度12℃、温水出入口温度 差5℃	-	-		S-003571	3.09 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-		COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-		成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を次 のとおりに設定することを条件とする。温水出口温 度：65℃以上70℃以下、乾球温度：16℃、湿球温 度：12℃、温水出入口温度差：5℃	
						温水出口温度65℃以上70℃ 以下、乾球温度25℃、湿球 温度21℃、温水出入口温度 差10℃	-	-		S-003572	3.63 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-		COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-		成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以 下のとおりに設定することを条件とする。温水出 口温度：65℃以上70℃以下、乾球温度：25℃、湿球 温度：21℃、温水出入口温度差：10℃	
						温水出口温度65℃以上70℃ 以下、乾球温度25℃、湿球 温度21℃、温水出入口温度 差5℃	-	-		S-003573	3.29 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-		COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-		成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以 下のとおりに設定することを条件とする。温水出 口温度：65℃以上70℃以下、乾球温度：25℃、湿球 温度：21℃、温水出入口温度差：5℃	
L-000920	産業・業 務(業種 共通)	給湯/産業 用プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポ ンプ(空気熱源・ 一過式)	空気を熱源とし、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式 で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含ま ないもの。	-	-	-		S-003574	4.2 *	-	年間標準貯 湯加熱エネ ルギー消費 効率	標準規格 による評 価	JRA4060:201 4	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:201 4	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠		JRA4060:2014に準拠	
L-000921	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポ ンプ(水熱源・循 環式)	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式 の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱す る熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度65℃、熱源水 入口温度17℃以上30℃以 下、熱源水出口温度7℃以 上20℃以下、温水出入口温 度差10℃	加熱能力	270kW以下		S-003575	3.4 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-		COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消 費電力[W]	-	-		成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおりに設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度：17℃ 熱源水出口温度：7℃、温水出入口温度差：10℃	
								270kW超350kW以下		S-003577	-	-											
								350kW超540kW以下		S-003576	3.2 *	-											
								540kW超		S-003578	-	-											
						温水出口温度65℃、熱源水 入口温度17℃以上30℃以 下、熱源水出口温度7℃以 上20℃以下、温水出入口温 度差10℃	加熱能力	270kW以下		S-003581	4.3 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-		COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消 費電力[W]	-	-		成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおりに設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度：17℃ 以上30℃以下、熱源水出口温度：7℃以上20℃以下 温水出入口温度差：10℃	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標																	
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件												
												単位	名称		準拠する規程	規程の名称	計算式	準拠する規程	規程の名称	説明									
							270kW以下 350kW超540kW以下 540kW超		- - •	S-003596 S-003597 S-003600	- - 5.8 *																		
					温水出口温度75℃、熱源水 入口温度20℃、熱源水出口 温度15℃以上17℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下 270kW超350kW以下 350kW超540kW以下 540kW超		• - - -	S-003601 S-003603 S-003604 S-003605	3.1 * - - -	- - - -	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	- - - -	- - - -	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	- - - -	- - - -	- - - -	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。 温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：20℃ 熱源水出口温度：15℃以上17℃以下 温水出入口 温度差：5℃								
					温水出口温度75℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度20℃、温水出入口温度 差10℃	加熱能力	270kW以下 270kW超350kW以下 350kW超540kW以下 540kW超		• - - -	S-003612 S-003611 S-003610 S-003608	3.7 * - - -	- - - -	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	- - - -	- - - -	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	- - - -	- - - -	- - - -	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。 温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：20℃ 温水出入口温度差：10℃								
					温水出口温度75℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度25℃以上27℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下 270kW超350kW以下 350kW超540kW以下 540kW超		• - - -	S-003614 S-003615 S-003616 S-003617	3.7 * - - -	- - - -	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	- - - -	- - - -	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	- - - -	- - - -	- - - -	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。 温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃以上27℃以下 温水出入口 温度差：5℃								
					温水出口温度75℃、熱源水 入口温度35℃以上40℃以 下、熱源水出口温度30℃、 温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下 270kW超350kW以下		• •	S-003622 S-003621	3.9 * 4.3 *	- -	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	- -	- -	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	- -	- -	- -	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。 温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：35℃ 以上40℃以下 熱源水出口温度：30℃ 温水出入口 温度差：10℃								

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	参照する規程	規程の名称	計算方法		試験条件		
												単位	名称				計算式	参照する規程	規程の名称	説明	
						350kW以下	350kW以下		-	S-003620	-										
						540kW超	540kW超		-	S-003619	-										
					温水出口温度75℃、熱源水 入口温度40℃、熱源水出口 温度35℃、温水出入口温度 差5℃	加熱能力	270kW以下	270kW以下		S-003624	4.44 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：35℃ 温水出入口温度差：5℃	
						270kW超350kW以下	270kW超350kW以下		-	S-003625	-										
						350kW超540kW以下	350kW超540kW以下		-	S-003626	-										
						540kW超	540kW超		-	S-003627	-										
					温水出口温度90℃、熱源水 入口温度17℃、熱源水出口 温度7℃、温水出入口温度 差10℃	加熱能力	270kW以下	270kW以下		S-003628	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：17℃ 熱源水出口温度：7℃ 温水出入口温度差：10℃	
						270kW超350kW以下	270kW超350kW以下		•	S-003632	2.75 *										
						350kW超540kW以下	350kW超540kW以下		-	S-003629	-										
						540kW超	540kW超		-	S-003631	-										
					温水出口温度90℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度25℃、温水出入口温度 差5℃	加熱能力	270kW以下	270kW以下		S-003635	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃ 温水出入口温度差：5℃	
						270kW超350kW以下	270kW超350kW以下		•	S-003634	3.1 *										
						350kW超540kW以下	350kW超540kW以下		-	S-003636	-										
						540kW超	540kW超		-	S-003637	-										
					温水出口温度90℃、熱源水 入口温度40℃、熱源水出口 温度30℃、温水出入口温度 差10℃	加熱能力	270kW以下	270kW以下		S-003641	3 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：30℃ 温水出入口温度差：10℃	
						270kW超350kW以下	270kW超350kW以下		-	S-003640	-										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	標準する規程		規程の名称		計算方法		標準する規程		規程の名称		試験条件	
														単位	名称	単位	名称	計算式	単位	名称	単位	名称			
						350kW超540kW以下	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
						540kW超	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
						温水出口温度90℃、熱源水 入口温度40℃、熱源水出口 温度35℃、温水出入口温度 差5℃	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
						270kW以下	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
						270kW超350kW以下	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
						350kW超540kW以下	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
						540kW超	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
L-000922	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポ ンプ(水熱源・一 過式)	水を熱源とし、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、 水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まない もの。	-	-	年間標準貯 湯加熱エネ ルギー消費 効率	標準規格 による評 価	JRA4060:201 4	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:201 4	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：90℃熱源水入口温度：40℃熱源水出口温度：35℃温水出入口温度差：5℃		
						水熱源運転、温水出口温度 70℃、熱源水入口温度 50℃、熱源水出口温度 38.6℃、温水出入口温度差 50℃	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：70℃熱源水入口温度：50℃熱源水出口温度：38.6℃温水出入口温度差：50℃		
L-000923	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポ ンプ(水空気熱 源・循環式)	空気、または水を熱源とでき、循環式の供給方式が可能なヒート ポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユ ニットを含まないもの。	-	-	空気熱源運 転、温水出口 温度65℃、乾 球温度25℃、 湿球温度21℃ 、温水出入口 温度差5℃	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：70℃熱源水入口温度：50℃熱源水出口温度：77℃熱源水入口温度：25℃湿球温度：21℃温水出入口温度差：5℃		
						水熱源運転、温水出口温度 65℃、熱源水入口温度20℃ 以下、熱源水出口温度15℃ 以下、温水出入口温度差 5℃	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を次のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度：20℃以下、熱源水出口温度：15℃以下、温水出入口温度差：5℃		
						水熱源運転、温水出口温度 75℃、熱源水入口温度 17℃、熱源水出口温度 7℃、温水出入口温度差 10℃	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：75℃熱源水入口温度：17℃熱源水出口温度：7℃温水出入口温度差：10℃		
L-000924	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポ ンプ(水空気熱 源・一過式)	空気、または水を熱源とでき、一過式の供給方式が可能なヒート ポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユ ニットを含まないもの。	-	-	空気熱源運 転	標準規格 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：90℃熱源水入口温度：40℃熱源水出口温度：35℃温水出入口温度差：5℃		
						水熱源運転	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：90℃熱源水入口温度：40℃熱源水出口温度：35℃温水出入口温度差：5℃		
L-000628	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	熱風ヒートポン プ(空気熱源・ 一過式)	空気を熱源とし、一過式の供給方式を用いるヒートポンプ方式 で、高温の熱風を発生させる装置	-	-	空気熱源運 転	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、空気入口温度、熱風供給温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、熱風供給温度、外気温度(乾球温度/湿球温度)を次のとおり、設定することを条件とする。空気入口温度：20℃、熱風供給温度：80℃、外気温度(乾球温度/湿球温度)25℃/21℃とする。		
L-000895	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	熱風ヒートポン プ(水熱源・一 過/循環式)	水を熱源とし、一過/循環式の供給方式を用いるヒートポンプ方式 で、高温の熱風を発生させる熱源装置。	-	-	空気熱源運 転	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、空気入口温度、熱風供給温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、熱風供給温度、外気温度(乾球温度/湿球温度)を次のとおり、設定することを条件とする。空気入口温度：20℃、熱風供給温度：100℃、熱源水入口温度：30℃、熱源水出口温度：25℃		
						水熱源運転、温水出口温度 70℃、熱源水入口温度 50℃、熱源水出口温度 38.6℃、温水出入口温度差 50℃	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：70℃熱源水入口温度：50℃熱源水出口温度：38.6℃温水出入口温度差：50℃		

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		説明					
														単位	名称	標準する規程	規程の名称		標準する規程	規程の名称			
L-000896	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	蒸気発生ヒート ポンプ(水熱源・ 一過式)	水を熱源とし、一過式の供給方式を用いるヒートポンプ方式で、 蒸気を発生させる熱源装置。	蒸気圧力0.1MPaG、熱源水 入口温度65℃、熱源水出口 温度60℃	-	-	○	S-003676	3.53 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、 熱源水入口温度、熱源水出口温度を次のとおり設 定することを条件とする。蒸気圧力：0.1MPaG、 熱源水入口温度：65℃、熱源水出口温度：60℃			
						蒸気圧力0.1MPaG、熱源水 入口温度80℃、熱源水出口 温度70℃	-	-	-	S-003678	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、 熱源水入口温度、熱源水出口温度を以下のとおり 設定することを条件とする。蒸気圧力： 0.1MPaG 熱源水入口温度：80℃ 熱源水出口温 度：70℃			
						蒸気圧力0.6MPaG、熱源水 入口温度70℃、熱源水出口 温度65℃	-	-	○	S-003677	2.46 *	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、 熱源水入口温度、熱源水出口温度を以下のとおり 設定することを条件とする。蒸気圧力： 0.6MPaG 熱源水入口温度：70℃ 熱源水出口温 度：65℃		
L-000668	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	蒸気再圧縮装置	産業プロセス等で利用された排熱を回収し、循環式の供給方式を 用いるヒートポンプ。低圧の蒸気を圧縮して再利用することで、 ボイラ等の蒸気を利用する設備・機器等の省エネを実現可能。	吐出圧力0.1MPaG以上 0.2MPaG以下、吐出蒸気量 1.0ton/h以上2.0ton/h以下、 給水温度80℃	-	-	●	S-003680	0.067 *	-	消費電力量	標準条件 による評 価	-	-	消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量 [kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出 蒸気量、給水温度を以下のとおり設定すること を条件とする。吐出圧力：0.1MPaG以上0.2MPaG以 下、吐出蒸気量：1.0ton/h以上2.0ton/h以下、給水 温度：80℃			
						吐出圧力0.1MPaG以上 0.3MPaG以下、吐出蒸気量 3.0ton/h以上、給水温度 80℃	-	-	●	S-003681	0.064 *	-	消費電力量	標準条件 による評 価	-	-	消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量 [kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出 蒸気量、給水温度を以下のとおり設定すること を条件とする。吐出圧力：0.1MPaG以上0.3MPaG 以下 吐出蒸気量：3.0ton/h以上 給水温度：80℃			
						吐出圧力0.4MPaG以上、吐 出蒸気量1.0ton/h以上 1.5ton/h以下、給水温度 80℃	-	-	●	S-003682	0.085 *	-	消費電力量	標準条件 による評 価	-	-	消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量 [kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出 蒸気量、給水温度を以下のとおり設定すること を条件とする。吐出圧力：0.4MPaG以上 吐出蒸 気量：1.0ton/h以上1.5ton/h以下 給水温度：80℃			
L-000629	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ペレ ットストー ブ)	密閉式ペレ ットストー ブ	木質ペレットを燃料とする燃焼機器。木質ペレットを燃焼させた 熱を熱交換器により室内の空気に伝え、送風ファンにより部屋の 隅々まで温風を行き渡らせる。燃焼させた空気は煙突から排気さ せるため、室内の空気と交わることはなく、清潔な環境を保つこ とができる。木質ペレットは、カーボニュートラルであるた め、CO2の排出削減が可能。	-	-	●	S-003684	77 *	-	熱効率	標準条件 による評 価	JHIAN- 5601:2004	木質バイオ マス燃焼機 器の試験方 法通則	$\eta = 100 - (qa + qb + qr)$ 、 η : 熱効率[%]、qa: 試 験燃料中の発熱量当たり排気ガス中の熱損失 (Qa) の比、熱による熱損失の割合(燃焼基 準) [%]、qb: 試験燃料の熱容量当たり排気ガス 中の化学的熱損失(Qb)、の潜熱による熱損失 の割合(燃焼基準) [%]、qr: 試験燃料の熱容量当 たり底部格子を通過し残渣物中に残った可燃性構 成物質による熱損失(Qr) の残渣物中の可燃性構 成、物質による損失の割合(燃焼基準) [%] ※発 熱量は高位発熱量とする	JHIAN- 5601:2004	木質バイオ マス燃焼機 器の試験方 法通則	JHIAN-5601:2004に準拠、試験実施にあたって は、ISO17025に準拠した試験機関による性能評 価を行うこととする。				
L-000670	産業・業 務(業種 共通)	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ)	ヒートポンプ給 湯機(空気熱源)	空気を熱源とするヒートポンプ方式の給湯機。貯湯ユニットを含 むもの。	加熱能力	10kW以下	●	S-003686	4.2	-	年間標準貯 湯加熱エネ ルギー消費 効率	標準規格 による評 価	JRA4060:20 14	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:20 14	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠				
							10kW超20kW以下	●	S-003687	4.2	-												
							20kW超30kW以下	●	S-003689	3.9	-												
							30kW超40kW以下	●	S-003690	3.8	-												
							40kW超50kW以下	○	S-003691	3.8	-												
			50kW超	●	S-003692	3.8	-																
			寒冷地仕様	加熱能力	10kW以下	●	S-003693	3.5	-	寒冷地年間 標準貯湯加 熱エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JRA4060:20 14	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:20 14	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠						
					10kW超20kW以下	●	S-003694	3.5	-														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標															
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	標準規格による評価		試験条件		単位	名称	標準する規格	規格の名称	計算方法		標準する規格	規格の名称	試験条件	説明
														単位	名称	標準する規格	規格の名称					計算式	標準する規格				
						20kW超30kW以下	●	S-003695	3.5																		
						30kW超40kW以下	●	S-003696	3.4																		
						40kW超50kW以下	○	S-003697	3.3																		
						50kW超	●	S-003699	3.3																		
L-000672	産業・業務 共通	給湯	給湯器 (ガス式)	潜熱回収型給湯器	バーナによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機器。潜熱回収型は、従来捨てられていた燃焼排熱を潜熱回収する。	-	-	-	-	●	S-003720	95	-	熱効率	標準規格による評価	JISS2109-2010R	家庭用ガス温水機器	JISS2109-2010Rに準拠	JISS2109-2010R	家庭用ガス温水機器	JISS2109-2010Rに準拠						
L-000611	産業・業務 共通	給湯	ボイラ	温水機	燃焼室、伝熱面、熱交換器からなる。燃焼によって温められた熱媒水と給水管の水とを熱交換させ、その温水を取り出して利用する。熱媒水を真空状態に密閉した状態で沸騰させる真空型と、熱媒水を大気に開放した状態で温める無圧式が存在する。	-	出力	1000kW未満	○	S-003722	96	-	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993、JISB8417:2000またはJISB8418:2000(あるいは、HA-008:2015またはHA-010:2015)	随用ボイラ熱効定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機(あるいは、真空式温水発生機または無圧式温水発生機)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠(あるいは、HA-008:2015またはHA-010:2015に準拠)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000(あるいは、HA-008:2015またはHA-010:2015)	随用ボイラ熱効定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機(あるいは、真空式温水発生機または無圧式温水発生機)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠(あるいは、HA-008:2015またはHA-010:2015に準拠)							
						1000kW以上2000kW未満	○	S-003728	91																		
						2000kW以上	○	S-003731	91																		
				潜熱回収型、LPG焚き	出力	1000kW未満	○	S-004517	103	-	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993、JISB8417:2000またはJISB8418:2000(あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017)	随用ボイラ熱効定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機(あるいは、ガス燃焼熱回収型真空式温水発生機またはガス燃焼熱回収型無圧式温水発生機)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠(あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017に準拠)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000(あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017)	随用ボイラ熱効定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機(あるいは、ガス燃焼熱回収型真空式温水発生機またはガス燃焼熱回収型無圧式温水発生機)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠(あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017に準拠)									
						1000kW以上2000kW未満	-	S-004518	-																		
						2000kW以上	-	S-004519	-																		
				潜熱回収型、都市ガス13A焚き	出力	1000kW未満	○	S-004532	105	-	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993、JISB8417:2000またはJISB8418:2000(あるいは、HA-036:2017)	随用ボイラ熱効定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機(あるいは、ガス燃焼熱回収型真空式温水発生機またはガス燃焼熱回収型無圧式温水発生機)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠(あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017に準拠)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000(あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017)	随用ボイラ熱効定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機(あるいは、ガス燃焼熱回収型真空式温水発生機またはガス燃焼熱回収型無圧式温水発生機)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠(あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017に準拠)									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	参照する規程		規程の名称		計算方法		試験条件	
												単 位	名 称		単 位	名 称	計 算 式	単 位	名 称	注 明		
						1000kW以上2000kW未満	-	S-004533	-													
						2000kW以上	-	S-004534	-													
					燃料：木質バイオマス	出力	100kW以上200kW未満	○	S-004520	90	-	ボイラ効率	標準規格 による評 価	HA-034-2： 2015または HA-034-1： 2015	日本暖房機 器工業会規 格HA	JISB8222-1993、HA-034-2：2015、HA-034-1：2015に準拠	JISB8222-1993、 JISB8417:2000または JISB8418:2000	随用ボイ ラー熱効 率方式、真 空式温水 発生機、 または 無圧式温 水発生機	JISB8222-1993、JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠			
						200kW以上300kW未満	○	S-004521	90													
						300kW以上400kW未満	○	S-004522	90													
						400kW以上500kW未満	○	S-004523	90													
						500kW以上600kW未満	○	S-004524	90													
					燃料：薪	出力	100kW未満	○	S-004526	90	-	ボイラ効率	標準規格 による評 価	HA-034-2： 2015または HA-034-1： 2015	日本暖房機 器工業会規 格HA	JISB8222-1993、HA-034-2：2015、HA-034-1：2015に準拠	JISB8222-1993、 JISB8417:2000または JISB8418:2000	随用ボイ ラー熱効 率方式、真 空式温水 発生機、 または 無圧式温 水発生機	JISB8222-1993、JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠			
						100kW以上200kW未満	○	S-004527	90													
						200kW以上400kW未満	○	S-004528	85													
						400kW以上	○	S-004529	85													
L-000600	産業・業 務（業種 共通）	産業用ブ ロセス	ボイラ	蒸気ボイラ（貫 流ボイラ）	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を生じさせ、その蒸気 を他に供給する装置。小型・軽量で、空調用、業務用～産業用の幅 広い業種で使用される。	蒸気量	1500kg/h未満	●	S-003735	97	-	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222-1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993および 公益財団法 人日本小型 蒸気ボイ ラー協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準値」	随用ボイ ラー熱効 率方式および 公益財団法 人日本小型 蒸気ボイ ラー協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型蒸気ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準値」に準拠			
						1500kg/h以上3000kg/h未満	●	S-003737	98													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
														単位	名称	参照する規程	規程の名称	参照する規程	規程の名称	説明			
						3000kg/h以上	● S-003739	99															
						潜熱回収型	蒸発量	3000kg/h未満	● S-003741	102	-	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993および 公益財団法 人日本小型 蒸流ボイ ラー協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準値」	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型蒸流ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準値」に準拠				
						3000kg/h以上	● S-003745	102															
						クローズド回収型(給水温度100℃以上)、エアヒータ(空気予熱器)の搭載	(相当) 蒸発量	3000kg/h未満	○ S-004498	98*	-	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠	蒸流ボイ ラー性能 表示ガイ ドライン	蒸流ボイ ラー性能 表示ガイ ドライン	給水温度15℃、給気温度35℃、運転圧力は「蒸流ボイラー性能表示ガイドライン」表1.効率表示圧力基準に準拠				
						3000kg/h以上	○ S-004499	98*															
L-000675	産業・業務(業種共通)	産業用プロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(炉筒煙管ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。中程度の出力で、主に産業用・地域冷暖房用途で使用される。	蒸発量	1500kg/h未満	● S-003748	92	-	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠					
						1500kg/h以上3000kg/h未満	● S-003750	92															
						3000kg/h以上7200kg/h未満	● S-003752	96															
						7200kg/h以上19200kg/h未満	● S-003754	96															
						19200kg/h以上	● S-003755	96															
L-000676	産業・業務(業種共通)	産業用プロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(水管ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。高圧・大容量で、主に化学・製紙業といった産業用や、地域暖房用途で使用される。	蒸発量	1500kg/h未満	○ S-003757	92	-	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠					
						1500kg/h以上3000kg/h未満	- S-003759	-															
						3000kg/h以上7200kg/h未満	● S-003761	96															
						7200kg/h以上19200kg/h未満	○ S-003763	94															
						19200kg/h以上	○ S-003765	94															
L-000621	産業・業務(業種共通)	産業用プロセス	ボイラ	水素ボイラ(貫流ボイラ)	水素の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。水素は燃焼時に水のみしか生成せず、CO2を排出しないことから、炭化水素系燃料からの代替により、大幅にCO2を削減できる。現在は安価に水素が調達可能な副生水素の工場が対象とはなっているが、将来的には水素価格の低下により広く様々な業界で利用できると考えられる。	蒸発量	1500kg/h未満	- S-003767	-	-	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993および 公益財団法 人日本小型 蒸流ボイ ラー協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準値」	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型蒸流ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準値」に準拠					

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ		計算方法		試験条件			
												単 位	名 称	準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明		
							1500kg/h以上3000kg/h	• S-003769		95											
							3000kg/h以上	- S-003771		-											
L-000689	産業・業務 (業種 共通)	産業用プロセス	ボイラ	熱媒ボイラ	沸点の高い油を伝熱媒体に使用することによって、常圧で高温が得られる装置。熱媒の種類によって油温度を200℃以上の任意温度にすることが容易にできるため、精度の高い温度制御が必要な化学工業等の加熱、反応用プロセスに多く用いられる。		出力	• S-003773	92	-	ボイラ効率	標準規格 による評価	JISB8222-1993	随用ボイラ熱測定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993	随用ボイラ熱測定方式	JISB8222-1993に準拠			
							1000kW未満	• S-003775	92												
							1000kW以上2000kW未満	• S-003777	92												
							2000kW以上														
L-000690	産業・業務 (業種 共通)	空調/給湯/産業用プロセス	コージェネレーション	ガスエンジンコージェネレーション	ガスを燃料としエンジン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収することにより、燃料を効率的に利用する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温湯は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	発電出力	• S-003778	85.5	-	総合効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠			
							5kW以下	• S-003779	86.5												
							5kW超10kW以下	• S-003780	85.5												
							10kW超25kW以下	• S-003782	88												
							25kW超35kW以下	○ S-003784	90.2												
							35kW超250kW以下	○ S-003786	83.8												
							250kW超500kW以下	○ S-003788	87.8												
							500kW超750kW以下	○ S-003791	87.8												
							750kW超1000kW以下	• S-003792	87												
							3000kW超	○ S-003794	29												
							5kW以下	○ S-003796	31.5												
							5kW超10kW以下	○ S-003798	33.5												
							10kW超25kW以下	○ S-003800	33.5												
							25kW超35kW以下														

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標															
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法			試験条件										
														単位	名称	基準する規程	規程の名称	計算式	基準する規程	規程の名称	試験条件	説明					
										S-003802	35.5																
										S-003804	41.6																
										S-003805	41.9																
										S-003807	42.5																
										S-003810	49.5																
										S-003811	87	-	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠							
										S-003813	77.5																
										S-003815	43.7	-	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠							
										S-003817	43.4																
										S-003819	74.3	-	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠							
										S-003821	77.9																
										S-003823	45.5	-	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠							
										S-003831	47.8																
										S-003833	85.5	-	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠							
										S-003835	86.5																
										S-003837	85.5																
										S-003839	88																
										S-003841	90.7																

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
												単位	名称		参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称	説明				
						250kW超500kW以下	○	S-003844	82.1															
						500kW超750kW以下	○	S-003846	87.8															
						750kW超1000kW以下	○	S-003847	87.8															
						3000kW超	●	S-003850	87															
						5kW以下	○	S-003851	29															
						5kW超10kW以下	○	S-003860	31.5															
						10kW超25kW以下	○	S-003862	33.5															
						25kW超35kW以下	○	S-003864	33.5															
						35kW超250kW以下	○	S-003867	37															
						250kW超500kW以下	●	S-003869	42															
						500kW超750kW以下	○	S-003872	41.3															
						750kW超1000kW以下	○	S-003874	42.5															
						3000kW超	●	S-003876	49.5															
					60Hz、高速エンジン (1000rpm以上)	発電出力																		
						1000kW超2000kW以下	○	S-003878	86.5															
						2000kW超3000kW以下	-	S-003881	-															
						1000kW超2000kW以下	○	S-003883	43.3															
						2000kW超3000kW以下	-	S-003885	-															
					60Hz、中速エンジン (1000rpm未満)	発電出力																		
						1000kW超2000kW以下	○	S-003888	77															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
														単位	名称	参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称	説明		
								2000kW超3000kW以下	○	S-003890	77.9												
								1000kW超2000kW以下	●	S-003892	45.5	-	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠			
								2000kW超3000kW以下	○	S-003895	47.8												
L-000691	産業・業 務(業種 共通)	空調/給湯/ 産業用プ ロセス	コージェ ネレーシ ョン	ガスタービン コージェネレ ーション	ガスを燃料とし、タービン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	発電出力	1000kW以下	●	S-003593	83	-	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠			
								1000kW超2000kW以下	○	S-003598	84												
								2000kW超3000kW以下	●	S-003602	81.8												
								3000kW超5000kW以下	-	S-003606	-												
								5000kW超7000kW以下	-	S-003607	-												
								7000kW超10000kW以下	●	S-003609	85.2												
								10000kW超40000kW以下	○	S-003613	85.9												
								40000kW超	○	S-003618	84												
								1000kW以下	○	S-003623	18.6	-	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠			
								1000kW超2000kW以下	●	S-003630	27.7												
								2000kW超3000kW以下	○	S-003633	28.4												
								3000kW超5000kW以下	●	S-003638	31.9												
								5000kW超7000kW以下	○	S-003643	39.3												
								7000kW超10000kW以下	○	S-003648	34.3												
								10000kW超40000kW以下	●	S-003650	39.1												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	測定単位		評価方法の タイプ	参照する規格		規格の名称		計算方法		試験条件	
														単位	名称		基準	規格	計算式	基準	規格	説明		
											40.9													
						60Hz	発電出力	1000kW以下	• S-003653	83	-	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					
								1000kW超2000kW以下	○ S-003655	84														
								2000kW超3000kW以下	• S-003658	81.8														
								3000kW超5000kW以下	- S-003659	-														
								5000kW超7000kW以下	- S-003660	-														
								7000kW超10000kW以下	• S-003661	85.2														
								10000kW超40000kW以下	○ S-003662	86.8														
								40000kW超	○ S-003663	84														
								1000kW以下	- S-003664	-		発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					
								1000kW超2000kW以下	• S-003665	27.7														
								2000kW超3000kW以下	○ S-003666	28.4														
								3000kW超5000kW以下	• S-003667	31.9														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件						
												単位	名称		計算式		準拠する規格	規程の名称	準拠する規格	規程の名称	説明		
						5000kW超7000kW以下	○	S-003668	39.3														
						7000kW超10000kW以下	○	S-003670	34.3														
						10000kW超40000kW以下	●	S-003674	39.1														
						40000kW超	○	S-003679	40.9														
L-000692	産業・業務 (業種 共通)	空調/給油/ 産業用ブ ロセス	コーゼ ネレー ション	燃料電池コー ジェネレーショ ン	ガスを燃料とし、燃料電池方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温床水は、製産業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz 燃料ガスの種類：純 水素	発電出力	75kW以下	-	S-003683	-	-	総合効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠			
								75kW超150kW以下	●	S-003685	93												
								150kW超	-	S-003688	-												
								75kW以下	-	S-003698	-	-	発電効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠			
								75kW超150kW以下	●	S-003700	48												
								150kW超	-	S-003701	-												
						50Hz 燃料ガスの種類：都 市ガス	発電出力	75kW以下	-	S-003702	-	-	総合効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠			
								75kW超150kW以下	●	S-003703	91												
								150kW超	-	S-003704	-												
								75kW以下	-	S-003705	-	-	発電効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠			
								75kW超150kW以下	●	S-003706	42												
								150kW超	-	S-003707	-												
						50Hz 燃料ガスの種類：バ イオガス	発電出力	75kW以下	-	S-003708	-	-	総合効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標																							
												測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件																	
	単 位	名 称	準拠する規格			規程の名称	計算式	準拠する規格				規程の名称	試験条件		説 明																				
											84																								

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
												単 位	名 称		準拠する規程	規程の名称	計算式	準拠する規程	規程の名称	説 明				
									S-004477	-	-													
						60Hz、燃料ガスの種類：バイオガス	発電出力	75kW以下	-	S-003729	-	-	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠				
							75kW超150kW以下	•	S-003730	84														
							150kW超	-	S-003732	-														
							75kW以下	-	S-003733	-	-	発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠					
							75kW超150kW以下	•	S-003734	40														
							150kW超	-	S-003736	-														
L-000695	産業・業務（業種共通）	冷凍冷蔵	冷凍冷蔵機器	業務用冷凍冷蔵庫	レストランの厨房やスーパーマーケットのバックヤード等に使用される冷凍冷蔵庫を指す。家庭用と比較し、急速な冷却機能と高い断熱性能が求められる。	冷蔵庫：横型	容量	250L以下	-	S-003738	280	-	年間消費電力量	標準規格による評価	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠				
							250L超350L以下	-	S-003740	320														
							350L超450L以下	-	S-003742	400														
							450L超	-	S-003743	470														
						冷蔵庫：縦型	容積	700L以下	-	S-003744	340	-	年間消費電力量	標準規格による評価	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠				
							700L超1200L以下	-	S-003746	420														
							1200L超	-	S-003747	600														
						冷凍庫：横型	容量	250L以下	-	S-003749	810	-	年間消費電力量	標準規格による評価	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠				
							250L超350L以下	-	S-003751	1010														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
												単 位	名 称		準拠する規格	規程の名称	計算式	準拠する規格	規程の名称	説 明				
						350L超	-	S-003753	1130															
						冷凍庫：縦型	容量	700L以下	-	S-003756	1030	-	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠				
						700L超900L以下	-	S-003758	1550															
						900L超1200L以下	-	S-003760	2020															
						1200L超1500L以下	-	S-003762	2440															
						1500L超	-	S-003764	3130															
						冷凍冷蔵庫：縦型(冷凍室1 室)	容量	250L以下	-	S-003766	1070	-	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠				
						250L超350L以下	-	S-003768	1190															
						350L超	-	S-003770	1270															
						冷凍冷蔵庫：縦型(冷凍室1 室)	容積	1200L以下	-	S-003772	1080	-	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09に準拠	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠				
						1200L超	-	S-003774	1430									JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠				
						冷凍冷蔵庫：縦型(冷凍室2 室)	容量	900L以下	-	S-003776	1490	-	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠				
						900L超1200L以下	-	S-003781	1660															

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件								
														単位	名称	基準する規程	規程の名称	計算式	基準する規程	規程の名称	説明			
								1200L超	-	S-003783	1810													
L-000696	産業・業 務(業種 共通)	動力他	冷凍冷蔵 機器	空気冷凍方式冷 凍機	空気の断熱膨張における温度低下により、マイナス50~100℃の空 気を冷やす冷凍機。	庫容量(有効容積) 1300m3規模	-	-	-	S-003785	0.42 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、庫内温度を 次のとおり設定することを条件とする。なお、附 属する機器動力も加味した定格消費エネルギーを 用いる。庫内温度：-60℃				
						庫容量(有効容積) 2600m3規模	-	-	-	S-003787	0.4 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、庫内温度を 次のとおり設定することを条件とする。なお、附 属する機器動力も加味した定格消費エネルギーを 用いる。庫内温度：-60℃				
L-000697	産業・業 務(業種 共通)	動力他	冷凍冷蔵 機器	冷凍冷蔵倉庫用 自然冷媒冷凍機 (アンモニア /CO2二次冷媒 システム)	アンモニアを一次冷媒、二酸化炭素を二次冷媒(マイナス5~マイ ナス40℃程度)とし、それを庫内に循環させる冷凍機。	庫内温度:-20℃超10℃以 下、CO2温度:-17℃超-5℃ 以下、冷却水入り口温度: 32℃	冷凍能力	100kW以下	-	S-003789	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、凝縮温度、 CO2温度をそれぞれ以下のとおり設定すること を条件とする。CO2温度:-17℃超-5℃以下、冷却 水入り口温度:32℃				
								100kW超 200kW以下	-	S-003790	-	-												
								200kW超	●	S-003793	3.41 *	-												
						庫内温度:-20℃超10℃以 下、CO2温度:-17℃超-5℃ 以下、冷却水入り口温度: 30℃	冷凍能力	50kW以下	●	S-003795	2.7 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、 冷却水入り口温度をそれぞれ以下のとおり設定す ることを条件とする。CO2温度:-17℃超-5℃以 下、冷却水入り口温度:30℃				
								50kW超	-	S-003797	-	-												
						庫内温度:-20℃超10℃以 下、CO2温度:-17℃超-5℃ 以下、吸込空気温度:32℃	冷凍能力	50kW以下	●	S-003799	1.8 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、 吸込空気温度をそれぞれ以下のとおり設定す ることを条件とする。CO2温度:-17℃超-5℃以 下、吸込空気温度:32℃				
								50kW超	-	S-003801	-	-												
						庫内温度-40℃超-20℃以下	冷凍能力	50kW以下	●	S-003803	2.04 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、 冷却水入り口温度をそれぞれ次のとおり設定す ることを条件とする。CO2温度:-37℃超-27℃以 下、冷却水入り口温度:32℃				
								50kW超 150kW以下	●	S-003806	2.32 *	-												
								150kW超 250kW以下	●	S-003808	2.32 *	-												
								250kW超	●	S-003809	2.31 *	-												

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件									
														単位	名称	準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明				
L-000624	産業・業 務(業種 共通)		冷凍冷蔵 機器	自然冷媒冷凍冷 蔵コンデンシン グユニット	フロン冷媒により駆動する、従来のコンデンシングユニットに対して、CO2等の自然冷媒により駆動するコンデンシングユニット	中温用(吸込み圧力飽和温度 -10℃)、吸込ガス過熱度 10K、周囲温度32℃	冷凍能力	16.0kW以下	● S-003812	2.02	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	JRA4019: 2014に準拠						
								16.0kW超24.0kW以下	- S-003814	-															
								24.0kW超36.0kW以下	○ S-003816	1.84															
								36.0kW超	- S-003818	-															
						低温用(吸込み圧力飽和温度 -40℃)、吸込ガス過熱 度10K 周囲温度32℃	冷凍能力	8.0kW以下	● S-003820	1.01	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	JRA4019: 2014に準拠						
								8.0kW超12.0kW以下	- S-003822	-															
								12.0kW超18.0kW以下	○ S-003824	0.95															
								18.0kW超	- S-003825	-															
						中温用(吸込み圧力飽和温度 -10℃)、吸込ガス温度 18℃、空冷式の凝縮器、凝 縮器に流入空気温度32℃、 周囲温度32℃	冷凍能力	8.0kW以下	○ S-004479	2.1	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JRA 4019:2014	コンデンシ ングユニッ ト	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	JRA4019: 2014に準拠						
								8.0kW超16.0kW以下	○ S-004480	1.77															
								16.0kW超24.0kW以下	○ S-004481	1.68															
								24.0kW超36.0kW以下	○ S-004482	1.77															
						低温用(吸込み圧力飽和温度 -40℃)、吸込ガス温度 18℃、空冷式の凝縮器、凝 縮器に流入空気温度32℃、 周囲温度32℃	冷凍能力	4.0kW以下	○ S-004484	0.94	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JRA 4019:2014	コンデンシ ングユニッ ト	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	JRA4019: 2014に準拠						
								4.0kW超8.0kW以下	○ S-004485	0.91															
								8.0kW超12.0kW以下	○ S-004486	0.85															
								12.0kW超18.0kW以下	○ S-004487	0.91															
							18.0kW超	- S-004488	-																

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
														単位	名称	準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	試験条件
					中温用(吸込み圧力飽和温度-10℃)、吸込ガス温度18℃、水冷式の凝縮器、凝縮器の冷却水温度32℃、開閉温度32℃	冷凍能力	16.0kW以下	-	S-004490	-	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	COP=φP、COP:成績係数、φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	JRA4019:2014に準拠		
							16.0kW超24.0kW以下	-	S-004491	-	-			JRA4019:2014	コンデンシングユニット	COP=φP、COP:成績係数、φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	JRA4019:2014に準拠		
							24.0kW超36.0kW以下	○	S-004492	2	-			JRA4019:2014	コンデンシングユニット		JRA4019:2014	コンデンシングユニット	JRA4019:2014に準拠		
							36.0kW超	-	S-004493	-	-										
					低温用(吸込み圧力飽和温度-40℃)、吸込ガス温度18℃、水冷式の凝縮器、凝縮器の冷却水温度32℃、開閉温度32℃	冷凍能力	8.0kW以下	-	S-004494	-	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	COP=φP、COP:成績係数、φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	JRA4019:2014に準拠		
							8.0kW超12.0kW以下	-	S-004495	-	-										
							12.0kW超18.0kW以下	○	S-004496	0.94	-										
							18.0kW超	-	S-004497	-	-										
L-000698	産業・業務(業種共通)	照明	照明器具	LED照明器具	発光ダイオード(LED)を光源に使用した照明器具。ただし、電気用品安全法の下でのPSEマークが付与されている製品に限る。				S-003826	133.9	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部、性能要求事項、照明器具-第5部;配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部、性能要求事項、照明器具-第5部;配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠		
									S-003827	134.5	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部、性能要求事項、照明器具-第5部;配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部、性能要求事項、照明器具-第5部;配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠		
									S-003828	131.9	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部、性能要求事項、照明器具-第5部;配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部、性能要求事項、照明器具-第5部;配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠		
									S-003829	140.1	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部、性能要求事項、照明器具-第5部;配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部、性能要求事項、照明器具-第5部;配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠		
									S-003830	162.4	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部、性能要求事項、照明器具-第5部;配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部、性能要求事項、照明器具-第5部;配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠		

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標														
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	参照する規格		規格の名称		計算方法		参照する規格		規格の名称		試験条件	
												単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	計算式	標準規格	規格の名称	試験条件	説明					
										S-003832	150.1	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠						
										S-003834	-	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠						
										S-003836	-	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠						
										S-003838	-	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠						
										S-003840	-	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠						
										S-003842	175.7	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠						
										S-003843	190	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠						
										S-003845	172.8	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠						
										S-003848	164	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠						
										S-003849	194	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠						

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ		計算方法		試験条件							
												単位	名称	標準規格 による評価	参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称	説明					
L-000699	産業・業 務(業種 共通)	動力他	プリンタ/ 複写機	プリンタ	プリンタの印字方式の主流は、インクジェット方式と電子写真方式であるが、オフィスで主に利用されているものは印刷速度の違い、電子写真方式である。電子写真方式の印刷工程は、帯電、露光、現像、転写、定着、消磁の6工程であり、複写機と同様である。露光部分にLED(発光ダイオード)を用いたLEDプリンタもある。	カラー印刷機能無	-	-	-	S-003852	-	-	概念的1週間 (稼働とス リープ/オフ が繰り返さ れる5日間十 スリープ/オ フ状態の2日 間)の消費 電力量 (TEC消費 電力量)	標準規格 による評価	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギースタープログラムで定める試験条件					
						カラー印刷機能有	-	-	-	S-003853	-	-	概念的1週間 (稼働とス リープ/オフ が繰り返さ れる5日間十 スリープ/オ フ状態の2日 間)の消費 電力量 (TEC消費 電力量)	標準規格 による評価	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギースタープログラムで定める試験条件					
L-000700	産業・業 務(業種 共通)	動力他	プリンタ/ 複写機	複合機	複写機能、プリンタ機能、スキャナ機能、ファクシミリ機能のうち2つ以上の機能を有する機器である。	カラー複写機能無	-	-	-	S-003854	-	-	概念的1週間 (稼働とス リープ/オフ が繰り返さ れる5日間十 スリープ/オ フ状態の2日 間)の消費 電力量 (TEC消費 電力量)	標準規格 による評価	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギースタープログラムで定める試験条件					
						カラー複写機能有	-	-	-	S-003855	-	-	概念的1週間 (稼働とス リープ/オフ が繰り返さ れる5日間十 スリープ/オ フ状態の2日 間)の消費 電力量 (TEC消費 電力量)	標準規格 による評価	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギースタープログラムで定める試験条件					
L-000701	産業・業 務(業種 共通)	動力他	モータ	誘導モータ	回転子、固定子ともに金属を使用し、固定子に交流電流を流して回転磁界を生じさせるとともに、回転子にも誘導電流が流れて磁界が生ずることにより、回転力を得るモータ。産業機械・工作機械等に幅広く用いられる。鉄芯、巻線、冷却ファン等の改善により損失を低減し高効率化が図られている。	50Hz、200V、極数2	容量	0.75kW以下	○	S-003856	85	-	エネルギー 消費効率	標準規格 による評価	JIS C 4034- 2:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械-第2-1 部-単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランター モータ	JIS C 4034-2:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034-2:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機 械-第2-1 部-単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランター モータ	JIS C 4034-2:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。					
						0.75kW超1.1kW以下	○	S-003857	85.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
						1.1kW超1.5kW以下	●	S-003858	89.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
						1.5kW超2.2kW以下	●	S-003859	89.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
						2.2kW超3.0kW以下	-	S-003861	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						3.0kW超3.7kW以下	●	S-003863	89.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.7kW超4.0kW以下	-	S-003865	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	基準		計算法		試験条件				
												単 位	名 称		基準する規程	規程の名称	計算法	計算式	基準する規程	規程の名称	説 明		
						4.0kW超5.5kW以下	• S-003866	91.2															
						5.5kW超7.5kW以下	• S-003868	91.5															
						7.5kW超11.0kW以下	• S-003870	91.9															
						11.0kW超15.0kW以下	• S-003871	92.2															
						15.0kW超18.5kW以下	• S-003873	93.1															
						18.5kW超22.0kW以下	• S-003875	93.8															
						22.0kW超30.0kW以下	• S-003877	94															
						30.0kW超37.0kW以下	• S-003879	94.3															
						37.0kW超	• S-003880	96.2															
					50Hz、200V、種数4	容量	0.75kW以下	• S-003882	84.8	-	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械-第2-1部- 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ ランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械-第2-1部- 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ ランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。					
						0.75kW超1.1kW以下	- S-004474	-															
						1.1kW超1.5kW以下	• S-003886	86.9															
						1.5kW超2.2kW以下	• S-003887	88.6															
						2.2kW超3.0kW以下	- S-003889	-															
						3.0kW超3.7kW以下	• S-003891	89.4															
						3.7kW超4.0kW以下	- S-003893	-															

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	標準する規程		規程の名称		計算方法		試験条件	
												単 位	名 称		標準する規程	規程の名称	計算式	標準する規程	規程の名称	試験条件	説 明	
						4.0kW超5.5kW以下	•	S-003894	91.9													
						5.5kW超7.5kW以下	•	S-003896	91.7													
						7.5kW超11.0kW以下	•	S-003898	92.5													
						11.0kW超15.0kW以下	•	S-003900	93.1													
						15.0kW超18.5kW以下	•	S-003902	94.1													
						18.5kW超22.0kW以下	•	S-003904	93.9													
						22.0kW超30.0kW以下	•	S-003906	94.5													
						30.0kW超37.0kW以下	•	S-003907	95.1													
						37.0kW超	•	S-003910	96													
					50Hz、200V、種数6	容量		S-003912	83.8		エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械-第2-1 部：第一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械-第2-1 部：第一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。				
						0.75kW以下	-	S-003914	-													
						0.75kW超1.1kW以下	•	S-003915	87.2													
						1.1kW超1.5kW以下	•	S-003917	89.3													
						1.5kW超2.2kW以下	-	S-003918	-													
						2.2kW超3.0kW以下	•	S-003920	89.3													
						3.0kW超3.7kW以下	-	S-003922	-													
						3.7kW超4.0kW以下	•	S-003922	-													

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	参照する規程		規程の名称		計算方法		試験条件	
												単位	名称		基準	名称	計算式	基準	名称	説明		
						4.0kW超5.5kW以下	•	S-003925	91.1													
						5.5kW超7.5kW以下	•	S-003926	91.1													
						7.5kW超11.0kW以下	•	S-003929	91.7													
						11.0kW超15.0kW以下	•	S-003931	92.5													
						15.0kW超18.5kW以下	•	S-003932	92.7													
						18.5kW超22.0kW以下	•	S-003934	93.2													
						22.0kW超30.0kW以下	•	S-003936	94.2													
						30.0kW超37.0kW以下	•	S-003938	93.9													
						37.0kW超	○	S-003940	94.7													
					60Hz、220V、種数2	容量		S-003942	86.2		エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械-第2- 1部: 単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械-第2- 1部: 単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。				
						0.75kW以下	○	S-003943	86.3													
						0.75kW超1.1kW以下	•	S-003945	90.2													
						1.1kW超1.5kW以下	•	S-003946	90.8													
						1.5kW超2.2kW以下	•	S-003948	-													
						2.2kW超3.0kW以下	-	S-003950	90.9													
						3.0kW超3.7kW以下	-	S-003952	-													
						3.7kW超4.0kW以下	-		-													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	参照する規程		規程の名称		計算方法		試験条件	
												単位	名称		基準	名称	計算式	基準	名称	説明		
							4.0kW超5.5kW以下	•	S-003954	91.5												
							5.5kW超7.5kW以下	•	S-003956	92.4												
							7.5kW超11.0kW以下	•	S-003958	92.4												
							11.0kW超15.0kW以下	•	S-003960	93.1												
							15.0kW超18.5kW以下	•	S-003962	93.7												
							18.5kW超22.0kW以下	•	S-003963	94												
							22.0kW超30.0kW以下	•	S-003965	94.1												
							30.0kW超37.0kW以下	•	S-003967	94												
							37.0kW超	○	S-003968	94.8												
						60Hz、220V、種数4	容量	0.75kW以下	•	S-003970	87.3	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械-第2-1部: 単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法または低圧三相かご形誘導電動機-低圧トッبرانナーモータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械-第2-1部: 単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法または低圧三相かご形誘導電動機-低圧トッبرانナーモータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。			
							0.75kW超1.1kW以下	-	S-003973	-												
							1.1kW超1.5kW以下	•	S-003975	89.1												
							1.5kW超2.2kW以下	•	S-003977	90.2												
							2.2kW超3.0kW以下	-	S-003979	-												
							3.0kW超3.7kW以下	•	S-003980	90.7												
							3.7kW超4.0kW以下	-	S-003982	-												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	参照する規程		規程の名称		計算方法		試験条件	
												単 位	名 称		準拠する規程	規程の名称	計算式	準拠する規程	規程の名称	試験条件	説 明	
						4.0kW超5.5kW以下	• S-003984		92.8													
						5.5kW超7.5kW以下	• S-003985		92.9													
						7.5kW超11.0kW以下	• S-003986		93.3													
						11.0kW超15.0kW以下	• S-003987		93.6													
						15.0kW超18.5kW以下	• S-003989		94.7													
						18.5kW超22.0kW以下	• S-003990		94.7													
						22.0kW超30.0kW以下	• S-003993		94.9													
						30.0kW超37.0kW以下	• S-003994		95.7													
						37.0kW超	• S-003996		96.3													
					60Hz、220V、極数6	容量	0.75kW以下	• S-003998		85.3	エネルギー 消費効率	標準規程 による評 価	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械—第2— 1部：単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機— 低圧トップ ランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械—第2— 1部：単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機— 低圧トップ ランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。				
						0.75kW超1.1kW以下	- S-003999		-													
						1.1kW超1.5kW以下	- S-004000		-													
						1.5kW超2.2kW以下	• S-004001		90.4													
						2.2kW超3.0kW以下	- S-004002		-													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標															
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件										
												単位	名称		参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称	説明							
							5.5kW超7.5kW以下		• S-004022		94.8																
							7.5kW超11kW以下		• S-004023		94.3																
							11kW超15kW以下		• S-004024		95																
							15kW超18.5kW以下		• S-004027		94.9																
							18.5kW超22kW以下		• S-004028		96.2																
							22kW超30kW以下		• S-004030		96.3																
							30kW超37kW以下		• S-004032		95.6																
							37kW超45kW以下		• S-004033		95.9																
							45kW超55kW以下		• S-004031		96.1																
							55kW超75kW以下		• S-004029		97.4																
							75kW超90kW以下		○ S-004026		96.2																
							90kW超110kW以下		○ S-004025		96.6																
							110kW超132kW以下		○ S-004020		97																
							132kW超160kW以下		○ S-004019		97.2																
							160kW超		- S-004015		-																
L-000719	産業・業務 (業種 共通)	動力他	変圧器	油入変圧器	電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する工夫がなされている。クラフト紙・プレスボード等の絶縁物と絶縁油にて構成されている。	油入変圧器、三相、50Hz	定格容量	20kVA以下	• S-003897		125	-	全損失	標準規格 による評価	JISC4304:2013	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:2013	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠							
								20kVA超30kVA以下	• S-003899		138																

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標														
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算法			試験条件								
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算法	準拠する規格	規格の名称	試験条件	説明					
						30kVA超50kVA以下	• S-003901		197																	
						50kVA超75kVA以下	• S-003903		230																	
						75kVA超100kVA以下	• S-003905		276																	
						100kVA超150kVA以下	• S-003908		370																	
						150kVA超200kVA以下	• S-003909		444																	
						200kVA超300kVA以下	• S-003911		584																	
						300kVA超500kVA以下	• S-003913		892																	
						500kVA超750kVA以下	• S-003916		1520																	
						750kVA超1000kVA以下	• S-003919		1965																	
						1000kVA超1500kVA以下	• S-003921		2750																	
						1500kVA超2000kVA以下	• S-003923		3700																	
					油入変圧器、三相、60Hz	定格容量	20kVA以下	• S-003924		120		-	全損失	標準規格 による評 価	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠						
						20kVA超30kVA以下	• S-003927		133																	
						30kVA超50kVA以下	• S-003928		192																	
						50kVA超75kVA以下	• S-003930		220																	
						75kVA超100kVA以下	• S-003933		268																	
						100kVA超150kVA以下	• S-003935		366																	
						150kVA超200kVA以下	• S-003937		440																	

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件					
												単 位	名 称		基準する規程	規程の名称	計算式	基準する規程	規程の名称	説 明			
						200kVA以下	300kVA以下	• S-003939		549													
						300kVA超500kVA以下		• S-003941		820													
						500kVA超750kVA以下		• S-003944		1450													
						750kVA超1000kVA以下		• S-003947		1890													
						1000kVA超1500kVA以下		• S-003949		2600													
						1500kVA超2000kVA以下		• S-003951		3365													
					油入変圧器、単相、50Hz	定格容量	10kVA以下		○ S-003953		57		-	全損失	標準規格 による評 価	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠		
						10kVA超20kVA以下		○ S-003955		76													
						20kVA超30kVA以下		○ S-003957		102													
						30kVA超50kVA以下		• S-003959		147													
						50kVA超75kVA以下		• S-003961		162													
						75kVA超100kVA以下		• S-003964		210													
						100kVA超150kVA以下		• S-003966		291													
						150kVA超200kVA以下		• S-003969		360													
						200kVA超300kVA以下		• S-003971		470													
						300kVA超500kVA以下		• S-003972		780													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
														単位	名称	準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称
						油入変圧器、単相、60Hz	定格容量	10kVA以下	• S-003974	51	-	全損失	標準規格 による評 価	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	
								10kVA超20kVA以下	• S-003976	68										
								20kVA超30kVA以下	• S-003978	95										
								30kVA超50kVA以下	• S-003981	145										
								50kVA超75kVA以下	• S-003983	165										
								75kVA超100kVA以下	• S-003988	207										
								100kVA超150kVA以下	• S-003991	286										
								150kVA超200kVA以下	• S-003992	354										
								200kVA超300kVA以下	• S-003995	466										
								300kVA超500kVA以下	• S-003997	775										
L-000720	産業・業 務（業種 共通）	動力他	変圧器	モールド変圧器	電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低 損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する 工夫がなされている。耐熱絶縁電線のコイルを構成し、エポキシ 樹脂でモールドされている。	モールド変圧器、三相、 50Hz	定格容量	20kVA以下	○ S-004035	167	-	全損失	標準規格 による評 価	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	
								20kVA超30kVA以下	○ S-004036	201										
								30kVA超50kVA以下	○ S-004037	311										
								50kVA超75kVA以下	○ S-004039	244										
								75kVA超100kVA以下	• S-004041	309										
								100kVA超150kVA以下	• S-004043	411										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
												単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明				
						150kVA超200kVA以下	○	S-004045	460															
						200kVA超300kVA以下	●	S-004047	581															
						300kVA超500kVA以下	●	S-004049	899															
						500kVA超750kVA以下	●	S-004050	1675															
						750kVA超1000kVA以下	●	S-004053	2094															
						1000kVA超1500kVA以下	●	S-004055	3300															
						1500kVA超2000kVA以下	●	S-004057	4088															
					モールド変圧器、三相、 60Hz	定格容量	20kVA以下	○	S-004058	157	-	全損失	標準規格 による評 価	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠					
						20kVA超30kVA以下	○	S-004060	191															
						30kVA超50kVA以下	○	S-004062	301															
						50kVA超75kVA以下	●	S-004064	244															
						75kVA超100kVA以下	●	S-004065	293															
						100kVA超150kVA以下	●	S-004066	401															
						150kVA超200kVA以下	●	S-004067	460															
						200kVA超300kVA以下	●	S-004070	592															
						300kVA超500kVA以下	●	S-004071	852															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
												単位	名称		基準する規格	規格の名称	計算式	基準する規格	規格の名称	説明				
						500kVA超750kVA以下	●	S-004073	1715															
						750kVA超1000kVA以下	●	S-004075	2028															
						1000kVA超1500kVA以下	●	S-004076	3200															
						1500kVA超2000kVA以下	●	S-004078	4125															
					モールド変圧器、単相、50Hz	定格容量			○	S-004080	78	-	全損失	標準規格 による評 価	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠				
						10kVA以下	○	S-004081	115															
						10kVA超20kVA以下	○	S-004081	115															
						20kVA超30kVA以下	○	S-004083	160															
						30kVA超50kVA以下	●	S-004085	155															
						50kVA超75kVA以下	●	S-004086	181															
						75kVA超100kVA以下	●	S-004088	223															
						100kVA超150kVA以下	●	S-004090	289															
						150kVA超200kVA以下	●	S-004091	369															
						200kVA超300kVA以下	●	S-004093	496															
						300kVA超500kVA以下	●	S-004095	774															
					モールド変圧器、単相、60Hz	定格容量			○	S-004097	73	-	全損失	標準規格 による評 価	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠				
						10kVA以下	○	S-004099	110															
						10kVA超20kVA以下	○	S-004099	110															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
														単位	名称	標準する規程	規程の名称	計算式	標準する規程	規程の名称	説明		
						20kVA超30kVA以下	○	S-004101	150														
						30kVA超50kVA以下	●	S-004103	149														
						50kVA超75kVA以下	●	S-004105	183														
						75kVA超100kVA以下	●	S-004106	228														
						100kVA超150kVA以下	●	S-004108	285														
						150kVA超200kVA以下	●	S-004110	368														
						200kVA超300kVA以下	●	S-004111	491														
						300kVA超500kVA以下	●	S-004113	785														
L-000716	産業・業務 (業種 共通)	動力他	モータ利 用機器 (圧縮 機)	蒸気駆動圧縮機	従来の電動コンプレッサと異なり、動力源として電動モータではなく、スチームモータを搭載する。スチームモータは、蒸気を減圧する際に発生するエネルギーを駆動源とする圧縮機。従来の電動コンプレッサ（圧縮機）と比較し、減圧エネルギーを有効利用できるためCO2削減に優れる。ボイラ設備（ボイラ、軟水装置、給水タンク）の蒸気配管減圧弁に並列して設置し、本商品を減圧弁の代替として利用する。	容量、消費蒸気量		37kW、79kg/h	●	S-004115	6.95 *	-	消費蒸気原 単位	標準条件 による評 価	-	-	E=B/(A-C)、E：消費蒸気原単位 [-]、A：消費 蒸気量 [kW]、B：吐出空気量 [m3/min]、C： 回収熱量 [kW]	JISB8341- 2008	容積形圧縮 機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量については温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：15℃、温水出口温度：50℃以上、また、消費蒸気量はメーカー指示値（性能表等）を参照する。			
								55kW、106kg/h	●	S-004116	1.93 *												
								75kW、178kg/h	●	S-004117	2.18 *												
						高圧蒸気仕様		容量、消費蒸気量		S-004118	0.6 *	-	消費蒸気原 単位	標準条件 による評 価	-	-	E=B/(A-C)、E：消費蒸気原単位 [-]、A：消費 蒸気量 [kW]、B：吐出空気量 [m3/min]、C： 回収熱量 [kW]	JISB8341- 2008	容積形圧縮 機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量については温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：15℃、温水出口温度：50℃以上、また、消費蒸気量はメーカー指示値（性能表等）を参照する。			
L-000717	産業・業務 (業種 共通)	動力他	モータ利 用機器 (圧縮 機)	熱回収式ねじ容 積形圧縮機	従来は、廃棄されていた圧縮熱を温水として供給可能なねじ容積形圧縮機。コンプレッサの廃熱を温水として回収するために軟水装置から新水を通過させ、70℃の温水をボイラ給水へ戻すことでボイラの燃料消費量が低減可能。また、直接温水利用することも可能。	容量、熱回収量		37kW、25kW	●	S-004034	0.41 *	-	エネルギー 原単位	標準条件 による評 価	JISB8341- 2008	容積形圧縮 機	E=B/(A-C)、E：エネルギー原単位 [-]、A：軸 動力 [kW]、B：吐出空気量 [m3/min]、C：回 収熱量 [kW]	JISB8341- 2008	容積形圧縮 機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量については温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：15℃、温水出口温度：50℃以上			
								75kW、60kW	●	S-004038	0.88 *												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		説 明		
												単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	準拠する規格	規格の名称			
L-000737	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	Low-E複層ガラ ス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティング することで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うこと によって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるよう になる。	-	-	-	°	S-004040	2.5	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+A6+FL3のガラス構成における数値を示す。
L-000738	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	三層Low-E複層 ガラス	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属 膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラ ス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行 うことができるようになる。	-	-	-	°	S-004042	0.8	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠。	
L-000739	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	真空Low-E複層 ガラス	真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすること で、放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことに よって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるよう になる。	-	-	-	°	S-004044	0.74	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107: 1998及び JISR3209: 1998、た だし真空 ガラスに ついては、 複層ガラ スの性能 の向上に 関する熱 貫流率の 算定方法 及び複層 ガラスの 性能の向 上に関する 熱貫流率 の算定方 法等（平 成26年11 月28日経 済産業省 告示第235 号）	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 貫流率の算 定方法及び 複層ガラス の性能の向 上に関する 熱貫流率の 算定方法及 び複層ガラ スの性能の 向上に関 する熱貫流 率の算定方 法等（平 成26年11 月28日経 済産業省 告示第235 号）	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空 ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に 関する熱貫流率の算定方法及び複層ガラスの 性能の向上に関する熱貫流率の算定方法及び複 層ガラスの性能の向上に関する熱貫流率の算 定方法及び複層ガラスの性能の向上に関する熱 貫流率の算定方法及び複層ガラスの性能の向 上に関する熱貫流率の算定方法及び複層ガラ スの性能の向上に関する熱貫流率の算定方 法等（平成26年11月28日経済産業省告示第235 号）に準拠	JISR3107: 1998及び JISR3209: 1998、た だし真空 ガラスに ついては、 複層ガラ スの性能 の向上に 関する熱 貫流率の 算定方法 及び複層 ガラスの 性能の向 上に関する 熱貫流率 の算定方 法等（平 成26年11 月28日経 済産業省 告示第235 号）	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 貫流率の算 定方法及び 複層ガラス の性能の向 上に関する 熱貫流率の 算定方法及 び複層ガラ スの性能の 向上に関 する熱貫流 率の算定方 法等（平 成26年11 月28日経 済産業省 告示第235 号）	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空 ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に 関する熱貫流率の算定方法及び複層ガラスの 性能の向上に関する熱貫流率の算定方法及び複 層ガラスの性能の向上に関する熱貫流率の算 定方法及び複層ガラスの性能の向上に関する熱 貫流率の算定方法及び複層ガラスの性能の向 上に関する熱貫流率の算定方法及び複層ガラ スの性能の向上に関する熱貫流率の算定方 法等（平成26年11月28日経済産業省告示第235 号）に準拠	
L-000740	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	アタッチメント 付きLow-E複層 ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティング することで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメン トにより、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、 大がかりな工事が必要としない、断熱を行うことによって、より 少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	-	-	-	°	S-004046	2.6	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠。	
L-000771	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	真空ガラス	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガ ラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を 行うことができるようになる。	-	-	-	°	S-004048	1	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107: 1998及び JISR3209: 1998、た だし真空 ガラスに ついては、 複層ガラ スの性能 の向上に 関する熱 貫流率の 算定方法 及び複層 ガラスの 性能の向 上に関する 熱貫流率 の算定方 法等（平 成26年11 月28日経 済産業省 告示第235 号）	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 貫流率の算 定方法及び 複層ガラス の性能の向 上に関する 熱貫流率の 算定方法及 び複層ガラ スの性能の 向上に関 する熱貫流 率の算定方 法等（平 成26年11 月28日経 済産業省 告示第235 号）	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空 ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に 関する熱貫流率の算定方法及び複層ガラスの 性能の向上に関する熱貫流率の算定方法及び複 層ガラスの性能の向上に関する熱貫流率の算 定方法及び複層ガラスの性能の向上に関する熱 貫流率の算定方法及び複層ガラスの性能の向 上に関する熱貫流率の算定方法及び複層ガラ スの性能の向上に関する熱貫流率の算定方 法等（平成26年11月28日経済産業省告示第235 号）に準拠	JISR3107: 1998及び JISR3209: 1998、た だし真空 ガラスに ついては、 複層ガラ スの性能 の向上に 関する熱 貫流率の 算定方法 及び複層 ガラスの 性能の向 上に関する 熱貫流率 の算定方 法等（平 成26年11 月28日経 済産業省 告示第235 号）	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 貫流率の算 定方法及び 複層ガラス の性能の向 上に関する 熱貫流率の 算定方法及 び複層ガラ スの性能の 向上に関 する熱貫流 率の算定方 法等（平 成26年11 月28日経 済産業省 告示第235 号）	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空 ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に 関する熱貫流率の算定方法及び複層ガラスの 性能の向上に関する熱貫流率の算定方法及び複 層ガラスの性能の向上に関する熱貫流率の算 定方法及び複層ガラスの性能の向上に関する熱 貫流率の算定方法及び複層ガラスの性能の向 上に関する熱貫流率の算定方法及び複層ガラ スの性能の向上に関する熱貫流率の算定方 法等（平成26年11月28日経済産業省告示第235 号）に準拠	
L-000772	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	現増施工後付 けLow-E複層ガ ラス	既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼ることでLow-E複層ガラ スとして放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うこと によって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるよう になる。	-	-	-	°	S-004051	1.6	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠。	
L-000743	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	薄型Low-E複層 ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティング することで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメン トを使用せずにガラス部分のみを既存サッシに取り付けことが できる。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調 を行うことができるようになる。	-	-	-	°	S-004052	2.5	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠。	
L-000774	産業・業 務（業種 共通）	断熱	断熱材	断熱材(押出法 ポリスチレン フォーム)	スチレン樹脂・発泡剤・難燃剤等を押出機中で混和・溶融し、大 気中に連続的に押し出して発泡させ、成型後、板状製品に断熱加 工することで製造する。	-	-	-	°	S-004054	0.022	-	熱伝導率	標準規格 による評 価	JISA9511:20 06Rまたは JISA9521:20 14	発泡プラ スチック保 温材または 建築用断熱 材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:20 06Rまたは JISA9521:20 14	発泡プラ スチック保 温材または 建築用断熱 材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	標準する規格	規格の名称	計算方法		標準する規格	規格の名称	試験条件			
																単位	名称				計算式	説明	
L-000775	産業・業務 (業種 共通)	断熱	断熱材	断熱材(グラスウール)	原材料を1400℃程度の高温で溶解、スピナーと呼ばれる繊維化装置に孔を開けることにより遠心力で繊維化し、結束剤を添加し綿状にすることで製造する。	天井用	-	-	-	S-004056	0.034	-	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	-		
						壁用	-	-	-	S-004059	0.034	-	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	-		
L-000625	産業・業務 (業種 共通)	空調	断熱材	真空断熱材	家庭用冷蔵庫の断熱材として使用されている真空断熱材を使用した断熱材。住宅だけではなく非住宅のリフォーム(内貼断熱工法)にも向く。	-	-	-	-	S-004061	0.002	-	熱伝導率	標準規格による評価	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠	-		
L-000616	産業・業務 (業種 共通)	乾燥	乾燥装置	蒸気リサイクル型連続乾燥装置	連続乾燥プロセスにおいて、被処理物から蒸発した蒸気は従来大気に捨てられていたが、この蒸気を圧縮機で昇圧昇温し、被処理物の加熱源として再利用することにより、投入する化石燃料起因の蒸気量を大幅低減し、CO2排出量を削減に繋げる装置。	純水：沸点100℃(大気圧下)	蒸発能力	150L/h	-	S-004530	1.79	-	成績係数(COP)	実績値による評価	-	-	sysCOP=Cst*M/(Cst*Sη+CexE) Cst: 水蒸気の100℃における全熱エンタルピーと25℃における顕熱エンタルピーの差 (=2571kJ/kg) M: 被処理物から蒸発させた蒸気量[kg] S: ポイラー蒸気量[kg] η: 熱損失(蒸気熱量/燃料熱量) Cex: 換算係数 3.6MJ/kWh E: 電力消費量[kWh]	-	-	-	-	-	・本装置は水蒸気と電力を入力として被処理物を蒸留して濃縮・乾燥する装置であり、下記の試験で得たエネルギーのインプット(熱量換算)でアウトプット(蒸発蒸気の熱量)を除いて得た値(システムCOP) ・最終処分性能指標に基づき、模擬浸出水の濃縮、乾燥を1m3/日以上、60日以上行った際のデータに基づいて評価。 ・電源の周波数は50Hzとする。 ・ポイラーはA重油炊きとする。
								750L/h	-	S-004531	1.79	-											
L-000776	産業・業務 (業種 共通)	動力他	洗濯機	業務用ヒートポンプ式衣類洗濯乾燥機	洗濯機と乾燥機からなる。乾燥機部に排熱回収ヒートポンプシステムを搭載し、エバポレータにて衣類乾燥後の湿った空気から集めた熱エネルギーを圧縮機で高温にする。高温の空気をガスクーラで110℃前後の(または「最大115℃の」) 温度熱として放出することで衣類を乾かす。従来のガス式と比較して、効率的に熱回収が可能な排熱回収ヒートポンプシステムを採用することで、効率よく乾燥できる。導入先として、福祉施設、病院、等、幅広い施設が挙げられる。	乾燥能力 (JIMS規格)	9kg以上	-	S-004063	9.4	-	消費電力量	標準条件による評価	JIS C 9606及びJIS C 9608	電気洗濯機、回転ドラム式電気衣類乾燥機	JIS C 9606及びJIS C 9608に準拠。ただし、洗濯乾燥1回あたりの電力消費量は、試験(4回以上)によって得られた値の平均値とする。	JIS C 9606及びJIS C 9608	電気洗濯機、回転ドラム式電気衣類乾燥機	JIS C 9606及びJIS C 9608に準拠。ただし、処理物、処理条件は以下の通りとする。<処理物>被洗濯物：JIMS規格による標準洗濯乾燥容量の綿100%バスタオル<処理条件>定格電圧：三相交流200V 被洗濯物あたり水量：5.0L/kg以上 被洗濯物あたり洗濯時間：洗濯、すすぎ、脱水工程で各0.5min/kg以上 被洗濯物あたり乾燥時間：4.0min/kg以下 回転速度：設定できる最速の設定(乾燥工程はメーカー推奨の回転速度) 乾燥度(洗濯乾燥後)：97%以上 試験回数：4回以上	-			
L-000660	産業・業務 (業種 共通)	エネルギーマネジメント	エネルギーマネジメントシステム	BEMS(制御サービス・空調・熱源・中央方式)	オフィスビルにおけるエネルギー管理システム、及び同システムを用いたサービスのうち、セントラル空調を対象とした制御サービス。	空気熱源仕様	-	-	-	S-004068	-	-	エネルギー消費効率	具備機能による評価	-	-	-	-	-	-	-		
						水熱源仕様	-	-	-	S-004069	-	-	エネルギー消費効率	具備機能による評価	-	-	-	-	-	-	-		
L-000666	産業・業務 (業種 共通)	動力他	その他	サーバ用電子計算機	ネットワーク上でサービス等を提供する24時間稼働することを前提として設計された電子計算機であって、専らネットワークを介してアクセスされる。サーバ型電子系観産機に搭載されているCPUは専用CISC、RISC、IA64、IA32の4つに分類され、IA64、IA32といった汎用CPUはエネルギー消費効率が低い。	H※区分は省エネルギー法による	-	-	-	S-004072	-	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	-			
						I※区分は省エネルギー法による	-	-	-	S-004074	0.13	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	-			
						J※区分は省エネルギー法による	-	-	-	S-004077	0.21	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	-			
						K※区分は省エネルギー法による	-	-	-	S-004079	-	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	-			
						L※区分は省エネルギー法による	-	-	-	S-004082	0.265	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	-			
L-000704	産業(業種固有)	建設	オフロード特殊自動車(建設機械・内燃機関型)	油圧ショベル(内燃機関型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。低燃費型エンジンの導入や、情報化施工による効率的な作業の実施により低炭素化を図ることで、CO2排出量の削減が可能となる。	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	-	S-004084	3.8	-	燃費	標準規格による評価	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械-エネルギー消費量試験方法-油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械-エネルギー消費量試験方法-油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	-			
								0.36 m3以上0.47 m3未満	-	S-004087	6.2	-											

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法				試験条件				
												単 位	名 称		準拠する規程	規程の名称	計算式	準拠する規程	規程の名称	説 明			
									S-004089		6.6												
									S-004092		7.4												
									S-004094		10.8												
									S-004096		10.7												
									S-004098		12.1												
									S-004100		19.4												
L-000705	産業（業 種固有）	建設	オフロー ド特殊自 動車（建 設機械・ 内燃機関 型）	ブルドーザ（内 燃機関型）	土砂の掘削、押土、盛土、整地作業等に用いられる機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。ディーゼルエンジンの性能向上や、アイドルリングの自動停止機能等の装備の他、情報化施工にも対応しており、低炭素化が可能となっている。	-	定格出力	19kW以上75kW未満	-	S-004102	-	-	燃費	標準規格 による評 価	JCMASH021: 2010	土工機械－ 燃料消費量 試験方法	JCMASH021:2010に準拠	JCMASH021: 2010	土工機械－ 燃料消費量 試験方法	JCMASH021:2010に準拠			
								75kW以上170kW未満	-	S-004104	-	-											
								170kW以上300kW未満	-	S-004107	-	-											
L-000706	産業（業 種固有）	建設	オフロー ド特殊自 動車（建 設機械・ 内燃機関 型）	ホイールロー ダ（内燃機関 型）	建設現場で使用される重機の一つ。前方に設置されたバケットで土石をすくいあげ、トラック等に積み込む機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。低燃費型のエンジンの導入や、情報化施工による効率的な作業の実施により低炭素化を図ることで、CO2排出量の削減が可能となる。	-	定格出力	40kW以上110kW未満、 110kW以上230kW未満	-	S-004109	-	-	燃費	標準規格 による評 価	JCMASH022: 2015または JCMASH022: 2010	土工機械－ エネルギー 消費量試験 方法－ホ ールロー ダまたは土 工機械－燃 料消費量試 験方法－ホ ールロー ダ	JCMASH022:2015またはJCMASH022:2010に準拠	JCMASH022: 2015または JCMASH022: 2010	土工機械－ エネルギー 消費量試験 方法－ホ ールロー ダまたは土 工機械－燃 料消費量試 験方法－ホ ールロー ダ	JCMASH022:2015またはJCMASH022:2010に準拠			
								40kW以上110kW未満、 110kW以上230kW未満	-	S-004112	24.2												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
												単位	名称		標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称	
L-000708	産業(業 種固有)	建設	オフロード特殊自動車(建設機械・ハイブリッド型)	油圧ショベル(ハイブリッド型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。ハイブリッド型は、動力としてエンジンと電気モータを組み合わせた油圧ショベル。旋回減速時のエネルギーを回収して電気エネルギーとして蓄電し、加速時の補助エネルギーとして利用することで、エンジンで消費される軽油消費量を低減し、CO2排出量の削減が可能となる。	-	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	-	S-004114	-	-	燃費	標準規格による評価	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	
								0.70 m3以上0.90 m3未満	-	S-004119	-										
L-000711	産業(業 種固有)	建設	オフロード特殊自動車(建設機械・電気型)	油圧ショベル(電動型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。電動型は、動力として電気モータを使用する油圧ショベル。従来型の油圧ショベルで燃料として使用されていた軽油を電力で代替することにより、CO2排出量の削減が可能となる。	-	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	-	S-004120	-	-	電力消費量	標準規格による評価	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	
								0.70 m3以上0.90 m3未満	-	S-004122	50.8										
L-000712	産業(業 種固有)	建設	オフロード特殊自動車(建設機械・電気型)	ブルドーザ(電動型)	土砂の掘削、押土、盛土、整地作業等に用いられる機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。電動型は、ディーゼルエンジンによって発電機を駆動させて、電動モータにより稼働するブルドーザ。電力駆動を採り入れることで低燃費化を実現している。	-	定格出力	19kW以上75kW未満	-	S-004123	-	-	燃費	標準規格による評価	JCMASH021:2010	土工機械—燃料消費量試験方法	JCMASH021:2010に準拠	JCMASH021:2010	土工機械—燃料消費量試験方法	JCMASH021:2010に準拠	
								75kW以上170kW未満	-	S-004124	-										
								170kW以上300kW未満	-	S-004127	-										
L-000890	産業(業 種固有)	食料品製造業	洗浄乾燥機	遠心脱水型コンテナ(容器)洗浄乾燥機	洗浄水加熱用循環加熱ヒートポンプ、リンス水加熱用空気熱源ヒートポンプ、遠心脱水型乾燥機からなる。循環加熱ヒートポンプによって保温された洗浄槽で洗浄し、空気熱源ヒートポンプで加熱された湯でリンスをし、遠心脱水機で乾燥する設備。熱源機でつくった熱風で乾燥する熱風方式と遠心脱水機で乾燥する遠心脱水方式がある。従来型と比較してヒートポンプの採用により効率的に洗浄ができ、遠心脱水機の採用により少ない水、消費エネルギーで乾燥ができる。食品・飲料工場や自動車工場等、幅広い用途へ導入が可能である。	-	処理速度	75~150サイクル/h	○	S-004129	0.049	-	コンテナ1台あたりの電力消費量	標準条件による評価	-	-	$P=(A+B+C+D+E+F+G+H)/I$ 、P:コンテナ1台あたりの電力消費量[kWh]、A:主搬送コンベアの電力消費量[kWh]、B:搬入コンベアの電力消費量[kWh]、C:洗浄ポンプの電力消費量[kWh]、D:リンスポンプの電力消費量[kWh]、E:洗浄槽放風の電力消費量[kWh]、F:遠心脱水機駆動[kWh]、G:排気ファン[kWh]、H:ヒートポンプの電力消費量[kWh]、I:コンテナ総数[台]	-	-	<処理物>コンテナ:「食品クレート標準共有化ガイドライン」で規定されている食品クレート標準Ⅰ型、またはⅡ型・深用<処理物>高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式)(洗浄槽) 温水出口温度:65℃以上70℃以下、乾燥温度:16℃、湿球温度:12℃、温水出入口温度差:5℃高温水ヒートポンプ(空気熱源・一過式)(リンス側):JRA4060:2014に準拠含水率(脱水後):1%未満(ワーク質量に対する割合)汚れ度(洗浄前/洗浄後) APT値:3000RLU以上/1000RLU未満	
								151~225サイクル/h	○	S-004132	0.036										
L-000891	産業(業 種固有)	化学工業	蒸留塔	内部熱交換最適化蒸留システム	濃縮部(高圧塔)と回収部(低圧塔)が物理的に分かれており、その間に圧縮機が設置されている蒸留塔。濃縮部の圧力をわずかに上げることで内部温度を上昇させた後に、熱を自然循環によって回収部に移動させ蒸留を行う。外部冷却により廃棄せざるを得なかった熱を自己再利用するため、リポイラーに供給する熱エネルギーを大幅に削減可能。	-	蒸留塔が高圧部(濃縮部)と低圧部(回収部)とで物理的に分離しており一体型でないもの	-	○	S-004133	-	-	エネルギー消費効率	具備機能による評価	-	-	-	-	-	-	
L-000892	産業(業 種固有)	繊維工業	乾燥機	熱回収式工業用繊維物乾燥機	ネットコンベア内の熱風ノズルにより熱風を吹付けることによって、繊維物に発生した水蒸気は排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直燃燃焼による加熱方式と、高気、または熱媒油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	-	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	●	S-004128	3.13	-	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	$Q=(qA+qB+qC+qD+E)÷m$ 、Q:処理物の単位重量当たりの熱量[MJ/kg]、qA:保温版(床面含む)からの放熱量[MJ/h]、qB:処理物の昇温熱量[MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量[MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量[MJ/h]、qE:出入口からの吹き出し吸込み損失熱量[MJ/h]、m:単位時間当たりに処理した生地重量[kg] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>、新材:ポリエステル100%織物、布幅:1540mmW、目付:200g/m2、<処理条件>処理温度:140℃、水分率(入口/出口):70~75%/2%以下	
								2000mmW以上2300mmW未満	●	S-004130	3.22										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)				クラス 能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件						
												単 位	名 称		準拠する規程	規程の名称	計算式	準拠する規程	規程の名称	説 明			
								S-004131		3.4													
								S-004125		3.06	-	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て				時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>、素材： ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目 付：200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、 水分率（入口/出口）：70～75%/2%以下	
								S-004126		3.15													
								S-004121		3.33													
								S-004134		2.85	-	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て				時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>、素材： ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目 付：200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、 水分率（入口/出口）：70～75%/2%以下	
								S-004135		2.91													
								S-004136		3.01													
								S-004138		2.81	-	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て				時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>、素材： ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目 付：200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、 水分率（入口/出口）：70～75%/2%以下	
								S-004139		2.86													
								S-004140		2.94													
								S-004141		2.81	-	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て				時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>、素材： ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目 付：200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、 水分率（入口/出口）：70～75%/2%以下	
								S-004143		2.86													
								S-004144		2.94													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		説明	
														単位の名称	単位の名称	単位の名称	単位の名称		
						4室2段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	-	S-004145	-	-	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失 熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>:素材: ポリエステル100%織物、布幅:1540mmW、目 付:200g/m2、<処理条件>:処理温度:140℃、 水分率(入口/出口):70~75%/2%以下
								2000mmW以上2300mmW 未満	-	S-004146	-								
								2300mmW以上2500mmW 以下	-	S-004147	-								
L-000893	産業(業 種固有)	繊維工業	熱処理機	熱回収式工業用 繊維物熱処理機	繊維物の乾燥後に、繊維物の形態を整え、寸法を安定化するため に熱固定を行う設備。熱固定を行う際には、熱風ノズルにより繊維 物に熱風を吹付ける。繊維物を加熱することによって発生した 熱処理機内のガスは排気ファンにより排出され最適な状態に保た れる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、熱 媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	3室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	•	S-004148	2.1	-	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失 熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>:素材: ポリエステル100%織物、布幅:1540mmW、目 付:200g/m2、<処理条件>:処理温度:140℃、水分 率(入口/出口):70~75%/2%以下
								2000mmW以上2300mmW 未満	•	S-004149	2.12								
								2300mmW以上2500mmW 以下	•	S-004150	2.14								
						4室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	•	S-004151	2.05	-	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失 熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>:素材: ポリエステル100%織物、布幅:1540mmW、目 付:200g/m2、<処理条件>:処理温度:140℃、水分 率(入口/出口):70~75%/2%以下
								2000mmW以上2300mmW 未満	•	S-004152	2.05								
								2300mmW以上2500mmW 以下	•	S-004475	2.08								
						5室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	•	S-004154	2.01	-	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失 熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>:素材: ポリエステル100%織物、布幅:1540mmW、目 付:200g/m2、<処理条件>:処理温度:140℃、水分 率(入口/出口):70~75%/2%以下
								2000mmW以上2300mmW 未満	•	S-004156	2.01								
								2300mmW以上2500mmW 以下	•	S-004157	2.03								

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				認定 情報№	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
													単位	名称		単価する規格	規格の名称	単価する規格	規格の名称	説明			
						6室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	• S-004158	1.98	-	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	Q=(qA+qB+qC+qD+qE)÷m、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量【MJ/kg】、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量【MJ/h】、qB:処理布の昇温熱 量【MJ/h】、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量【MJ/h】、qD:給気・排気による損失熱 量【MJ/h】、qE:出入口からの吹出し吸込み損失 熱量【MJ/h】、m:単位時間当たり処理した生地重 量【kg/h】※小数点以下を切り捨て	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>素材:ポ リエステル100%織物、布幅:1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件>処理温度:140℃、水分 率(入口/出口):70~75%/2%以下						
								2000mmW以上2300mmW 未満	• S-004159	1.99													
								2300mmW以上2500mmW 以下	• S-004160	2													
						7室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	• S-004162	1.96	-	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	Q=(qA+qB+qC+qD+qE)÷m、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量【MJ/kg】、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量【MJ/h】、qB:処理布の昇温熱 量【MJ/h】、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量【MJ/h】、qD:給気・排気による損失熱 量【MJ/h】、qE:出入口からの吹出し吸込み損失 熱量【MJ/h】、m:単位時間当たり処理した生地重 量【kg/h】※小数点以下を切り捨て	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>素材:ポ リエステル100%織物、布幅:1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件>処理温度:140℃、水分 率(入口/出口):70~75%/2%以下						
									• S-004163	1.96													
									• S-004164	1.98													
						8室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	• S-004166	1.95	-	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	Q=(qA+qB+qC+qD+qE)÷m、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量【MJ/kg】、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量【MJ/h】、qB:処理布の昇温熱 量【MJ/h】、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量【MJ/h】、qD:給気・排気による損失熱 量【MJ/h】、qE:出入口からの吹出し吸込み損失 熱量【MJ/h】、m:単位時間当たり処理した生地重 量【kg/h】※小数点以下を切り捨て	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>素材:ポ リエステル100%織物、布幅:1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件>処理温度:140℃、水分 率(入口/出口):70~75%/2%以下						
									• S-004167	1.95													
									• S-004168	1.96													
L-000894	運輸	自動車	自動車 (内燃機 開型)	ガソリン・ ディーゼル車 (乗用車)	(ガソリン車)ガソリンエンジンを搭載した自動車。国内における乗 用車の大半がガソリン車である。(ディーゼル車)ディーゼルエンジ ンを搭載した自動車。	ガソリン車、軽自動車	-	軽自動車	-	S-004170	-	-	燃費	標準規格 による評 価	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:20 05に基づく JC08モー ド	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠			
						ガソリン車、小型自動車	-	SUV	-	S-004171	-	燃費	標準規格 による評 価	JISD1012:20 05に基づく JC08モー ド	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:20 05に基づく JC08モー ド	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠				
							-	コンパクトカー	-	S-004172	-												
							-	セダン	-	S-004174	-												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標														
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件								
												単 位	名 称		準拠する規程	規程の名称	計算式	準拠する規程	規程の名称	説 明						
									-	S-004196	-															
									-	S-004197	-															
									-	S-004198	-															
									-	S-004199	-															
									-	S-004200	-															
									-	S-004201	-															
									-	S-004203	-															
									-	S-004204	-															
									-	S-004205	-															
									-	S-004206	-															
								乗用自動車、一般バス	-		-			燃費	標準規格 による評 価	-	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モード)	国土交通省審査で定める計算式				国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モード)	国土交通省審査で定める試験条件			
									-	S-004209	-															
									-	S-004210	-															
									-	S-004211	-															
									-	S-004212	-															
									-	S-004213	-															
									-	S-004215	-															
								乗用自動車、路線バス	-		-			燃費	標準規格 による評 価	-	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モード)	国土交通省審査で定める計算式				国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モード)	国土交通省審査で定める試験条件			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位			評価方法の タイプ	計算方法			試験条件				
												単位	名称			参照する規程	規程の名称	計算式	参照する規程	規程の名称	説明		
								区分2※区分は省エネルギー法による	-	S-004218	-												
								区分3※区分は省エネルギー法による	-	S-004219	-												
								区分4※区分は省エネルギー法による	-	S-004220	-												
								区分5※区分は省エネルギー法による	-	S-004221	-												
L-000632	運輸	自動車	自動車 (ハイブリッド型)	ハイブリッド自動車(乗用車)	動力として内燃機関と電気モータを組み合わせた自動車。一時的にエネルギーをバッテリーやキャパシタに貯蔵し、必要に応じ電気モータを介して動力とする。効率の低いエンジン作動区域にハイブリッド技術を使うことにより高効率運転が可能となる。	小型自動車	-	コンパクトカー	-	S-004223	-	-	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠			
								セダン	-	S-004224	-												
								ミニバン	-	S-004225	-												
								ワゴン	-	S-004226	-												
							普通自動車	-	SUV	-	S-004228	-	-	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠		
								スポーツカー	-	S-004229	-												
								セダン	-	S-004230	-												
								ミニバン	-	S-004231	-												
								ワゴン	-	S-004232	-												
L-000633	運輸	自動車	自動車 (ハイブリッド型)	ハイブリッド自動車(商用車・重積車)	動力として内燃機関と電気モータを組み合わせた自動車。一時的にエネルギーをバッテリーやキャパシタに貯蔵し、必要に応じ電気モータを介して動力とする。効率の低いエンジン作動区域にハイブリッド技術を使うことにより高効率運転が可能となる。	トラクタ以外	-	区分1※区分は省エネルギー法による	-	S-004234	-	-	燃費	標準規格による評価	国土交通省審査に準ずる(都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれによる走行を車種等によって異なる割合で合算した燃費値)	国土交通省審査で定める計算式		国土交通省審査に準ずる(都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれによる走行を車種等によって異なる割合で合算した燃費値)	国土交通省審査で定める試験条件				
								区分2※区分は省エネルギー法による	-	S-004236	-												
								区分3※区分は省エネルギー法による	-	S-004237	-												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
														単位	名称	準拠する規程	規程の名称	計算式	準拠する規程	規程の名称	説明		
						区分4※区分は省エネルギー法による	-	S-004238	-														
						区分5※区分は省エネルギー法による	-	S-004239	-														
L-000635	運輸	自動車	自動車 (電気型)	電気自動車(乗用車)	従来の内燃機関のかわりに、バッテリーに充電した電力を動力源としてモーターで走行する自動車。	軽自動車	-	S-004241	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						軽自動車	-	S-004241	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						ワゴン	-	S-004242	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
L-000643	家庭	給湯	給湯器 (ヒートポンプ)	家庭用エコキュート	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃以上の高温沸き上げ可能な高効率な給湯システム。ヒートポンプユニットと給湯(貯湯)ユニットで構成されている。	一般地仕様、少人数世帯、保温あり	貯湯容量	185L	●	S-004244	2.8	-	年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						一般地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-004246	4	-	年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						一般地仕様、標準世帯、保温あり、多缶	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-004248	3	-	年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						一般地仕様、標準世帯、保温なし、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-004250	3.3	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						寒冷地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-004252	3.3	-	寒冷地年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						寒冷地仕様、標準世帯、保温なし、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-004253	2.9	-	寒冷地年間給湯効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
L-000644	家庭	給湯	給湯器 (ヒートポンプ)	多機能ヒートポンプ給湯機	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃以上の高温沸き上げ可能な高効率な給湯システム。ヒートポンプユニットと給湯(貯湯)ユニット、床暖房端末で構成されている。1台のヒートポンプによって給湯、および床暖房が可能であるため、高効率化が可能。	一般地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	○	S-004254	3.9	-	年間給湯保温効率(床暖房部分除く)	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						寒冷地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	○	S-004256	3	-	寒冷地年間給湯保温効率(床暖房部分除く)	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
L-000645	家庭	給湯	給湯器 (ガス式)	ガス温水機器 (エコジョーズ)	ガスを燃料としたバーナによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機器。	給湯専用機	-	S-004260	95	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2109:2010R	家庭用ガス温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法
						暖房給湯兼用機	-	S-004261	93	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2112:2011及びJISS2109:2010R	家庭用ガス温水給湯機及び家庭用ガス温水機器	JISS2112:2011及びJISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法
						暖房専用機	-	S-004263	87	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2112:2011	家庭用ガス温水給湯機	JISS2112:2011に準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法
						風呂給湯兼用機	-	S-004264	95.1	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2109:2010R	家庭用ガス温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
														単位	名称	標準規格 による評価	規格の名称	標準する規格	規格の名称	標準	説明
L-000646	家庭	給湯	コーゼンレーション	家庭用燃料電池 (エネファーム・PEFC)	燃料電池は燃料から直接電気エネルギーを取り出すことができ、化石燃料を燃焼させる従来の発電システムに比べて、高い発電効率、優れた環境特性、排熱利用による高い総合効率、量産による低コスト化の可能性等の特長を持つ。発電の原理は、電解質を挟んだ二つの電極に酸素と水素を供給して電気と熱を発生させるというものである。PEFC（固体高分子形燃料電池）は、電解質に固体高分子を用い、動作温度は80～100℃、白金が触媒として使われており、都市ガス、LPG（液化石油ガス）を燃料としている。排熱効率が高く、SS（Daily Start and Stop）が容易である。ここでは、主に家庭用として用いられる製品を取り扱う（現行販売製品の電気の定格出力は1kW以下）。	-	-	-	●	S-004266	95	-	総合効率	標準規格による評価	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	
						-	-	-	●	S-004268	39	-	発電効率	標準規格による評価	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	
L-000647	家庭	給湯	コーゼンレーション	家庭用燃料電池 (エネファーム・SOFC)	SOFC（固体酸化燃料電池）は、電解質にセラミックを用い、動作温度は700～750℃である。発電効率が高く24時間運転が多い。ここでは、主に家庭用として用いられる製品を取り扱う（現行販売製品の電気の定格出力は1kW以下）。	-	-	-	○	S-004269	87	-	総合効率	標準規格による評価	JISC8841-3:2011	小形固体酸化燃料電池システム-第3部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841-3:2011	小形固体酸化燃料電池システム-第3部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠	
						-	-	-	●	S-004270	52	-	発電効率	標準規格による評価	JISC8841-3:2011	小形固体酸化燃料電池システム-第3部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841-3:2011	小形固体酸化燃料電池システム-第3部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠	
L-000648	家庭	厨房	冷凍冷蔵庫	電気冷蔵庫	冷媒を用いて圧縮-凝縮-膨張-蒸発の冷凍サイクルを繰り返し行うことにより庫内を冷却する冷蔵庫。インバータ制御の高効率コンプレッサーと熱伝導が小さい真空断熱材を使用することにより消費電力を削減することが可能である。（大型冷蔵庫の一部では既に採用されている）冷媒と断熱材にフロンを使用していない冷蔵庫のことを、ノンフロン冷蔵庫と呼び、現在出荷されている家庭用冷蔵庫のほとんどはイソブタン（冷媒）、シクロペンタン（断熱材発泡剤）を使用したノンフロン冷蔵庫である。冷蔵庫の冷却方法には直冷式と間冷式があり、一般に直冷式のほうが効率が低い。しかし、日本は湿度が高く、冷却器表面に霜がついて冷却能力が落ちるため、間冷式が主流である。	-	定格内容積	140L以下	-	S-004271	115	-	年間消費電力量	標準規格による評価	JISC9801-3:2015	家庭用電気冷蔵庫及び電気冷凍庫の特性及び試験方法-第3部：消費電力量及び内容積の算出	JISC9801-3:2015に準拠	JISC9801-3:2015	家庭用電気冷蔵庫及び電気冷凍庫の特性及び試験方法-第3部：消費電力量及び内容積の算出	JISC9801-3:2015に準拠	
						-		140L超200L以下	-	S-004272	284										
						-		200L超250L以下	-	S-004273	319										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件						
												単 位	名 称		準拠する規程	規程の名称	計算式	準拠する規程	規程の名称	説 明			
							250L超300L以下	-	S-004274	350													
							300L超350L以下	-	S-004275	259													
							350L超400L以下	-	S-004276	360													
							400L超450L以下	-	S-004277	263													
							450L超500L以下	-	S-004278	250													
							500L超	-	S-004279	269													
L-000649	家庭	照明	照明器具	LED照明器具 (家庭用)	蛍光灯や白熱灯と比較して高効率で長寿命な白色LED(発光ダイ オード)を光源に使用した照明器具が普及している。LED 照明は、 主に直付け(シーリングカバー付型、ダウンライト型、電球型)があ り、他にスポットライト型、ブラケット型などもある。LED 素子 が器具に取り付けられ、ランプ交換は無いものが大半である。光 の広がり(ビームの開き)を広くしたもの、発光色を切り替えるもの 等が登場している。一般的には、「昼白色、電球色」よりも「昼 光色、昼白色、白色」の方がエネルギー効率 (lmW) は高くな る。	シーリングライト型	適用畳数	～4.5畳	-	S-004282	-	-	固有エネル ギー消費効 率	標準規格 による評 価	JISC8105- 3:2011、 JISC8105- 5:2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	JISC8105- 3:2011、 JISC8105- 5:2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、 JISZ8113:1998に準拠			
								～6畳	○	S-004283	155.4												
								～8畳	●	S-004285	160.4												
								～10畳	○	S-004286	156												
								～12畳	●	S-004287	160.3												
								～14畳	●	S-004288	155.1												
							ダウンライト型、昼白色、 電球色、配光角30°以下	-	-	S-004290	-	-	固有エネル ギー消費効 率	標準規格 による評 価	JISC8105- 3:2011、 JISC8105- 5:2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	JISC8105- 3:2011、 JISC8105- 5:2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、 JISZ8113:1998に準拠			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		説明			
														単位	名称	準拠する規格	規格の名称		準拠する規格	規格の名称	
										S-004292	93.3	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	
										S-004294	100	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	
										S-004295	85.5	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	
										S-004297	106	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	
										S-004299	105	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	
										S-004300	125.1	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	
										S-004302	138.7	-									
										S-004303	133.4	-									
										S-004304	100	-									
										S-004305	137.4	-									
										S-004307	-	-									
										S-004308	93.4	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			測定単位						評価方法の タイプ		計算方法		試験条件		試験条件				
						単位	名称	標準規格 による評価				標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価		
						電球形LEDランプ組込型、 昼白色、昼光色、白色、電 球形LEDランプ2灯以上				○	S-004310	84.4		-	固有エネルギー消費効 率	標準規格 による評価	JISC8105- 3:2011、 JISC8105- 5:2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 選、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	JISC8105- 3:2011、 JISC8105- 5:2011及び JISZ8113:19 98	照明器具一 第3部：性 能要求事項 選、照明器 具一第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3:2011、 JISC8105-5:2011及び、 JISZ8113:1998に準拠
L-000650	家庭	断熱	窓	Low-E複層ガラ ス（家庭用）	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティング することで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うこと によって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるよ うになる。主に住宅等に導入されている。	新築用	-	-	○	S-004312	2.5		-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	
L-000651	家庭	断熱	窓	三層Low-E複層 ガラス（家庭 用）	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属 膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラ ス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行 うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	新築用	-	-	○	S-004313	0.8		-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	
L-000652	家庭	断熱	窓	真空Low-E複層 ガラス（家庭 用）	真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすることで、 放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによ って、より少ないエネルギーで空調を行うことができるよ うになる。主に住宅等に導入されている。	新築用	-	-	○	S-004314	0.74		-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISR3107- 1998及び JISR3209- 1998、ただ し真空ガラ スについて は、複層ガ ラスの性能 の向上に関 する熱損失 防止建築材 料製造事業 者等の判断 の基準等 （平成26年 11月28日経 済産業省告 示第235号）	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等（平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号）	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空 ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関 する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基 準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235 号）に準拠	JISR3107- 1998及び JISR3209- 1998、ただ し真空ガラ スについて は、複層ガ ラスの性能 の向上に関 する熱損失 防止建築材 料製造事業 者等の判断 の基準等 （平成26年 11月28日経 済産業省告 示第235号）	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等（平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号）	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空 ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関 する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基 準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235 号）に準拠	
L-000653	家庭	断熱	窓	アタッチメント 付きLow-E複層 ガラス（家庭 用）	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティング することで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメン トにより、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、 大がかりな工事を必要としない。断熱を行うことによって、よ り少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住 宅等に導入されている。	リフォーム用	-	-	○	S-004316	2.6		-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	
L-000654	家庭	断熱	窓	真空ガラス（家 庭用）	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガ ラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を 行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	-	-	○	S-004317	1		-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISR3107- 1998及び JISR3209- 1998、ただ し真空ガラ スについて は、複層ガ ラスの性能 の向上に関 する熱損失 防止建築材 料製造事業 者等の判断 の基準等 （平成26年 11月28日経 済産業省告 示第235号）	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等（平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号）	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空 ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関 する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基 準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235 号）に準拠	JISR3107- 1998及び JISR3209- 1998、ただ し真空ガラ スについて は、複層ガ ラスの性能 の向上に関 する熱損失 防止建築材 料製造事業 者等の判断 の基準等 （平成26年 11月28日経 済産業省告 示第235号）	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等（平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号）	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空 ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関 する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基 準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235 号）に準拠	
L-000655	家庭	断熱	窓	現増施工型後 付けLow-E複層 ガラス（家庭用）	既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼ることで放射による熱 移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ない エネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	○	S-004319	1.6		-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標																					
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	標準規格		計算方法		試験条件															
														単位	名称	標準規格 による評価	規格の名称	計算式	標準規格 による評価	規格の名称	試験条件	説明											
L-000656	家庭	断熱	窓	薄型Low-E複層ガラス(家庭用)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントを使用せずにガラス部分のみを既存サッシに取り付けることができる。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	-	-	o	S-004323	2.5	-	熱貫流率	標準規格による評価	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998	複ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998に準拠	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998	複ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:1998及びJIS R3209:1998に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+K/2.5+FL3のガラス構成における数値を示す。													
L-000657	家庭	空調	窓	Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、樹脂製のサッシを組み合わせた窓。	FIX	-	-	●	S-004324	1.3	-	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びびドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びびドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠													
																					引き違い	●	S-004326	1.46	-	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びびドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びびドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
																					縦すべり出し	●	S-004327	1.3	-	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びびドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びびドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-000658	家庭	空調	窓	Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、アルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製(室外側)と樹脂製(室内側)のサッシを室内側の結露の発生を軽減や断熱性の向上を目的に一体化したものである。	FIX	-	-	●	S-004329	1.52	-	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びびドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びびドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠													
																					引き違い	●	S-004330	1.7	-	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びびドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びびドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
												単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	標準規格 による評価	規格の名称	標準規格 による評価	規格の名称		
										S-004332	1.52	-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの断熱 性能-熱貫 流率の計算 -第1部：一 般及び窓及 びドアの断 熱性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの断熱 性能-熱貫 流率の計算 -第1部：一 般及び窓及 びドアの断 熱性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-000659	家庭	空調	窓	三層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、樹脂製のサッシを組み合わせた窓。	FIX	-	-	-	S-004334	0.75	-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの断熱 性能-熱貫 流率の計算 -第1部：一 般及び窓及 びドアの断 熱性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの断熱 性能-熱貫 流率の計算 -第1部：一 般及び窓及 びドアの断 熱性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
										S-004333	1.06	-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの断熱 性能-熱貫 流率の計算 -第1部：一 般及び窓及 びドアの断 熱性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの断熱 性能-熱貫 流率の計算 -第1部：一 般及び窓及 びドアの断 熱性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
										S-004335	0.79	-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの断熱 性能-熱貫 流率の計算 -第1部：一 般及び窓及 びドアの断 熱性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの断熱 性能-熱貫 流率の計算 -第1部：一 般及び窓及 びドアの断 熱性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-000835	家庭	空調	窓	三層Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、アルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製(室外側)と樹脂製(室内側)のサッシを室内側の結露の発生や断熱性の向上を目的に一体化したものである。	FIX	-	-	-	S-004336	1.03	-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの断熱 性能-熱貫 流率の計算 -第1部：一 般及び窓及 びドアの断 熱性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの断熱 性能-熱貫 流率の計算 -第1部：一 般及び窓及 びドアの断 熱性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
										S-004339	1.22	-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの断熱 性能-熱貫 流率の計算 -第1部：一 般及び窓及 びドアの断 熱性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの断熱 性能-熱貫 流率の計算 -第1部：一 般及び窓及 びドアの断 熱性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	標準する規格		規格の名称		計算方法		標準する規格		規格の名称		試験条件 説明
												単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称						
										S-004341	1.03	-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011に準拠	2.2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。				
L-000836	家庭	空調	窓	五層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	樹脂（塩化ビニル等）等の断熱率が低いフレームと、多層の密閉中空層をもったガラスからなる。中空層には断熱ガス（アルゴンガス、クリプトンガス等）を充填することでガラスの断熱率の高さを補う構造。現在日本国内では、樹脂フレームを用いた開口部には断熱性能が低いものから順に、1枚のガラスを用いたもの、2枚のガラス（一つの密閉中空層）を用いたもの、3枚のガラス（二つの密閉中空層）を用いたもの、5枚のガラス（四つの密閉中空層）を用いたものが使用されており、2枚のガラスを用いたものが最も多く流通している。今後は省エネ基準義務化等が予定されていることから、さらなるガラスの多層化が予想される。従来品と比較して高い断熱性能を持つことから、特に寒冷地の戸建住宅への採用に相応しい。	FIX	-	-	-	S-004343	0.55	-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011に準拠	2.2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。				
										S-004345	-	-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011に準拠	2.2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。				
										S-004346	0.55	-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011に準拠	2.2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。				
L-000837	家庭	空調	窓	真空ガラス・樹脂サッシ	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラスと樹脂サッシを組み合わせた窓。	FIX※右記の水準は、一般社団法人リビングアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	-	S-004348	1.09	-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011に準拠	2.2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。					
										S-004350	1.38	-	年間給湯保 温効率(太陽熱部分除く)	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011	建員の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及び JISA2102-2.2011に準拠	2.2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。				

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	標準規格		計算方法		標準規格		試験条件	
														単位	名称	標準規格 による評価	規格の名称	計算式	標準規格 による評価	規格の名称	試験条件
										S-004352	1.19	-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	2.2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-000838	家庭	空調	窓	真空ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラスとアルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製（室外側）と樹脂製（室内側）のサッシを室内側の結露の発生や断熱性の向上を目的に一体化したものである。					S-004353	1.32	-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	2.2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
										S-004354	1.66	-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	2.2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
										S-004355	1.59	-	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部：フ レームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	2.2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-000609	家庭	空調	玄関ドア	金属製玄関ドア	住宅の玄関に使用する。アルミニウムまたはスチールを主材料としたドアにおいて、枠の内側に樹脂を使用して中空部に断熱材を充填、また扉も同様に中空部に断熱材を充填する事で玄関ドアの熱貫流率を低くすることができる。熱貫流率が低い製品だと冷暖房負荷及びCO2の排出量が削減できる。	引き戸				S-004516	0.89	-	熱貫流率	標準規格 による評価	JIS4710:2015、 JISA2102- 1.2015、 JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第2部：フ レームの 数値計算方 法	標準規格による評価	JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	窓及びドア の熱性能- 熱貫流率の 計算-第1 部：一般 及び窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第2部：フ レームの 数値計算方 法	JIS4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	2.2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-000839	家庭	空調	断熱材	断熱材(家庭用・押出法ポリスチレンフォーム)	スチレン樹脂・発泡剤・難燃剤等を押出機中で混和・溶融し、大気中に連続的に押し出して発泡させ、成型後、板状製品に裁断加工することで製造する。					S-004356	0.022	-	熱伝導率	標準規格 による評価	JISA9511:2015、 JISA9521:2014	発泡プラスチック保温材または建築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:2015、 JISA9521:2014	発泡プラスチック保温材または建築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠
L-000840	家庭	空調	断熱材	断熱材(家庭用・グラスウール)	原材料を1400℃程度の高温で溶解、スプナーと呼ばれる繊維化装置に孔を開けることにより遠心力で繊維化し、結束剤を添加し綿状にすることで製造する。	天井用				S-004358	0.034	-	熱伝導率	標準規格 による評価	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ		計算方法		試験条件		
												単位	名称	標準規格 による評 価	準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	試験条件
						壁用	-	-	-	S-004360	0.032	-	熱伝導率	標準規格 による評 価	JISA9521:20 14	建築用断熱 材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:20 14	建築用断熱 材	JISA9521:2014に準拠
L-000841	家庭	空調	断熱材	真空断熱材(家 庭用)	家庭用冷蔵庫に使用されている、真空断熱材を使用した断熱材。 従来の断熱材と比較して薄いため、天井や壁、床等への部分断熱 等のリフォーム(内貼断熱工法)に向く。	-	-	-	●	S-004364	0.002	-	熱伝導率	標準規格 による評 価	JISA1412:20 16	熱絶縁材の 熱抵抗及び 熱伝導率の 測定方法	JISA1412:2016に準拠	JISA1412:20 16	熱絶縁材の 熱抵抗及び 熱伝導率の 測定方法	JISA1412:2016に準拠
L-000842	家庭	動力他	洗濯機	洗濯乾燥機	洗濯乾燥機とは、洗濯機と衣類乾燥機が一体化した機器である。 ヒートポンプシステム(ユニット)が熱交換した熱で衣類を乾燥し、 乾燥時に発生する水蒸気もヒートポンプシステム(ユニット)により 冷却して除湿している。乾燥時の温度は約70℃前後である。	-	-	-	○	S-004137	0.59	-	消費電力量	標準規格 による評 価	-	一般社団法 人日本電機 工業会・自 主基準「洗 濯性能評価 方法」「乾 燥性能評価 方法」	一般社団法人日本電機工業会・自主基準「洗濯性 能評価方法」「乾燥性能評価方法」で定める計算 式	-	一般社団法 人日本電機 工業会・自 主基準「洗 濯性能評価 方法」「乾 燥性能評価 方法」	一般社団法人日本電機工業会・自主基準「洗濯性 能評価方法」「乾燥性能評価方法」で定める試験 条件
L-000846	家庭	エネルギー マネジメント	エネルギー マネジメント システム	HEMS(情報提 供サービス・家 電全般)	一般家庭等での省エネ効果を高めるエネルギー管理システム、及 び同システムを用いたサービスのうち、家庭全体のエネルギー消 費状況の把握や省エネ・節電を目的とした情報提供サービス。	-	-	-	○	S-004142	-	-	エネルギー 消費効率	具備機能 による評 価	-	-	-	-	-	-
L-000848	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	ルームエアコン	冷媒による圧縮・凝縮・膨張・蒸発のヒートポンプサイクルを繰り返 すことにより、室内を冷房あるいは暖房する空気調和機。	-	冷房能力	2.2kW	●	S-004155	7.6	-	通年エネル ギー消費効 率(APF)	標準規格 による評 価	JISC9612:20 05	ルームエア コンディ ション	JISC9612:2005に準拠	JISC9612:20 05	ルームエア コンディ ション	JISC9612:2005に準拠
								2.5kW	●	S-004161	7.6									
								2.8kW	●	S-004165	7.5									
								3.6kW	●	S-004169	7.6									
								4.0kW	●	S-004173	7.9									
								4.5kW	○	S-004177	6.8									
								5.0kW	○	S-004183	6.2									
								5.6kW	●	S-004185	7.1									
								6.3kW	●	S-004190	6.9									
								7.1kW	●	S-004193	6.5									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標														
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件								
												単位	名称		基準する規程	規程の名称	計算式	基準する規程	規程の名称	試験条件	説明					
							8.0kW	-	S-004195	6.2																
							9.0kW	-	S-004202	5.5																
L-000849	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	ヒートポンプ冷 温水システム	空気熱源を利用するヒートポンプ式の冷水水冷暖房機。暖房時は コンプレッサで圧縮した気相冷媒を凝縮器で凝縮させることによ り温熱を、冷房時は圧縮-凝縮-膨張体の液相冷媒を蒸発器で高熱さ せることにより冷熱を得る。ヒートポンプ方式を採用しているた め、冷温熱を高効率に得ることができる。従来は灯油を燃焼させ 暖房するため、一般的なボイラーの効率が80%であるのに対し、 ヒートポンプ方式を用いることで高い効率となる。導入先は主に 家庭向けとなる。	加熱能力	4.0kW以下	-	S-004208	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を次のとおり設定することを条件とする。戻り 水温(入水温度): 25℃、行き水温(出湯温度): 40℃、乾球温度: 7℃、湿球温度: 6℃			
							4.0kW超6.0kW以下	-	S-004214	-																
							6.0kW超7.0kW以下	-	S-004216	-																
							7kW超12kW以下	-	S-004222	-																
							12.0kW超	-	S-004227	-																
						行き水温(出湯温度)15℃	冷却能力	4.0kW以下	-	S-004233	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を以下のとおり設定することを条件とする。 行き水温(出湯温度): 15℃ 乾球温度: 35℃ 湿球 温度: 24℃ 流量: 6.4L/min		
							4.0kW超5.6kW以下	-	S-004235	-																
							5.6kW超7.2kW以下	-	S-004240	-																
							7.2kW超	-	S-004243	-																
						行き水温(出湯温度)7℃	冷却能力	4.0kW以下	•	S-004245	3	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度を以下の とおり設定することを条件とする。戻り水温 (入水温度): 12℃ 行き水温(出湯温度): 7℃ 乾球温度: 35℃		
							4.0kW超5.6kW以下	•	S-004247	2.84																
							5.6kW超7.2kW以下	•	S-004249	3																
							7.2kW超	-	S-004251	-																

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ		計算方法		試験条件				
													単位	名称	標準条件 による評 価	標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	説明
L-000850	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	ヒートポンプ式 温水床暖房	空気熱源ヒートポンプ式の温水床暖房機。コンプレッサーで圧縮した気相冷媒を冷媒/水熱交換器内で蒸発させることにより温熱を得る。四方弁の切り替えにより冷熱を供給するタイプも存在する。ヒートポンプ方式を採用しているため、温熱を高効率に得ることができる。	5kW以下	●	S-004255	4.62 *	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を次のとおり設定することを条件とする。戻り水温(入水温度): 25℃、行き水温(出湯温度): 40℃、乾球温度: 7℃、湿球温度: 6℃		
						5kW超7kW以下	○	S-004257	4.32 *												
						7kW超10kW以下	●	S-004258	4.01 *												
L-000851	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	ルームエアコン 付温水床暖房	空気熱源ヒートポンプに温水床暖房ユニットとルームエアコンディショナが付加された機器。暖房時は床暖房とエアコンの組み合わせ運転を主に行う。負荷の大きな立ち上がり時にはエアコンで急速暖房を行い、床暖房の高温送水による効率の低下を抑制。安定時には床暖房の送水温度を下げることも、エアコンも省エネ運転とするなどの制御により高効率化を図る。冷房時はエアコンの単独運転となる。	5.0kW	○	S-004262	4.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を次のとおり設定することを条件とする。戻り水温(入水温度): 30℃、行き水温(出湯温度): 35℃、乾球温度: 7℃、湿球温度: 6℃		
						6.7kW	○	S-004265	4.32												
						床暖房単独運転	加熱能力	8.7kW	●											S-004267	4.01
L-000852	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	マルチタイプ温 水床暖房	複数の部屋に設置された温水床暖房ユニットやルームエアコンディショナ等と空気熱源ヒートポンプを組み合わせて使用する機器。1台の空気熱源ヒートポンプが複数の部屋の空調機器に接続できるため、高効率化が可能。	5.0kW	○	S-004280	3.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を次のとおり設定することを条件とする。戻り水温(入水温度): 25℃、行き水温(出湯温度): 40℃、乾球温度: 7℃、湿球温度: 6℃		
						7.0kW	○	S-004281	3.91												
L-000853	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 地中熱利 用)	地中熱ルームエ アコン	地中熱を利用し、冷媒による圧縮-凝縮-膨張-蒸発のヒートポンプサイクルを繰り返すことにより、室内を冷房あるいは暖房する空気調和機。冬季は外気温度より高い温度の熱源を、夏季は外気温度より低い温度の熱源を利用することで年間を通じて高効率な運転が可能。	冷房能力	●	S-004427	4	-	-	-	-	-	-	-	-	JISC9612:2005に準拠	JISC9612:2013	ルームエアコンディショナ	JISC9612:2005に準拠。ただし、地中戻り水温(探熱温度)については20℃とする。
L-000854	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 地中熱利 用)	地中熱ヒート ポンプ冷温水シ ステム(ハイブ リッド式)	空気熱源と地中熱源の2種類の熱源の切り替え可能なヒートポンプ式の冷温水冷暖房機。圧縮-凝縮-膨張-蒸発のヒートポンプサイクルを利用して、冷暖房するシステム。暖房時はコンプレッサーで圧縮した気相冷媒を凝縮器で冷媒/水熱交換器内で凝結させることにより温熱を、冷房時は圧縮-凝縮-膨張後の液相冷媒を蒸発器で液相冷媒を冷媒/水熱交換器内で蒸発させることにより冷熱を得る。ヒートポンプ方式を採用しているため、冷温熱を高効率に得ることができる。従来型は灯油を燃焼し暖房するため、一般的なボイラーの効率が90%であるのに対し、ヒートポンプ方式を用いることで高い効率となる。導入先は主に家庭向けとなる。	8.0kW	●	S-004429	4.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、地中戻り水温(入水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を次のとおり設定することを条件とする。地中戻り温度(探熱温度): 15℃、行き水温(出湯温度): 40℃、乾球温度: 7℃、湿球温度: 6℃	
						11.0kW	●	S-004435	4.15												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	前門1	前門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
												単位	名称		標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称	標準する規格	試験条件
L-000855	家庭	空調	空調機 (ペレットストーブ)	密閉式ペレットストーブ(家庭用)	木質ペレットを燃料とする燃焼機器。木質ペレットを燃焼させた熱を熱交換器により室内の空気に伝え、送風ファンにより部屋の隅々まで温風を行き渡らせる。燃焼させた空気は煙突から排気させるため、室内の空気と交ることはなく、清潔な環境を保つことができる。木質ペレットは、カーボンニュートラルであるため、CO2の排出削減が可能。	-	-	-	S-004437	77	-	燃効率	標準条件による評価	JHIAN-5601:2004	木質バイオマス燃焼機器の試験方法通則	$\eta = 100 - (qa + qb + qr)$ 、 η : 燃効率[%]、 qa : 試験燃料中の発熱量当たり排気ガス中の熱損失(Qa)の比、 qb : 試験燃料の熱容量当たり排気ガス中の化学的熱損失(Qb)、 qr : 潜熱による熱損失の割合(燃焼基準) [%]、 qr : 試験燃料の熱容量当たり底部格子を通過し残渣物中に残った可燃性構成物質による熱損失(Qr)の残渣物中の可燃性構成物質による損失の割合(燃焼基準) [%]※発熱量は高位発熱量とする	JHIAN-5601:2004	木質バイオマス燃焼機器の試験方法通則	JHIAN-5601:2004に準拠、試験実施にあたっては、ISO17025に準拠した試験機関による性能評価を行うこととする。	
L-000856	家庭	給湯	給湯器 (ヒートポンプ・太陽熱利用)	太陽熱集熱器対応型エコキュート	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃以上の高温沸きあげ可能な高効率の給湯システムに太陽熱集熱器を組み合わせたシステム。ヒートポンプユニットと給湯(貯湯)ユニット、集熱器で構成されている。日中は、太陽熱を利用するため、高効率化が可能。	一般地仕様、標準世帯、保 温あり、1倍	貯湯容量	320L以上550L未満	○	S-004296	3	-	年間給湯保 温効率(太陽熱部分除 く)	標準規格による評価	JRA4050:2007R	家庭用ヒートポンプ給湯機	JRA4050:2007Rに準拠	JRA4050:2007R	家庭用ヒートポンプ給湯機	JRA4050:2007Rに準拠
								320L以上550L未満	-	S-004298	-			JIS C 9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JIS C 9220:2011に準拠	JIS C 9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JIS C 9220:2011に準拠ただし、以下のとおり設定することを条件とする。・着霜期高温条件は、外気温(乾球温度/湿球温度) 2℃/1℃、水温5℃、沸き上げ温度90℃とする。・冬期給湯保温モード条件は、外気温(乾球温度/湿球温度) 7℃/6℃、水温9℃、沸き上げ温度68℃とする。・着霜期給湯保温モード条件は、外気温(乾球温度/湿球温度) 2℃/1℃、水温5℃、沸き上げ温度68℃とする。・夜間消費電力量比率は、80%とする。	
						一般地仕様、標準世帯、保 温あり、多倍	貯湯容量	320L以上550L未満	○	S-004301	3	-	年間給湯保 温効率(太陽熱部分除 く)	JIS C 9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JIS C 9220:2011に準拠	JIS C 9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JIS C 9220:2011に準拠	
								320L以上550L未満	-	S-004306	-			JIS C 9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JIS C 9220:2011に準拠	JIS C 9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JIS C 9220:2011に準拠ただし、以下のとおり設定することを条件とする。・着霜期高温条件は、外気温(乾球温度/湿球温度) 2℃/1℃、水温5℃、沸き上げ温度90℃とする。・冬期給湯保温モード条件は、外気温(乾球温度/湿球温度) 7℃/6℃、水温9℃、沸き上げ温度68℃とする。・着霜期給湯保温モード条件は、外気温(乾球温度/湿球温度) 2℃/1℃、水温5℃、沸き上げ温度68℃とする。・夜間消費電力量比率は、80%とする。	
L-000857	家庭	給湯	給湯器 (ヒートポンプ・ガス式)	ハイブリッド給湯機(家庭用)	ヒートポンプ給湯機とガス給湯器に貯湯タンクを組み合わせた家庭用給湯システム。ヒートポンプ給湯機が記録・学習した湯の使用状況に基づいて、ヒートポンプ給湯機を最も高効率となる沸き上げ温度で稼働させ、湯の使用状況に応じてガス給湯機がバックアップする。これによって過剰貯湯や放熱ロスを低減し、CO2排出削減を実現できる。風呂給湯兼用機、給湯暖房兼用機等がある。	給湯専用機(給湯: ヒート ポンプ、ガス)	-	-	S-004441	-	-	-	年間給湯効 率	標準規格による評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス調間式併用型給湯機(ハイブリッド給湯機)の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス調間式併用型給湯機(ハイブリッド給湯機)の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016に準拠
						給湯暖房兼用機(給湯、暖 房: ヒートポンプ、ガス)	-	-	S-004444	-	-	-	年間給湯効 率	標準規格による評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス調間式併用型給湯機(ハイブリッド給湯機)の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス調間式併用型給湯機(ハイブリッド給湯機)の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016に準拠
						給湯暖房兼用機(給湯: ヒート ポンプ、ガス、暖 房: ガス)	-	-	S-004446	142.3	-	-	年間給湯効 率	標準規格による評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス調間式併用型給湯機(ハイブリッド給湯機)の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス調間式併用型給湯機(ハイブリッド給湯機)の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016に準拠

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称	準拠する規格	規格の名称	試験条件	説明	
										S-004448	142.3		年間給湯効 率	標準規格 による評 価	JGKAS A705-2016	電気ヒート ポンプ・ガ ス瞬間式併 用型給湯機 (ハイプ リッド給湯 機)の年間 給湯効率測 定方法	JGKAS A705-2016	電気ヒート ポンプ・ガ ス瞬間式併 用型給湯機 (ハイプ リッド給湯 機)の年間 給湯効率測 定方法	JGKAS A705-2016に準拠		
L-000858	家庭	給湯	給湯器 (石油 式)	石油温水機器 (エコフィー ル)	石油温水機器は灯油を燃料としたバーナによって加熱した高温の 空気により配管内の水を温める機器である。	給湯用のもの(風呂給湯倉 む)				S-004452	95	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JISS3031:20 09	石油燃焼機 器の試験方 法通則	JISS3031:2009に準拠	JISS3031:20 09	石油燃焼機 器の試験方 法通則	JISS3031:2009に準拠	
						暖房用のもの				S-004455	93	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JISS3031:20 09	石油燃焼機 器の試験方 法通則	JISS3031:2009に準拠	JISS3031:20 09	石油燃焼機 器の試験方 法通則	JISS3031:2009に準拠	
L-000860	家庭	給湯	給湯器 (太陽熱 利用)	真空管形集熱器 (強制循環型太陽 熱給湯器用) (家庭用)	太陽の光エネルギーを熱エネルギーに変え、水などの熱媒に伝える 役割の装置。真空管形は集熱部が真空層を有する二重ガラスで 構成され、真空層が空気対流による熱損失を防ぐことができる。外 気温との温度差が大きい場合でも集めた熱が外へ逃げにくく、 高い効率を維持できる。					S-004457	12694 *	kJ/m2・日	単位面積1日 あたりの集 熱量	標準規格 による評 価	JISA4112:20 11	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	JISA4112:20 11	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	
L-000861	家庭	給湯	給湯器 (太陽熱 利用)	平板形集熱器 (強制循環型太陽 熱給湯器用) (家庭用)	太陽の光エネルギーを熱エネルギーに変え、水などの熱媒に伝える 役割の装置。平板形は集熱部が平板状になっており、表面は透 明な強化ガラス板で覆われている。下部には熱が逃げないよう、 断熱材が施されている。					S-004461	13954 *	kJ/m2・日	単位面積1日 あたりの集 熱量	標準規格 による評 価	JISA4112:20 11	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	JISA4112:20 11	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	
L-000862	家庭	給湯	給湯器 (太陽熱 利用)	蓄熱槽(強制循 環型太陽熱給湯 器用)(家庭 用)	蓄熱槽は、集熱器で集められた熱を熱交換してお湯を蓄える装 置。					S-004465	1.54 *	W/K	熱損失係数	標準規格 による評 価	JISA4113:20 13	太陽蓄熱槽	$KA = (V \times Cp \times p \cdot (\theta_8 - \theta_6)) + (T \times \Delta \theta) \cdot \Delta \theta =$ $((\theta_8 + \theta_6) \cdot Z) + ((\theta_7 + \theta_2) \cdot \dots + 4 \cdot \theta_9) \cdot n)$ n: 試験開始時蓄熱媒体温度[°C] θ ₆ : 試験終了時 蓄熱媒体温度[°C] T: 試験開始から試験終了ま での時間[s] Cp: 蓄熱媒体の定圧比熱[J/(kg・K)] p: 蓄熱媒体の密度[kg/m ³] θ ₈ : 周囲温度[°C] n: 1時 間ごとに測定した周囲温度の測定回数	JISA4113:20 13	太陽蓄熱槽	JISA4113:2013に準拠	
										S-004467	93.2 *	%	有効出湯効 率	標準規格 による評 価	JISA4113:20 13、BLT SO:2015、ま たはSS- TS002	太陽蓄熱 槽、優良性 宅部品性能 試験方法書 太陽熱利用 システム、 または有効 出湯効率試 験	JISA4113:20 13、BLT SO:2015、ま たはSS- TS002	太陽蓄熱 槽、優良性 宅部品性能 試験方法書 太陽熱利用 システム、 または有効 出湯効率試 験	JISA4113:2013、BLT SO:2015、またはSS-TS002 に準拠		
L-000863	家庭	動力他	テレビ	液晶テレビ	液晶テレビとは表示装置に液晶を用いた薄型のテレビ受像機をい う。従来はバックライトにCCFL(Cold Cathode Fluorescent Lamp:冷 陰極管)を用いていたが、近年は発光効率の良いLED(発光ダイオー ド)が主流となっている。	サイズ	液晶 18V、19V 型	-	S-004337	32	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価		省エネ ギー法	省エネルギー法で定める計算式		省エネ ギー法	省エネルギー法で定める試験条件		
							液晶 22V 型	-	S-004338	34											
							液晶 23V、24V 型	-	S-004340	30											
							液晶 26V 型	-	S-004342	-											
							液晶 29V 型	-	S-004344	-											

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件			
												単位	名称		標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	試験条件	説明
									○	S-004442	21.2	%	モジュール 変換効率	標準規格 による評 価	JISC8914:20 05	結晶系太陽 電池モ ジュール 出力測定 方法	JISC8914:2005に準拠	JISC8914:20 05	結晶系太陽 電池モ ジュール 出力測定 方法	JISC8914:2005に準拠	
L-000787	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(シリコン系・多結晶)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。結晶の粒径が数mm程度の多結晶シリコンを利用した太陽電池。変換効率の面では単結晶と比較して低いが、単結晶より製造工程が簡便であるため、効率とコストのバランスが良く、普及が進んでいる。				○	S-004443	16.4	%	モジュール 変換効率	標準規格 による評 価	JISC8914:20 05	結晶系太陽 電池モ ジュール 出力測定 方法	JISC8914:2005に準拠	JISC8914:20 05	結晶系太陽 電池モ ジュール 出力測定 方法	JISC8914:2005に準拠	
L-000788	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(化合物系)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。本項目では、主成分に銅(Cu)、インジウム(In)、ガリウム(Ga)、セレン(Se)を用いた化合物であるCIGS系について記載する。薄膜で省材料などの長所をもち、わずかに2~3μmの厚さであっても光を十分吸収するため、薄膜太陽電池としては高い変換効率が見られる。				●	S-004445	15.1	%	モジュール 変換効率	標準規格 による評 価	JISC8960:20 12	太陽光発電 用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8939:20 13	薄膜太陽電 池モジュ ール	JISC8939:2013に準拠	
L-000789	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(薄膜シリコン)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。薄膜系は、ガラス、金属箔、フィルムなどの上に2~3ミクロンの太陽電池の層を形成させるものである。				○	S-004447	9.6	%	モジュール 変換効率	標準規格 による評 価	JISC8960:20 12	太陽光発電 用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8935:20 05	アモルファ ス太陽電 池モジュ ール出力 測定方 法	JISC8935:2005に準拠	
L-000790	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	トランスレス方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を調整するコンバータ、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時等に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。トランスレス方式は、パワーコンディショナ内の直流電圧調整をコンバータのみで行う方式であり、高周波変圧器絶縁方式と比較し、高効率となるものの電力会社系統との連系には、別途変圧器が必要となる。	出力	10kW未満		○	S-004449	98	%	定格負荷効 率	標準規格 による評 価	JISC8961:20 08	太陽光発電 用パワーコ ンディショ ナの効率測 定方法	$\eta R = P_0 / P_i \times 100$, ηR : 定格負荷効率[%], P_0 : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの出力[kW], P_i : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの入力[kW]	JISC8961:20 08	太陽光発電 用パワーコ ンディショ ナの効率測 定方法	JISC8961:2008に準拠	
							10kW以上		○	S-004450	98.4	%									
L-000791	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	高周波変圧器絶縁方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時等に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。直流電力を交流電力に変換する際に損失が生じることから、変換効率(定格負荷効率)の高いパワーコンディショナの選定が重要となる。高周波変圧器絶縁方式は、パワーコンディショナ内の直流電圧調整をコンバータと変圧器の組み合わせで行う方式であり、トランスレス方式と比較し、電力変換効率は低下するが、パワーコンディショナから出力された電力はそのまま電力会社系統と連系可能となる。				○	S-004451	96.5	%	定格負荷効 率	標準規格 による評 価	JISC8961:20 08	太陽光発電 用パワーコ ンディショ ナの効率測 定方法	$\eta R = P_0 / P_i \times 100$, ηR : 定格負荷効率[%], P_0 : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの出力[kW], P_i : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの入力[kW]	JISC8961:20 08	太陽光発電 用パワーコ ンディショ ナの効率測 定方法	JISC8961:2008に準拠	
L-000798	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	水力発電	プロペラ水車(小水力発電用)	水を取り込むケーシングから案内羽根を経て下向きの水流に変化させ、羽根の軸方向に流れてこれを回転させる。落差と流量変化によって羽根の角度を自動的に調節できる可動羽根のものはカプラン水車として区別され、プロペラ水車は常に一定の角度の固定羽根のものを指す。	出力	200kW未満		○	S-004373	80	%	水車効率	標準規格 による評 価	JEC4002:199 2	水車および ポンプ水車 の効率試験 方法	$\eta = (1,000 \cdot P) \div (g \cdot p \cdot Q \cdot H)$, η : 水車効率[%], P : 水車出力[kW], g : 重力加速度[m/s ²], p : 水の密度[kg/m ³], Q : 流量[m ³ /s], H : 有効落差[m]	JEC4002:199 2	水車および ポンプ水車 の効率試験 方法	JEC4002:1992に準拠	
L-000799	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	水力発電	フランス水車(小水力発電用)	水を取り込むケーシングの中に羽根車(ランナー)を設置し、そこを流れる水の圧力により回転させる水車である。最も一般的な水車で、数10m~数100mの落差に広く使われている。	出力	200kW未満		○	S-004454	85	%	水車効率	標準規格 による評 価	JEC4002:199 2	水車および ポンプ水車 の効率試験 方法	$\eta = (1,000 \cdot P) \div (g \cdot p \cdot Q \cdot H)$, η : 水車効率[%], P : 水車出力[kW], g : 重力加速度[m/s ²], p : 水の密度[kg/m ³], Q : 流量[m ³ /s], H : 有効落差[m]	JEC4002:199 2	水車および ポンプ水車 の効率試験 方法	JEC4002:1992に準拠	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件								
														単位	名称	参照する規格	規格の名称	参照する規格	規格の名称	説明				
L-000803	エネルギー 転換 (再エ ネ)	事業用発 電 (再エ ネ)	地熱発電	温水熱源小型バ イナリー発電設 備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二次媒体を使うため、よ り低温の地熱流体での発電に適しており、地熱流体で温められた 二次媒体の蒸気でタービン回して発電する。生産井から地熱流 体を取り出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸気化し、二次媒体 の蒸気でタービンを回転させ発電する。二次媒体を温めた後の地 熱流体は、還元井から地下に戻し、発電し終わった二次媒体は、 凝縮器で液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器に送る。熱源と して温水を利用する。	100℃未満、200V/220V	出力	3.0kW未満	-	S-004456	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評 価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、P: 送電 端出力[kW]、Q: 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端 出力=(発電端出力) - (作動媒体ポンプ、イン バータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費 電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温 度、冷却水入口温度を次のとおり設定すること を条件とする。温水入口温度: 95℃以下、冷却水入 口温度: 20℃以上				
						3.0kW以上6.5kW未満	-	S-004458	-															
						6.5kW以上45kW未満	•	S-004459	6.2 *															
						45kW以上100kW未満	•	S-004460	6.2 *															
						100kW以上200kW未満	○	S-004462	6.8 *															
						200kW以上300kW未満	-	S-004463	-															
						100℃未満、400V/440V	出力	3.0kW未満	-	S-004464	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評 価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、P: 送電 端出力[kW]、Q: 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端 出力=(発電端出力) - (作動媒体ポンプ、イン バータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費 電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温 度、冷却水入口温度を次のとおり設定すること を条件とする。温水入口温度: 95℃以下、冷却水入 口温度: 20℃以上				
						3.0kW以上6.5kW未満	-	S-004466	-															
						6.5kW以上45kW未満	•	S-004404	6.2 *															
						45kW以上100kW未満	•	S-004413	6.8 *															
100kW以上200kW未満	•	S-004416	6.83 *																					
200kW以上300kW未満	-	S-004417	-																					

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				-	S-004419	-	測定単位	評価方法の タイプ	標準条件 による評価	環境省によ り独自に設 定された方 法	環境省によ り独自に設 定された方 法	計算方法		環境省によ り独自に設 定された方 法	環境省によ り独自に設 定された方 法	試験条件	説明
																				単位	名称				
				100°C以上120°C未満、 200V/220V	出力	3.0kW未満	3.0kW未満	-	S-004419	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評価	環境省によ り独自に設 定された方 法	環境省によ り独自に設 定された方 法	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、P: 送電 端出力[kW]、Q: 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端 出力= (発電端出力) - (作動媒体ポンプ、イン バータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費 電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	環境省によ り独自に設 定された方 法	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温 度、冷却水入口温度を次のとおり設定すること を条件とする。温水入口温度: 95°C以下、冷却水入 口温度: 20°C以上						
						3.0kW以上6.5kW未満		-	S-004420	-															
						6.5kW以上45kW未満		-	S-004421	-															
						45kW以上100kW未満		-	S-004422	-															
						100kW以上200kW未満		-	S-004423	-															
						200kW以上300kW未満		-	S-004424	-															
				100°C以上120°C未満、 400V/440V	出力	3.0kW未満	3.0kW未満	-	S-004409	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評価	環境省によ り独自に設 定された方 法	環境省によ り独自に設 定された方 法	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、P: 送電 端出力[kW]、Q: 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端 出力= (発電端出力) - (作動媒体ポンプ、イン バータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費 電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	環境省によ り独自に設 定された方 法	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温 度、冷却水入口温度を次のとおり設定すること を条件とする。温水入口温度: 115°C以下、冷却水 入口温度: 20°C以上						
						3.0kW以上6.5kW未満		-	S-004410	-															
						6.5kW以上45kW未満		-	S-004412	-															
						45kW以上100kW未満		-	S-004414	-															
						100kW以上200kW未満		-	S-004415	-															
						200kW以上300kW未満		-	S-004411	-															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標														
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				-	S-004367	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評 価	環境省によ り独自に設 定された方 法	環境省によ り独自に設 定された方 法	規格の名称	計算方法		環境省によ り独自に設 定された方 法	規格の名称	試験条件	説明
																					単位	名称				
				120℃以上250℃未満、 200V/220V	出力	3.0kW未満	3.0kW未満	-	S-004367	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評 価	環境省によ り独自に設 定された方 法	環境省によ り独自に設 定された方 法	規格の名称	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、P: 送電 端出力[kW]、Q: 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端 出力= (発電端出力) - (作動媒体ポンプ、イン バータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費 電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	規格の名称	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温 度、冷却水入口温度を次のとおり設定すること を条件とする。温水入口温度: 245℃以下、冷却水 入口温度: 20℃以上						
						3.0kW以上6.5kW未満		-	S-004368	-																
						6.5kW以上45kW未満		-	S-004369	-																
						45kW以上100kW未満		-	S-004370	-																
						100kW以上200kW未満		-	S-004371	-																
						200kW以上300kW未満		-	S-004372	-																
				120℃以上250℃未満、 400V/440V	出力	3.0kW未満	3.0kW未満	-	S-004374	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評 価	環境省によ り独自に設 定された方 法	環境省によ り独自に設 定された方 法	規格の名称	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、P: 送電 端出力[kW]、Q: 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端 出力= (発電端出力) - (作動媒体ポンプ、イン バータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費 電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	規格の名称	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温 度、冷却水入口温度を次のとおり設定すること を条件とする。温水入口温度: 245℃以下、冷却水 入口温度: 20℃以上						
						3.0kW以上6.5kW未満		-	S-004375	-																
						6.5kW以上45kW未満		-	S-004376	-																
						45kW以上100kW未満		-	S-004377	-																
						100kW以上200kW未満		-	S-004378	-																
						200kW以上300kW未満		-	S-004379	-																

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標														
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				認定 番号	L2-Tech 水準	測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法		準拠する規格	規格の名称	試験条件	説明		
														単位	名称				計算式	試験条件						
L-000804	エネルギー 転換	事業用発 電(再工 ホ)	地熱発電	蒸気熱源小型バイ ナリー発電設 備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二次媒体を使うため、よ り低温の地熱流体での発電に適しており、地熱流体で温められた 二次媒体の蒸気でタービン回して発電する。生産井から地熱流 体を取り出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸気化し、二次媒体 の蒸気でタービンを回転させ発電する。二次媒体を温めた後の地 熱流体は、還元井から地下に戻し、発電し終わった二次媒体は、 凝縮器で液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器に送る。熱源と して蒸気を利用する。	200V/220V	出力	3.0kW未満	-	S-004380	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評 価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、P: 送電 端出力[kW]、Q: 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端 出力= (発電端出力) - (作動媒体ポンプ、イン バータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費 電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	蒸気送電端発電効率の算出にあたっては、入口蒸 気温度、出口ドレン温度、冷却水入口温度を次の とおり設定することを条件とする。入口蒸気温 度: 130℃以下、出口ドレン温度: 36℃以上、冷 却水入口温度: 20℃以上						
											3.0kW以上6.5kW未満	-	S-004381	-												
											6.5kW以上45kW未満	-	S-004382	-												
											45kW以上100kW未満	-	S-004383	-												
											100kW以上200kW未満	-	S-004384	-												
											200kW以上300kW未満	-	S-004385	-												
											400V/440V	出力	3.0kW未満	-	S-004386	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評 価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、P: 送電 端出力[kW]、Q: 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端 出力= (発電端出力) - (作動媒体ポンプ、イン バータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費 電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	蒸気送電端発電効率の算出にあたっては、入口蒸 気温度、出口ドレン温度、冷却水入口温度を次の とおり設定することを条件とする。入口蒸気温 度: 130℃以下、出口ドレン温度: 36℃以上、冷 却水入口温度: 20℃以上	
													3.0kW以上6.5kW未満	-	S-004387	-										
													6.5kW以上45kW未満	-	S-004388	-										
													45kW以上100kW未満	-	S-004389	-										
							100kW以上200kW未満	-	S-004390	10.97 *																
							200kW以上300kW未満	-	S-004391	-																

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
														単位	名称	標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	説明
L-000807	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	バイオマス発電	ガスエンジン発電設備(メタン発酵発電用)	バイオメタンガスを燃料にシリンダー内部で燃料の爆発(膨張)を発生させ、その圧力でピストンを往復動させ、その往復動を回転エネルギーに変える発電装置。ストロキオメトリ燃焼(理論空気で混合したガスが完全燃焼する方式)、リーンバーンと呼ばれる希薄燃焼の二つの方式があり、最近では予混合圧縮着火燃焼といわれる高圧縮による自然着火でシリンダー内全体をメラメラと燃える点火プラグを用いないものが環境面や高効率化で注目を集めている。	50Hz	出力	100kW未満	● S-004392	84 *	%	総合効率	標準規格による評価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	$\eta_{out} = \eta_{out} + \eta_h$ (発電端)、 η_{out} : 発電端総合効率[%]、 η_{out} : 発電効率[%]、 η_h : 熱出力効率[%]	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条件とする。		
						100kW以上1000kW未満	○ S-004393	41.8 *	%	発電効率	標準規格による評価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	$\eta_{out} = (3.6 \times P_{out}) \div (H_f \times F) \times 100$ η_{out} : 発電効率[%] P_{out} : 発電出力(発電端) [kW] H_f : 燃料の低位発熱量[MJ/m ³ N] F : 燃料消費量[m ³ N/h]	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条件とする。				
						100kW未満	○ S-004394	32	%	発電効率	標準規格による評価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	$\eta_{out} = \eta_{out} + \eta_h$ (発電端)、 η_{out} : 発電端総合効率[%]、 η_{out} : 発電効率[%]、 η_h : 熱出力効率[%]	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条件とする。				
						100kW以上1000kW未満	○ S-004395	38.8	%	発電効率	標準規格による評価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	$\eta_{out} = \eta_{out} + \eta_h$ (発電端)、 η_{out} : 発電端総合効率[%]、 η_{out} : 発電効率[%]、 η_h : 熱出力効率[%]	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条件とする。				
						60Hz	出力	100kW未満	● S-004396	84 *	%	総合効率	標準規格による評価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	$\eta_{out} = \eta_{out} + \eta_h$ (発電端)、 η_{out} : 発電端総合効率[%]、 η_{out} : 発電効率[%]、 η_h : 熱出力効率[%]	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条件とする。		
						100kW以上1000kW未満	- S-004397	-	%	発電効率	標準規格による評価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	$\eta_{out} = \eta_{out} + \eta_h$ (発電端)、 η_{out} : 発電端総合効率[%]、 η_{out} : 発電効率[%]、 η_h : 熱出力効率[%]	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条件とする。				
L-000808	エネルギー転換	地域熱供給	熱輸送	潜熱蓄熱輸送設備	潜熱蓄熱材(PCM:Phase Change Material)をコンテナに充填し、PCMの融解熱として高密度に熱エネルギーを蓄えて、車輦により広範囲に熱を供給する技術。	蓄熱容量、排熱源温度	蓄熱容量850kWh以上、排熱源温度130℃以上	○ S-004400	11.2 *	[kJ]	エネルギー効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	環境省により独自に設定された方法	$\eta = \frac{Q_{out}}{Q_{in}}$ エネルギー効率 Q_{in} : 投入エネルギー量 Q_{out} : 熱回収に要するエネルギー量 (Ostorage)、+熱輸送に要するエネルギー量 (Otransfer)、+熱供給に要するエネルギー量 (Osupply)、-熱供給量 (Qout) = 需要先に供給した正味の熱供給量	環境省により独自に設定された方法	環境省により独自に設定された方法	エネルギー効率の算出にあたっては、供給距離、車両燃費、供給温度を次のとおり設定することを条件とする。供給距離: 10km、車両燃費: 蓄熱容量850kWh以上 2.5km/l、蓄熱容量850kWh未満 4.0km/l			
						蓄熱容量850kWh以上、排熱源温度130℃未満	○ S-004401	8.8 *	[kJ]	エネルギー効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	環境省により独自に設定された方法	エネルギー効率の算出にあたっては、供給距離、車両燃費、供給温度を次のとおり設定することを条件とする。供給距離: 10km、車両燃費: 蓄熱容量850kWh以上 2.5km/l、蓄熱容量850kWh未満 4.0km/l							
						蓄熱容量850kWh未満、排熱源温度130℃以上	○ S-004402	6.8 *	[kJ]	エネルギー効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	環境省により独自に設定された方法	エネルギー効率の算出にあたっては、供給距離、車両燃費、供給温度を次のとおり設定することを条件とする。供給距離: 10km、車両燃費: 蓄熱容量850kWh以上 2.5km/l、蓄熱容量850kWh未満 4.0km/l							
						蓄熱容量850kWh未満、排熱源温度130℃未満	○ S-004403	4.8 *	[kJ]	エネルギー効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	環境省により独自に設定された方法	エネルギー効率の算出にあたっては、供給距離、車両燃費、供給温度を次のとおり設定することを条件とする。供給距離: 10km、車両燃費: 蓄熱容量850kWh以上 2.5km/l、蓄熱容量850kWh未満 4.0km/l							

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法		準拠する規格	規格の名称	試験条件	
												単位	名称				計算式	説明				
L-000829	廃棄物・リサイクル	リサイクル	リン回収設備	リン回収設備 HAP法（し尿・浄化槽汚泥用）	りん酸を含む汚水の生物処理水に対して、晶析槽においてカルシウム材を添加し、pH調整することによりHAP(ヒドロキシアパタイト、Ca10(PO4)6(OH)2)の結晶を析出させる方法。回収したリンは副産りん酸肥料として再利用可能。	-	-	-	○	S-004405	80 *	%	PO4-P除去率	標準条件による評価	環境省手引き	リン回収・利活用の手引き	(晶析槽入口PO4-P濃度-晶析槽出口PO4-P濃度)/晶析槽入口PO4-P濃度	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 廃棄物対策課	リン回収・利活用の手引き	処理量の内訳 し尿：浄化槽汚泥=4：6、し尿T-P濃度：270mg/L、し尿PO4-P濃度：189mg/L、浄化槽汚泥T-P濃度：150mg/L、浄化槽汚泥PO4-P濃度：60mg/L、混合T-P濃度：198mg/L、混合PO4-P濃度：112mg/L		
L-000830	廃棄物・リサイクル	リサイクル	リン回収設備	リン回収設備 MAP法（し尿・浄化槽汚泥用）	りん酸を含む汚水に対して、晶析槽においてマグネシウム材を添加し、pH調整することによりMAP(リン酸マグネシウムアンモニウム、MgNH4PO4)の結晶を析出させる方法。回収したリンは化成肥料として再利用可能。	-	-	-	○	S-004406	75 *	%	PO4-P除去率	標準条件による評価	環境省手引き	リン回収・利活用の手引き	(晶析槽入口PO4-P濃度-晶析槽出口PO4-P濃度)/晶析槽入口PO4-P濃度	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 廃棄物対策課	リン回収・利活用の手引き	処理量の内訳 し尿：浄化槽汚泥=4：6、し尿T-P濃度：270mg/L、し尿PO4-P濃度：189mg/L、浄化槽汚泥T-P濃度：150mg/L、浄化槽汚泥PO4-P濃度：60mg/L、混合T-P濃度：198mg/L、混合PO4-P濃度：112mg/L		
L-000831	廃棄物・リサイクル	リサイクル	リン回収設備	リン回収設備 MAP法（下水汚泥用）	脱水ろ液からリン回収する従来事例に対し、よりリン含有量の高い下水汚泥からMAP（リン酸マグネシウムアンモニウム）として回収する「MAP法」が平成24/25年度国交省B-DASH採択事業で開発された。回収したリンは配合肥料（化成肥料）として再利用可能。	-	-	-	○	S-004407	90 *	%	PO4-P除去率	標準条件による評価	国土交通省ガイドライン	資料No.805 B-DASHプロジェクト NO.6 2014年8月消化汚泥からのリン除去・回収技術導入ガイドライン（案）	(消化汚泥PO4-P濃度-リン処理PO4-P濃度)/消化汚泥PO4-P濃度	国土交通省国土技術政策総合研究所	資料No.805 B-DASHプロジェクト NO.6 2014年8月消化汚泥からのリン除去・回収技術導入ガイドライン（案）	消化汚泥濃度（TS）：1.7%、消化汚泥T-P濃度：600mg/L、消化汚泥PO4-P濃度：200mg/L		
L-000833	廃棄物・リサイクル	リサイクル	選別機	近赤外線樹脂選別機	プラスチックに近赤外線を照射すると材質により吸収される波長が異なることを利用し、特定の材質の選別を行う。コンベア先端のエアノズルで吹き落とし選別する。PVC,PVDC除去（サーマルリサイクル）やPP,PS,ABS選別（マテリアルリサイクル）に使用される。	-	-	-	○	S-004408	3	種類	選別樹脂種類数	標準条件による評価	環境省交付規定	H27年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（省CO2型リサイクル高度化設備導入促進事業）交付規定	選別樹脂種類数に残渣は含まない	環境省により独自に設定	-	選別純度：99%。（ベルトコンベア幅100mmあたりの樹脂の投入量が50kg以内の場合）		

別紙

No.	設備・機器等	クラス		L2-Tech水準	備考
		条件	能力		
水準1	BEMS（制御サービス・空調・熱源・中央方式）	空気熱源仕様	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすBEMSサービスであること。</p> <p>①冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有</p> <p>②上記①の計測粒度が1分単位以内であること</p> <p>③冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、を説明変数として、合計のエネルギー消費量（熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量の合計）が最小となるような冷水出口温度を（過去の実績データに基づいて）自動で算出できる機能を保有</p> <p>④上記の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有</p> <p>⑤導入可能な施設が、限定されない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。</p> <p>要件0（必須）：導入可能な施設が限定されない</p> <p>要件1：セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出し、それに基づいて自動的にシステムを制御可能</p>
水準2	BEMS（制御サービス・空調・熱源・中央方式）	水熱源仕様	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすBEMSサービスであること。</p> <p>①冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有</p> <p>②上記①の計測粒度が1分単位以内であること</p> <p>③冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度を説明変数として、合計のエネルギー消費量（熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量の合計）が最小となるような冷水出口温度を（過去の実績データに基づいて）自動で算出できる機能を保有</p> <p>④上記③の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有</p> <p>⑤導入可能な施設が、限定されない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。</p> <p>要件0（必須）：導入可能な施設が限定されない</p> <p>要件1：セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出し、それに基づいて自動的にシステムを制御可能</p>
水準3	HEMS（情報提供サービス・家電全般）	-	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすHEMSサービスであること。</p> <p>①対象住宅全体の電力消費量を、30分単位以内で計測できる機能を保有</p> <p>②上記①において計測したエネルギー消費量と、他住宅で計測したエネルギー消費量を比較し、対象住宅全体のエネルギー消費量のランキング情報を表示できる機能を保有</p> <p>③上記②のランキング情報を、対象住宅におけるユーザー属性別※に表示できる機能を保有 ※地域別、間取別、家族構成別の3種いずれも</p> <p>④導入可能な住宅が、単一の住宅メーカーが供給する住宅に限定されない</p> <p>⑤導入の際にインターネット接続サービスへの加入が必要な場合、集合住宅向け全戸一括契約型へのサービス加入を前提としない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「HEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、HEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い家電全般を対象とした情報提供サービスを認証対象として設定した。文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記のいずれかとし、本リストでは「要件0」および「要件3」を対象とし水準を設定している。</p> <p>要件0（必須）：導入可能な住宅が限定的されていない</p> <p>要件1：現状のエネルギー消費量に応じて省エネアドバイス、および目標の省エネ量が提供可能</p> <p>要件2：現状の光熱水道費に応じて節約アドバイス、および目標の節約額を提供可能</p> <p>要件3：エネルギー消費量が類似している世帯との比較情報の提供が可能</p> <p>要件4：過去のサービス利用履歴の情報に基づいて、より興味・関心の強い情報の提供が可能</p> <p>要件5：現状のエネルギー消費量が自身の平均的な消費量と比較して多くなったタイミングで、消費量が多いことを閲覧頻度が多い媒体へPush配信可能</p>
水準4	内部熱交換最適化蒸留システム	蒸留塔が高圧部（濃縮部）と低圧部（回収部）とで物理的に分離しており一体型でないもの	-	<p>下記の①および②の条件を満たす蒸留システムであること。</p> <p>①高圧部と低圧部とで熱交換できる機能を保有</p> <p>②蒸留塔内部の熱分布を調整し熱交換率を最適化できる機能を保有</p>	<p>本設備・機器等は、個別受注設計生産されるため標準条件（試験条件、計算方法）を設定し、定量評価する方法はそぐわないと判断し、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、本設備・機器等として求められる機能要件をL2-Tech水準とした。</p>